

京丹後市立幼稚園・学校評価報告書一覧

学校名	学校・園教育目標
1 峰山幼稚園	主体的に活動し、健康な心と体で生きる力を持った幼児の育成
2 網野幼稚園	・幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 ・自分の思いや考えを表現したり、行動できる力を養う。 ・幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的習慣や態度を育てる。 ・常に園内外の安全指導・安全対策に留意する。 ・地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。
3 峰山小学校	教職員の資質能力の一層の向上に努めるとともに、真に「生きる力」の育成を図り保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。
4 吉原小学校	豊かな未来をつくるために、『知恵の輪を広げ、心豊かに伸びていこうとする児童』（校歌の精神）の育成と地域から信頼される学校をめざした教育を進める。
5 五箇小学校	1 学校の教育課題について共通理解を深め、校長主導で機能する学校を作る。 2 児童一人一人にきめ細かな指導を行い、学力向上を目指した取組を進める。 3 職員の資質向上等、学校改善を進め、児童にとって楽しい学校づくりに努める。
6 新山小学校	豊かな心と確かな学力をもち、かしこくたくましく生きぬく子の育成
7 丹波小学校	(1) 学校の教育課題について共通理解を深め、校長主導のもと三者を中心に学校運営の要となる各分掌部会を十分機能させ、教育実践の進行管理を適切に行う。 (2) かけがえのない児童一人一人に寄り添い、肯定的評価を中心としたきめ細かで熱意あふれる真摯な指導を行う。 (3) 学校評価制度、教職員評価制度を活用し、教育活動の見直し、教職員の資質向上等、組織的、計画的、継続的にPDCAサイクルの実践を積み上げ、学校改善を図る。 (4) 家庭や地域社会と連携を深め、開かれた学校、信頼される学校、魅力ある学校づくりに努める。
8 長岡小学校	1 確かな学力の定着を図り、生涯にわたる学習の基盤を育成する。 2 自己・他者を大切にできる態度を培い、基本的人権を尊重する基盤を育成する。 3 考える力を培い、変化の激しい社会に対応できる基盤を育成する。
9 大宮第一小学校	○組織の一員として協働意識をもって自己の役割と責任を果たし、信頼関係を高めながら、児童にとって楽しい学校づくりと、地域、保護者から信頼される学校づくりをめざす。
10 大宮第二小学校	①目指す学校像、目指す授業像、目指す職場像を明らかにして、学校運営に当たる。 ②開かれた学校づくりによる保護者・地域と連携した教育活動を推進する。 ③内容を焦点化し、肯定的変容の見える教職員研修を充実させる。
11 大宮第三小学校	郷土を愛し、豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成
12 網野北小学校	郷土を愛し 進んで学び 心豊かに たくましく生き抜く子
13 網野南小学校	心やさしく 進んで学び きらり輝く子の育成
14 島津小学校	教育目標達成に向けて、教職員、児童がともに生き生きと活動し、目標を明確にして協力し取り組むことによって、資質の向上と実践力を高め、保護者、地域に信頼される学校づくりをめざす。
15 三津小学校	1 一人一人の良さや可能性を引き出し、基礎基本の徹底を図るとともに自ら学ぶ意欲、思考力、表現力、知識・理解などの資質や能力の育成を図る。 2 心の教育の充実 ○温かい人間関係を育てる言語環境作り ○人権教育・道徳教育の充実 3 自己表現できる心と体の育成 4 学校評価・教員評価システムの確立 5 危機管理体制の確立
16 郷小学校	(1) 確かな学力の定着を図り、生涯にわたる学習の基盤を育成する。 (2) 自己・他者を大切にできる態度を培い、基本的人権を尊重する基盤を育成する。 (3) 考える力を培い、変化の激しい社会に対応できる基盤を育成する。
17 橘小学校	児童・保護者及び地域の期待に応える教育を推進するため、教育関係諸法令及び学習指導要領、京都府教育委員会並びに京丹後市教育委員会の示す指導の重点や児童・地域の実態をふまえ、新しい時代を生きるにふさわしい児童の育成を目指す。 そのために、公教育に課せられた使命と責任のもとに生涯にわたる学習の基礎を培うとともに、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を目指した教育実践を推進する。 推進に当たり、創意ある綿密な教育計画の立案と進行管理及び評価を行い、全教職員の協力・協働体制のもとに、日々の教育実践を推進する。また、家庭・地域社会との連携を深め、学校評議員制度や外部評価などを活用して、信頼と協力を基本にした教育活動が展開できるよう努める。 【めざす児童像】 1. たくましく元気な子（体） 2. 知恵を出しがんばる子（知） 3. なかよくやさしい子（徳）
18 豊栄小学校	自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成 ・全教職員が一致した指導体制のもとに、保護者や地域の人たちと協力し合って、心豊かでたくましく、意欲的に学ぶ児童を育成する。
19 間人小学校	しっかり考え、自分の考えや思いを表現できる児童の育成
20 竹野小学校	(1) 授業改善を進め、学力向上を図る教育活動 (2) 児童がのびのびと活動に励む教育活動 (3) 情報発信と関係機関との連携を推進する教育活動
21 宇川小学校	1 教育推進体制の確立 2 豊かな人間関係づくり 3 教育環境づくりと整備 4 地域に開かれた学校づくり 5 特色ある学校づくりの推進
22 吉野小学校	計画的・組織的な学校運営を基盤として生きる力を育成するとともに開かれた特色ある学校づくりを推進し、教育の活性化を図り、学校改善を推進する。

23 溝谷小学校	<p>「挑戦意欲と心の安定」と「確かな学力」を培う</p> <p>(1) 確かな学力を培う基盤として、全教育活動を通して良好な関係づくり、個に応じたベストなかかわりを重視し、豊かなコミュニケーションをとおして心の安定や意欲的に挑戦する、我慢する、最後までやり通す等の逞しい心及び逞しい身体を持った児童を育成する。</p> <p>(2) 確かな学力をつけるため、言葉を大切に、よく聞き、意欲を持って学び、考える力や自分の言葉で伸び伸びと表現できる力、考える力を育む授業づくり及び学習環境づくりを進める。</p> <p>(3) そのために、教職員は豊かな人間性を身に付け、日々研鑽して個々の指導力、実践力を高める。</p>
24 鳥取小学校	<p>1 不登校児童の未然防止（不登校児童「0」の継続）</p> <p>2 小学校の果たす役割への意識の高揚</p> <p>3 若手教職員の人材育成</p>
25 黒部小学校	<p>1 課題について共通理解し、教育実践を組織的に推進し、教育目標の具現化を図る。</p> <p>2 個々や児童相互の関わり合いを大切に、丁寧な感動ある教育を推進し、家庭や地域社会から信頼される学校、児童にとっては、毎日が楽しく魅力ある学校づくりに努める。</p> <p>3 教育者としての専門性や資質能力の向上を図り、意欲的、組織的な研修と実践に努める。</p>
26 野間小学校	<p>保護者や地域との信頼関係の構築を図り、その上に立って、児童が少人数であることの利点を活かした教育活動を推進する。</p> <p>また、野間の自然を十分活かした体験活動を通して、ふるさとを思う心の育成を図る。</p>
27 久美浜小学校	<p>自信と信頼につながる教育実践を組織的に進めていく。</p>
28 川上小学校	<p>意欲にあふれた児童を育成すること</p> <p>小規模校のメリットを生かす。</p> <p>地域の特徴を生かす。</p> <p>【児童の学びのめあて】</p> <p>勉強大好き 友達大好き</p> <p>川上大好き 学校大好き</p>
29 海部小学校	<p>1 一人一人の良さや可能性を引き出し、基礎・基本の徹底を図るとともに、自ら学ぶ意欲や思考・表現力等を向上させる。</p> <p>2 道徳・人権・特別支援教育の充実を図り、思いやりや豊かな心を育む。</p> <p>3 進んで体を鍛え、たくましい心を育てるとともに、基本的生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>4 家庭・地域の願いを受け止め、連携を深めながら、開かれた信頼される学校づくりを目指す。</p>
30 佐濃小学校	<p>児童がお互いの良さを認め合い、学び合っている能力をさらに高め合っていく学校</p>
31 田村小学校	<p>生き生き笑顔で学ぶ学校</p> <p>生き生き笑顔で学ぶ児童</p>
32 神野小学校	<p>① 学力の充実・向上と個性を伸ばす教育の推進</p> <p>② 豊かな人間性と心身ともたくましい子どもの育成</p> <p>③ 安全・安心な学校づくりの推進</p> <p>④ 地域とつながる学校づくりの推進</p> <p>⑤ 信頼される学校づくりの推進</p>
33 湊小学校	<p>・自ら学び、心豊かにたくましく生き抜く児童の育成</p>
34 峰山中学校	<p>1 学力の充実向上</p> <p>2 心の教育の推進</p> <p>3 不登校の未然防止と解消</p> <p>4 特別支援教育の推進</p> <p>5 開かれた学校づくり</p>
35 大宮中学校	<p>1 生涯学習の基盤として、豊かな心とたくましく生きる力の育成をめざし、基礎基本を徹底し、確かな学力を付ける教育活動の充実を図る。</p> <p>2 教養と社会対応力、思いやりの心を持つ視野の広い生徒を育成するため、学校内外での体験活動と生徒指導・教育相談を充実させる。</p> <p>3 体育・スポーツ活動を重視し、挑戦することを通して向上心、忍耐力、協調性等の育成を図る。</p> <p>4 地域・保護者連携を高め、開かれた教育活動を通して信頼される学校づくりを推進する。</p>
36 網野中学校	<p>・意欲的に学び、確かな学力を身につける。</p> <p>・自尊感情を尊び、豊かな心を育てる。</p> <p>・心身を鍛え、克己心を養う。</p> <p>・地域に開かれた学校作りを進める。</p>
37 橋中学校	<p>○基礎基本の学力を身に付け、目標を持って取り組む生徒の育成</p> <p>○思いやりの心を身に付けた生徒の育成</p>
38 間人中学校	<p>1 確かな学力を身につける。</p> <p>2 豊かな心の育成をめざす。</p>
39 宇川中学校	<p>(1) 生徒一人一人に確かな学力の定着を図る教育活動を推進する。</p> <p>(2) 積極的な生徒指導及び協働体制の継続を図る。</p> <p>(3) 道徳の時間を充実させるとともに、体験活動を通して豊かな心を育む。</p> <p>(4) 教育活動全体を通して、健康や体力の向上に努める。</p> <p>(5) 家庭・地域社会と一体となって、信頼される学校づくりを推進する。</p>
40 弥栄中学校	<p>1 一人一人の生徒に確かな学力の定着を図る教育活動の推進</p> <p>2 心の教育の充実を図り、心を揺さぶり、心を鍛え、主体性をはぐくむ教育活動の推進</p> <p>3 自立への歩みを理解し、深い信頼と強い絆のもとに進める不登校の未然防止と解消</p> <p>4 安心・安全で開き、信頼される学校づくりの推進</p>
41 久美浜中学校	<p>「学力の充実」「人間としてのあり方・生き方の指導」について具体的な方針を示し、組織的に指導することで信頼される学校づくりをめざす。</p>
42 高龍中学校	<p>豊かな心で主体性に生き抜く生徒の育成</p> <p>・進んで学習する生徒</p> <p>・命・今・仲間を大切にしている生徒</p> <p>・粘り強く最後までやりきる生徒</p> <p>高龍中学校教育プロジェクトの推進により達成させる。</p>

平成 20 年度 学校評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立峰山幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
主体的に活動し、健康な心と体で生きる力を持った幼児の育成		体験を通し意欲、責任感、豊かな感性の育ちが見られ、保護者の幼稚園教育に対する理解信頼が強まり保護者間の交流も活発になり、親と子の育ちの場となった。幼児が主体性を発揮できる体験活動のあり方を模索したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験、社会体験を充実させ、人と関わる力や豊かな感性、主体的に活動する力の育成 ・異年齢交流保育の推進 ・環境教育の芽生えの心の育成
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 ・指導	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の充実推進 ・指導計画の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、全教職員で月の指導計画の確認と月の反省を行い、意見交流 ・学期末に園と各クラスの総括を行い、意見交流 ・学期末の総括に基づき次学期の具体的な目標や重点指導項目について全教職員が共通理解 	<p>○毎月、指導計画の確認と反省の会議を実施する事により、全教職員で指導計画の共通理解が図れた。</p> <p>○総括に基づく学期の目標を教職員で共通理解するだけでなく子どもや家庭にも知らせた事でより意識も高まり成果も上がった。</p> <p>△職員数が少なく、環境整備や雑務その他により、内容の検討等に費やす時間を十分に確保できにくかった。</p>
健康安全	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的生活習慣の確立 2 食育の推進 3 体力づくり 4 交通安全指導の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1 ・早寝早起き朝ごはんの徹底と生活実態の把握 <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがいの徹底と薄着や戸外遊び、はだしの奨励 ・季節に応じた保健指導の充実 2 ・種からの野菜作りと親子野菜栽培 <ul style="list-style-type: none"> ・クッキング活動の実施 ・米づくりによる食に対する関心意欲の育成 ・蓬団子、切り干し大根、干柿、七草粥など、伝統的な食文化の体験 ・魚の解体見学や釜による炊飯、餅つきなど、豊かな食体験 3 ・山の運動場の活用と週1回の「森の幼稚園」活動による体力向上の取り組み 4 ・保護者と連携し、登降園時の交通安全指導の徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・京丹後市警察の協力を得て道路での親子交通教室の実施 ・交通安全絵馬の作成と公共機関への展示 	<ol style="list-style-type: none"> 1 ○戸外で遊ぶことを好み、主体的に戸外で遊ぶ幼児の姿が見られるようになった。 <ul style="list-style-type: none"> ○すすんで、薄着や裸足で遊ぶ姿が増えた。 ○手洗い検証クリームでの手洗い指導やうがいの奨励等により風邪の流行が少なかった。 2 ○野菜や米、魚など、食材に関する関心が強くなり偏食が減少した。 3 ○長距離の園外保育や山登りも最後まで歩く意欲と体力が育った。 4 ○交通安全意識が強くなり、年長児の徒歩での登降園時のマナーが向上した。 <p>1 △家庭と連携した生活習慣確立指導の実施</p>

特別支援教育	(1)実態と発達課題の全教職員による共通理解 (2)共に育ちあう集団作り	(1)学期毎に個々の幼児の実態と発達課題についてまとめの会議を実施 (2)個々の良さを認め自信を育てると共に、個性を認め合い他者を思いやる集団作り	○個々の幼児の共通理解と協力体制での指導 ○保護者との連携と信頼関係確立に努めた。 △さらに専門機関と連携し研修の充実に努めより適切な指導の確立。
環境教育	・「地球はみんなの宝物」人、もの、自然、命を大切に する心の育成	・飼育栽培活動の実施 ・四季を通し自然とふれあい、森の幼稚園での野外活動の充実 ・クリーンセンター見学とエコ絵本などによる環境意識の高まり ・クリーン作戦によるごみ拾い、親子クリーン作戦の実施	○自然体験の充実や飼育栽培活動により豊かな感性とたくましく生きる力が育まれた。 ○エコ意識が高まり家庭にも影響を与えた。 ○創作環境音楽劇を作成し発表できた。
子育て支援	(1)家庭の教育力向上 (2)保護者間の交流の援助 (3)幼稚園開放	(1)信頼関係の確立と密接な連携 (2)親子での体験活動の場の設定やPTA活動の協力 (3)幼稚園開放を実施し、ポスター掲示や市の広報での参加呼びかけ	○親子体験活動や保護者参加活動で園の理解信頼関係、保護者間の交流が深まった。 △幼稚園開放の回数の検討。
保護者・地域との連携	(1)PTAと連携し親子の体験活動の充実 (2)子育ての基地として信頼され頼りにされる幼稚園 (3)社会体験の充実と地域の人々との交流	(1)・親子遠足、とれとれまつり（稲刈りと収穫祭）、親子クリスマス会、親子森の幼稚園、親子クリーンデー、親子お別れ遠足など保護者参加の体験活動の実施 (2)・月1回の園便りと「園長とおしゃべり会」の実施。月1回以上のクラス便りの発行 ・個人懇談会の実施 ・学期末に保護者に対し教育のまとめをスライドショーを使い実施 ・保護者に「エコヘルスクラブ運動」を呼びかけ実施 (3)・峰山高校園芸科生徒と野菜の種まき交流と峰山高校文化祭プラスバンド部演奏会実施で、高校生と交流 ・京丹後市ジュニア文化祭に出演し、環境に関する創作音楽劇を発表 ・特別養護老人ホームを200円バスで訪問し交流 ・よさこい踊りチームとの交流とフェスタ飛天への出場 ・京丹後市婦人会の指導でゴーヤを植え、緑のカーテン運動実施 ・種から栽培のマリーゴールドのプランターを公共機関に置く ・リンゴ狩り、芋ほり、米栽培体験での生産者との交流 ・登降園時に、すすんで挨拶の奨励	1 ○親子で感動を共有する体験実施により、親子の絆が深まり保護者の子ども理解や園の教育に関心と理解が強くなった。 2 ○園長とおしゃべり会や担任による個人懇談等で保護者と直接対話の機会を設けたことで信頼関係が深まった。 2 ○普段話す機会の少ない年長組のクラス便りの発行回数を多くした事で、年長組の教育活動に対する理解が得られた。 2 ○エコ意識が高まり、歩いて登降園が増え、園庭への駐車が減少した。 3 ○地域の人々への幼稚園教育理解に向けた糸口づくりになった。 ○多くの地域の人々との交流体験を通し、感謝の気持ちを持つことが出来た。 △以前より挨拶する姿が増えたが、引き続きの取り組みが必要である。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・親も子ども育ちあい、子育ての基地として信頼される幼稚園を目指し保護者、地域との連携を引き続き推進する。 ・地域に対し幼稚園教育理解をすすめる為の方法を検討する。 ・挨拶運動をさらに推進し、幼児のコミュニケーション能力の向上と言葉育ての充実に取り組む。 ・体力向上に向け、戸外遊びの充実、主体的な運動活動、森の幼稚園活動の充実を模索する。 		

平成20年度 学校評価報告(幼稚園)

幼稚園名 [京丹後市立網野幼稚園]

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。 ・自分の思いや考えを表現したり、行動できる力を養う。 ・幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的習慣や態度を育てる。 ・常に園内外の安全指導・安全対策に留意する。 ・地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。 		<p>○意図的に自然体験を取り入れ、体感することでその心地良さ、大切さに気付く共に、成長や「食」などの学びにも繋げることができた。</p> <p>○生活リズムが月日を追って安定へと向かいつつあり、自らがすべきことに気付き、実行しようとするようになった。</p> <p>○社会人講師などの協力を得て、豊かな人間性育成の一步を進めることができた。</p> <p>△自分の思いや考えを言葉で表現することには、個人差があり、待ってやったり、繰り返したり、様子を見るなどの継続した指導の必要性がある。家庭へも啓蒙が必要である。</p> <p>△生活習慣・リズム作りは園だけではかなわぬ部分もあり、大きな課題ではあるが、まず「快眠」「快適なめざめ」を実現するために、体を動かすことを意図的に取り入れていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体を十分動かして遊ぶ体験を多く持ち、運動することの楽しさや達成感を味わわせたい。 ・生活習慣の大切さが分かり、幼児なりに自ら、リズムある生活をするように、指導や啓蒙を深める。 ・思いや考えを言葉で表現できるようにする。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 ・指導	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことを意図的に取り入れ、運動することが楽しくなったり、達成感を感じたりする。 ・言葉力を身につける。 <p>以上のような目標に向けて、意図的・具体的な実践を積み重ねる。</p>	<p>(1)キッズサッカーの指導を受ける。 社会人講師による「キッズサッカー」の指導を毎月受ける。(計10回)</p> <p>(2)リズム運動により、体の各部を意識しながら動くことを知る。</p> <p>(3)朝マラソンをする。 体全体の目覚めを狙い、音楽に合わせてみんなで園庭を走る。</p> <p>(4)ラジオ体操をする。 幼児には難しい動きもあるが、ゆっくりじっくり動くラジオ体操は、子どもたちの体全体を動かすことになる。また、楽しんで動くために、リズム遊戯やダンスも取り入れる。</p> <p>(5)生活の中での思いを言葉にする(聞く・話す)。 「暑い(で)脱いでもええか?」「喉渇いたー、お茶(飲んでできます)」等</p> <p>(6)読み聞かせや友達との話し合いの中で語彙数を増やす。</p>	<p>○幼稚園の職員も計画や実践に参加。子どもたちと共にサッカーを楽しみ、応援し、体を動かすことの楽しさを共感していった。サッカーの前に行う運動遊びが子どもたちの心を掴み、サッカー遊びに、無理なく体を動かす呼び水になっていった。</p> <p>○朝マラソンやラジオ体操は、運動会を経てから続けてきた。ラジオ体操は幼児にとってやや難しい動きがあるもの、ゆっくり動くそのリズムは、子どもたちでも確実に動かそうとすることができ、楽しく取り組めた。その後、リズム遊戯やダンスもして楽しんでいる。</p> <p>△春からの成長は著しいものの、簡単な質問でも言葉にできない子ども、戸惑ってしまう子もいる。</p>

健康安全	<ul style="list-style-type: none"> 健康・安全に必要な習慣や態度を身につける。 自ら危険を回避しようとする意識を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)健康な生活に必要な習慣・態度の確立ー食事・衛生など。 (2)交通安全指導 (3)自分の体に関心を持ち、健康な体づくりをする。 (4)危険回避ー避難訓練・安全指導・不審者回避指導 (5)保護者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急連絡網による避難訓練を行った。年によっては何回もお世話になるものの、20年度はそうしたこともなく、一度試しておいて大変よかったと感じた。 △訓練という思いからか、迎えまでに30分以上かかる家もあり。今後理解を得る必要がある。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 障害に負けず、たくましく生きる子どもに育てる。 障害の有無や程度にかかわらず、ごく自然な環境の中で共に育ちあう集団を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)必要に応じてサポーターに補助に当たってもらう。特に5歳児2クラスを中心に週交代でフォローに回る。 (2)幼児の姿を職員全体で共通理解し、必要な援助や支援の計画を作る。個々の子ども別に必要な指導方法を作り、確認、実践する。その後、その計画での実践を話し合い、結果や次への手立てを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の子どもの実態把握をした上で、どの様に接してやるのが良いか、担任が言動を想定しながら関わり方を計画し、話し合っ確認した。職員全員の共通認識となると共に、サポーターの目当てともなり、言葉だけで伝達していた時より、うまく関われるようになった。
(A)子育て支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 園開放 (仲良しスクールの開催) 	<ul style="list-style-type: none"> 平日に開催するときは、各クラスの中で来園してくる親子を受け止める。(全園児での出し物などもあり) 在園児と保護者も参加することができるように、土曜日開催の日も計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> △参加する側の申し込みをしないまま、突然訪問というルーズさが目立ってきている。幼稚園側としても用意万端、受け入れのサービス満点のような取り組みも時には良いが、親の自主性・参加したら学ぶような取り組みもしていく必要がある。
(B)その他	<ul style="list-style-type: none"> 両丹公立幼P・京都府国公立幼Pの会長園であることを、少しでも全会員に学習など、貢献できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度両丹公立幼稚園PTA連絡協議会・会長園並びに京都府国公立幼稚園PTA連絡協議会・会長園を機会に、講演などにたくさんの会員が参加できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○9月に行った「北部研修」には、我園の保護者の3分の1以上が参加。学びの場となった。また、年々PTA活動も難しくなっていくが、府内のPTAの構造上の問題点を話し合う機会も持つことができた。
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 祖父母の年齢の方たちと触れ合う。 社会人講師により、様々な文化や心に触れる取り組みをする。 花の種蒔きを教えてもらう高校生との取り組みから、安全見守りの地域とのかかわり2年目。花の輪を続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)高齢者大学との交流 ～ゆっくりじっくり話そう！遊ぼう！ (2)お茶会・お琴の会・図書館や保護者による読み聞かせボランティア・丹後園訪問など ～教師以外からの学び、かかわりの違い、年代を越え、状況を越え、相手を思いやったり、思われたり、心豊かに育てたい。 (3)お花のプランターを通園路の商店に置かせてもらおう。 ～自分たちの育てた花を大切に育ててもらっつながりで地域と気持ちがつながり、子どもたちを見守って頂ける。(PTAの協力) 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者大学のお年寄りとの交流は、数人の方の下見以外は初めてのお顔との出会いであったが、ゆったりと受け止めて下さる雰囲気が、子どもたちをリラックスさせたのか、楽しく話し、賑やかに笑いながらの遊びの交流となった。 ○地域の方々に支えられての文化体験である。家庭で学べないことが多く、また、幼児に対する配慮や反対に本物の凜とした雰囲気を感ずることもできている。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー体験を子供達だけでも取り組める「遊び」にしていくこと。(ルールを自分達で考えたり、審判をしたり・・・、ゴールは?と工夫もしていきたい。) ・言語力の育成のために、具体的な方法・目標・達成度を測るなど、情緒的な部分での力不足なのか、言語力の弱さそのものなのか、確かめながら様々な方法で進めていきたい。できれば、その分野の研修もしていきたい。 ・園開放の回数を増やす。与えるだけでない取り組みを工夫する。PTAの協力も得る。 		

平成20年度 学校評価報告(小学校)

学校名〔京丹後市立峰山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教職員の資質能力の一層の向上に努めるとともに、真に「生きる力」の育成を図り保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。		○指導方法の工夫改善を図り、個に応じた指導が定着し、学力の向上・安定が図られた。 △特定の学年で学級経営・学力の課題がある。	相互信頼の構築を目指す「学級づくり」と、授業規律を定着させ学力の充実と向上を目指す「授業づくり」を進める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	○「授業づくり」(学習の質と量の改善)による学力の充実・向上 (1) 基礎的・基本的な学力の定着と伸長 (2) 家庭との連携による家庭学習習慣の確立	(1) 指導法の研究と日々の授業の充実 (2) 京都式少人数教育による少人数学級の編制(3・6年で実施)と少人数授業(算数科を中心に実施)の継続・発展 (3) 読書活動の充実(毎朝の朝読書等で国語力の基礎を培う指導) (4) 繰り返し学習、ドリル学習による定着を目指した取組の充実 (5) 放課後及び長期休業中の個別補習の実施 (6) 家庭学習の手引きの作成と活用、学習習慣の確立を目指した指導と家庭啓発	○基礎的・基本的な学力の定着状況が徐々に改善・向上し、概ね良好である。 ○個に応じたきめ細かな指導が充実し、児童の学習意欲や学習態度が向上した。 △特定の学年での学力状況については課題として残るとともに、低学力層と高学力層に二極化する傾向が見られる。 △家庭学習の量が不足している。
生徒指導	○「学級づくり」(学級経営の充実)を基盤に置いた「豊かな心」の育成 (1) 規範意識の高揚と規律ある学校生活の確立 (2) 豊かな人間関係の育成 (3) 鋭い人権感覚と人権認識の醸成	(1) 児童の内面を揺さぶる道徳の時間を旨とした授業の改善・充実 (2) 目指す児童像を明確にし、学級経営と授業の充実を基盤にした積極的な生徒指導及び生徒指導の機能化 (3) 異年齢集団活動を中心として豊かな人間関係をはぐくむ特別活動の推進 (4) 丁寧な早期対応と継続指導を重視し、いじめや不登校を起こさない教育相談体制の確立と日常的な相談活動の充実 (5) 地域の自然や産業等を積極的に活用した多種多様な体験活動の推進	○多くの学級で学級経営が安定し、全般的に学習・生活の規律が向上した。 ○不登校児童0が継続するとともに、不登校傾向児童の状況が改善した。 △好ましい人間関係や人権感覚について一層の取組が必要であるとともに、Eメール等のネット活用が新たな指導課題となった。 △地域での生活における規範意識やマナーの向上については十分ではない。
健康安全	(1) 基本的な生活習慣の確立 (2) 学校内外における事故防止と安心・安全の確保 (3) 校内危機管理体制の確立と教職員の危機意識の高揚	(1) 基本的な生活習慣を確立するための毎学期の重点的保健指導の推進 (2) 家庭・地域・関係機関及び「峰小校区安全ボランティアの会」と連携した安心・安全のための取組の充実・発展 (3) 危機管理マニュアル等の整備・改善と、訓練等を通じた安心・安全に係る指導・管理の充実	○保護者と連携した取組により、児童の基本的な生活習慣に一定の改善があった。 ○指導体制の確立、地域や関係団体等との連携が進展し、大きな事件事故を防止できた。 △自転車乗車時など交通ルール遵守の一層の徹底が必要である。

特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> (1) 特別支援学級及び通級指導教室における当該児童の障害の改善・克服 (2) 通常の学級における特別支援教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 特別支援教育に係る校内推進体制の確立及び研修の充実 (2) 当該児童の障害の状態、発達段階、特性等に応じた適切な教育課程の編成 (3) 自立し社会参加ができる資質を養うことを明確にした「個別の指導計画」の活用と指導方法の改善 (4) 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童に対し、計画的・継続的な指導方針のもと適切な指導支援の実施 (5) 特別支援教育及び特別支援学級についての児童・保護者・地域への理解啓発の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学級及び通級指導教室の当該児童の能力や社会性が向上した。 ○校内研修を積み重ね、通常の学級で「個別の指導計画」を活用した支援が進展した。 ○特別支援学級についての児童及び保護者の理解が深まり、指導充実に結び付いた。 △より丁寧で細やかな支援が必要な児童に対し、実態把握と指導計画の充実を一層図る必要がある。
研修（資質向上の取組）	<ul style="list-style-type: none"> (1) 職種・教職経験年数・個性特性等に応じた実践的指導力の向上 (2) 中堅教員のマネジメント能力・指導力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 重点研究（国語科）を中心とした校内研修の実施（研究授業、理論研修、グループ別研修、模擬授業など多様な方法による活性化） (2) 日常的な教育活動の中で能力を向上させる教職員評価の積極的取組と活用 (3) 学校外の公的研修の機会の積極的活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の持てる力を集め、協働的で全校一致した教育活動を進める中で、授業力や学級経営力、業務遂行能力等が高まった。 ○ベテラン・中堅の教職員の力が発揮された。 △今日的で新たな教育内容や児童課題へ適切に対応できる指導力が必要である。
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> (1) 開かれた特色ある学校づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教育活動及び学校評価（内部評価・外部アンケート等）の情報の積極的提供を基盤に置いた情報連携・行動連携の推進 (2) 全教育活動の積極的公開 (3) 地域の物的・人的資源、環境の積極的活用 (4) P T A、「峰小校区安全ボランティアの会」等との積極的連携と運営への参画 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動全般に対する保護者の理解が深まるとともに、学校への信頼と期待に一定の高まりが見られた。 ○数々の教育活動に対して、保護者や地域人材の積極的な協力や参画が得られた。 △学校・学級の教育活動の説明・発信の機会を一層拡大していくことが必要である。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学力の二極化傾向の解消を図るため、授業改善を追究するとともに家庭との連携に基づく家庭学習習慣の確立を目指す。 (2) 学級経営の充実を基盤に置いた「豊かな心」をはぐくむために、好ましい人間関係の構築と人権意識の高揚を図る取組を推進する。 (3) 教職員の資質能力の一層の向上と人材育成を図ることで、学校力を高める取組を重点的に推進する。 (4) 学校の重点課題をふまえて、教職員評価の取組を充実させる。 		

平成20年度 学校評価報告(小学校)

学校名 [京丹後市立吉原小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
豊かな未来をつくるために、『知恵の輪を広げ、心豊かに伸びていこうとする児童』(校歌の精神)の育成と地域から信頼される学校をめざした教育を進める。		<p>「京の子ども、夢・未来校」・重点研究(国語科)の中間発表の実施をとおして、児童一人一人の表現力を高めるための授業改善の取組が広がり、教師個々の実践意欲も高まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本発表に向けた更なる取組の焦点化と指導力の向上が必要。 ・少人数指導については不十分さを残した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「京の子ども、夢・未来校」の研究発表会の取組をとおして、児童の学力充実につながる実践研究を組織的に高める。 ・特別支援学級開設の趣旨を生かし、要配慮児童への適切な対応と就学指導を強める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	研究発表の取組を通して、重点研究の授業づくりを生かした学習指導の一般化に努め、学校としての実践力向上を図る。	<p>学校全体の授業実践力向上のため、研究発表会を含め、重点教科(国語科)の実践研究を通して、年3回の研究授業(検証実践)を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指導法の確立→学習スキルの定着→基礎・基本の指導・深め合い学習に力を注ぐ。(若手教員への助力、取組途中の交流・修正実践への助言) ②安定した学級経営を土台に、児童の表現力・コミュニケーションを高める教育活動を推進する。(音声表現力を学年・全校発表で鍛えていく。) 	<p>「京の子ども、夢・未来校」の研究発表会を成功裏に終えることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自校の実践仮説に沿った検証実践をとおして、児童一人一人の表現力を高めるための授業改善の取組が広がった。 △児童の活用する力を伸ばしていくために、更に重点指導の追究が必要である。
生徒指導	生徒指導の3機能(所属・自己決定・共感)を重視し、積極的な生徒指導を展開する。	<p>「学級づくりの指標」を基に、教職員評価の自己申告書と関連させた年間学級経営案の策定し、学級の取組を基本にPDCA化した実践をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①コミュニケーション能力や児童の意欲を引き出すための重点的な全校の取組に力を入れる。(生活目標づくりと○○取組旬間の設定) ②心の教育(道徳・人権教育)を重視した取組を設定する。児童の変容をとおして指導課題を焦点化し、喜びを共感させる取組をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○PDCAサイクルによる安定した学級経営と組織的な教育活動の展開ができた。(若手教員の指導力の向上) △重点指導期間での児童の意識は高まったが、日常的な人権意識を高めていく指導に不十分さを残した。
健康安全	健康で安全な生活を主体的に実践していく児童の育成をめざした取組を進める。	<p>健康・安全教育と給食指導の関連を考え、学級の活動を基本に児童課題の克服に向けた全校的な取組を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①基本的生活習慣の確立を図る取組(生活リズムづくり、フッ化物洗口等) ②体力づくりと外遊びの奨励、性教育・保健指導の啓発 ③安心・安全な学習環境づくり(交通教室、通学班会の工夫見守り隊等) ④食育と正しい食事マナーの給食指導の徹底(学級給食とチーム給食) 	<ul style="list-style-type: none"> ○重点期間を設定し指導することで、児童も保護者も基本的生活習慣の確立について意識が高まってきた。 ○性教育Q&A講座や保健・子育て講座を設定し、児童と親へのカウンセリングを実施。 △更なる保護者の意識を高める取組の工夫

特別支援教育	特別支援学級開設の趣旨を生かし、本校としての特別支援教育の在り方を確立させる。	<p>「のびっこ」学級での実践を基に、要配慮児童への適切な対応と支援・指導を学校全体に広げ、特別支援教育と就学指導を重視した取組を進める。</p> <p>①児童発表や交流学习の場をより多く設定し、相互に評価し合う。</p> <p>②特別支援教育担当が各学級に入り、複数指導を進める。</p>	<p>○該当児童の基礎事項の定着と表現力の向上</p> <p>△要配慮事項の個別指導計画の作成</p>
研修(資質向上の取組)	「楽しい学習体験の追究」をテーマに授業づくり(指導力と学校力の向上)を中心に研修していく。	<p>「京の子ども、夢・未来校」の研究発表をとおして教育活動の改善と若手の人材育成を図る。(発表に向けた実践の検証と評価による修正)</p> <p>①学校・教職員・児童評価等、評価活動を工夫し、課題の改善につなげる。</p> <p>②児童の学習意欲を引き出す指導をする。国語で鍛えた音声表現の力を学年・全校発表に生かしていく。指導等の必要な理論・実技研修を実施する。</p>	<p>○若手教員への助力、取組途中の交流・中間発表を設定した。</p> <p>○実践の修正、当日運営を通して、職員の達成感と実践方法を学び取ることができた。また、児童の表現意欲や表現力が向上した。</p>
保護者・地域との連携	保護者・地域と連携し、安心・安全で「一人一人の存在感のある楽しい学校」づくりをめざす。	<p>学校に対する保護者・地域(民生児童委員・学校評議員等)の要望をまとめ、学期毎の参観・懇談に活用して教育情報として発信していく。</p> <p>(タイムリーな教育活動アンケート等の実施、保護者・見守り隊との連携)</p>	<p>○児童の安心・安全な学習環境づくりの協力体制を確保できている。</p> <p>△学校評価の公表と広範な見守り活動を広げていくために、取組を工夫する。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>組織・運営、教師の指導、児童等、の学校課題を把握し、改善の提案や当面する課題等を明確にした円滑な学校運営に努める。</p> <p>…今年度の重点教科を中心とした教育活動スタイルを次年度も継続していく。</p> <p>若手教員中心の職場を考慮し、職員個々の実践力を引き出しながら、授業力の向上に向けた実質的な研修に力を入れていく。</p> <p>①児童の学力向上につながる重点教科の検証実践と、教科で付けた力の活用を図る取組を強化していく。</p> <p>②日々の評価活動を通して、児童の学習意欲や職員の実践意欲を引き出す学校づくりをしていく。</p> <p>③更に、特別支援教育や教育相談活動の充実を図り、一人一人の児童に丁寧な対応と指導を心がけていく。</p>		

平成20年度 学校評価報告(小学校)

学校名 [京丹後市立五箇小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 学校の教育課題について共通理解を深め、校長主導で機能する学校を作る。 2 児童一人一人にきめ細かな指導を行い、学力向上を目指した取組を進める。 3 職員の資質向上等、学校改善を進め、児童にとって楽しい学校づくりに努める。		<ul style="list-style-type: none"> ・府小研研究協力校として授業研究を進め、全校的な取組が出来た。本年度は、中間発表に向けて更に研究を進めていく。又、体力テスト分析をもとに日常の体力作りに取り組んだ。 ・学力診断テスト等を活用した学力向上の取組を進めることができた。更に授業改善を進める。 ・各分掌主任を中心により機能した取組を進める。 	全ての教育課程の中で3つの達成目標に沿った取組を計画し、PDCAのサイクルの中で実践を進めていく 【3つの達成目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1 自分の思いを言葉で伝え合う力の育成 2 最後までやりきる力の育成 3 助けあいいきいきと活動する力の育成
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	基礎学力の充実・向上を図るために、学習環境を充実させるとともに、個に応じた指導の工夫や授業改善を進める。	ア 問題解決的な学習や、多様な学習形態を深化・発展させる授業研究を推進し、授業改善に努める。 イ 学力診断テストの分析により、回復指導を徹底する。 ウ 言語力(表現力)を高める授業改善を図る。 エ 家庭学習の確立を目指しより良い学習習慣をつけさせる。 オ 特別支援教育の視点から、個に応じた教育を推進する。	○重点研究の健康安全教育の研究授業は計画的にでき、研究発表も実施できた。 ○学力診断テストの分析をもとにして、補充学習など計画的に進めることができた。 △主要教科の授業改善を進める。 △言語力を付けるための指導の充実。
生徒指導	生徒指導の機能を生かした魅力ある学校生活を送れるよう指導し不登校の未然防止と解決を図る。	ア 生徒指導の機能を生かし、指導体制を構築する。 イ いじめ・不登校の早期発見・対応して未然防止を図る。 ウ 家庭との連携を深め教育相談活動の充実を図る。 エ 定例生徒指導会を開催し、機能的な取組を進めていく。	○問題事象に対して生徒指導部が中心になって解決していく体制がとれた。 ○保護者懇談会など、課題に合わせて継続した取組ができた。 △教育力の弱い保護者との連携を密にする。 △課題児童への指導充実を推進していく。
健康安全	発達段階に応じて健康に関する総合的な認識を高めながら、基本的な生活習慣を確立させ、生涯を通じて、心身共に健康で安全な生活を営む実践力を育てる。	ア 健康安全に対する知識を広め、判断し行動できる児童の育成を目指す授業研究を進める。 イ 全教育課程を通して、健康で自分らしく生きようとする態度(心)を育成する。 ウ 家庭と連携し、児童の生活改善や安全の取組を進める。 エ 日常活動(朝マラソン、縄跳び、全校遊び等)を通して、基礎体力の伸長と運動能力や意欲の向上を図る。	○全学級で研究授業が実施できた。 ○講師を招聘したり指導主事の指導を受け、研究を深めることができた。 △情報を発信し、家庭への啓発活動を継承し協力が得られるように工夫していく。 △性教育の研修を深め、各学年の課題を明らかにしていく。

特別支援教育	<p>障害及び発達の遅れや配慮を要する児童について共通理解し、発達を保障する取組を進める。</p> <p>関係諸機関と連携し就・修学の指導の充実に努める。</p>	<p>ア 配慮児童の実態交流をもとにアセスメント票を作成し個別児童の課題の把握を進める。</p> <p>イ 教育相談部を中心に保護者と連携し指導体制について共通理解を図る。</p> <p>ウ 保護者と連携し就学指導該当児童に対する発達保障の取組を進める。</p>	<p>○配慮児童のアセスメント票の取組ができた。</p> <p>△指導課題について、担任によって意識の違いがあり充実した研修が必要である。</p> <p>△配慮児童保護者との連携に弱い所があり、より具体的な課題について共通理解を進める。</p> <p>○特別支援学級新設に向けて教職員の共通理解と、校内体制を確立できた。</p>
豊かな心の育成	<p>あらゆる教育活動を通して、一人一人を大切にする教育を推進し、互いの良さを認め合う集団活動の充実を目指す。</p>	<p>ア 道徳教育の要となる「道徳の時間の指導」を充実させる。</p> <p>イ 多様な体験活動を進め、地域人材の積極的な活用を図る。</p> <p>ウ 挨拶運動の充実を図る。</p> <p>エ 身近な問題について自ら気づき、人権教育を推進する。</p>	<p>○「明日へのとびら」の筆者の夢大使の授業を通して豊かに生きていくことについて考えを深めることができた。</p> <p>○人権月間に生活の中の人権について考えた。</p> <p>△日常的に人権意識を更に高めていく。</p> <p>△児童会活動を活性化し、自主活動を増やす。</p>
保護者・地域との連携	<p>学校評価を活用し、PTA・地域・関係機関等との連携を深め、地域に積極的に学校の情報を発信するとともに、一層の学校改善に努める。</p>	<p>ア 学校だよりを月2回発行し、校区内全戸にも配布する中で学校の取組について理解と協力を呼びかけていく。</p> <p>イ PTA・地域の声を聞く取組の一つとして、アンケートを実施し、結果を公開するとともに校内実践に生かす。</p> <p>ウ 地域の安全サポート隊との連携を進め、日常的な活動を進めていく。</p> <p>エ 地域の区長会・公民館・民生児童委員・老人会などとの連携を深めた取組を進める。</p>	<p>○学校の様子について常にオープンにし、一定要望など出しやすい体制ができた。</p> <p>○地域の関係機関と連携し、各行事の実施ができた。</p> <p>△保護者や地域の意見・評価を生かした取組を進めていくために、教職員の意識改善を進める。</p> <p>△活動に多数の参加が得られる様にする。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>教育目標実現に向け「3つの達成目標」について再検討し、より児童の実態に合った目標を設定していく。その目標に合わせて、年間の教育活動の目標を整理し、下記の内容を中心に、より具体的な取組を進めていく。</p> <p>◇課題学級の正常化と児童が生き生きと活動する学校づくりを進めていく。</p> <p>◇研究発表に向けた健康安全教育実践の充実を進めていく。</p> <p>◇診断テストの活用・授業改善を進める中で、基礎学力の充実と向上を進めていく。</p> <p>◇日常的に道徳教育の場を大切にし、様々な活動場面で豊かな心の育成を進めていく。</p> <p>◇特別支援学級の新設にあわせた理解教育の充実を進めていく。</p> <p>◇全ての教育活動を進める中で保護者との連携を大切にした取組を進めていく。</p>		

平成 20 年度 学校評価報告(小学校)

学校名〔京丹後市立新山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
豊かな心と確かな学力をもち、かしこくたくましく生きぬく子の育成		児童が安心して授業や行事等に取り組むことができる学級づくり	児童一人一人が安心し、意欲的に授業や行事等に取り組む学級づくり
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	①教育課程編成を工夫し、実質授業時間数を確保し、確かな学力を身に付ける。 ②「聞き合える学習集団」を目指し、校内研究会等で授業実践力を付ける。 ③授業を支える力を身に付ける。	①教育計画に基づき、学期、月、一週間のスパンで授業計画を立て、実質教科指導時間数の確保を図る。 ②教科指導方法の質的向上の工夫と改善を図るための研究を行う。 ・校内研究を中心に、授業力を磨くための教材分析を行い、教材の持つ本質的な価値のもとに授業実践力を磨く。 ・「聞き合える学習集団」を目指し、先進校の実践に学んで、日々の授業に生かす。 ③授業を下支えする力を身に付ける。 ・朝読書、昼ドリル、家庭学習の工夫、改善による習慣化を図る。 ④基礎学力診断テスト等の結果を学習指導に活用する。 ・基礎学力診断テスト、全国学力・学習状況調査の分析結果を活用し、授業に生かす。 ⑤理解不十分な学習内容は回復指導を行い、定着させる。 ・学期末、各期間、年度末に「国語」「算数」を中心に基礎学力の定着状況を把握する検証テストを行い、回復指導を行う。	○指導計画案に基づき計画的に教育活動を推進し教科指導時間数を確保できた。 ○研究会では活発な論議ができ、「聞くこと」「書くこと」「発表すること」にこだわった授業ができるようになった。 △学校行事等を可能な限り内容的に見直し精選したが、これ以上見直しは無理がある。 ○朝読書、昼ドリルは1回の時間数としては少ないが、毎日継続して行うことで、児童に確かな力が身に付いた。 ○△「家庭学習」は定期的ががんばり週間を設定し進めたが、全員の児童がねらいを達成できなかった。 ○検証テストを行い、回復指導を行うことができた。
生徒指導	①良好な人間関係を育成する。 ②個々の児童や集団をより良く伸ばす。 ③学校生活をより良くする。	①元気なあいさつをし、友達を大切にする。 ②児童会と連携して「全校遊び」「兄弟学級遊び」を積極的に行う。 ③学校生活のきまり「新山の子ども」の指導を徹底する。取組状況を保護者に「新山っ子ニュース」で伝えて、理解、協力を得る。 ④問題事象へは素早い対応を図るとともに、教育相談活動を積極的に推進する。	○いろいろなことを意識してがんばれる児童が確実に増え、学校生活が安定してきた。 △朝のあいさつは児童会、PTAと連携して取り組んだが、まだ十分とはいえない。 ○△「新山っ子ニュース」で保護者に取組の成果と課題について伝え、理解してもらうことができた。 ○△問題事象には素早く対応したが、不十分な対応もあった。

健康安全	<p>①心身ともに健康な体をつくる。</p> <p>②児童の安全、安心を守る。</p>	<p>① 保健関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立、むし歯、歯周病の予防と早期治療、性、エイズ、薬物乱用防止に関する指導、食中毒予防学習に積極的に取り組む。 <p>② 安全関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室、安全点検、避難訓練、防犯訓練を行い児童の命を守る。 	<p>○生徒指導部と連携して基本的な生活習慣、いきいき週間、生活アンケートに児童が意識して取り組んだ。</p> <p>○手洗い、うがいの習慣化を図り風邪、インフルエンザの予防ができた。</p> <p>○外部講師を招聘し、薬物乱用防止授業が実施でき児童の理解が深まった。</p> <p>△手洗い、うがい、歯磨きの習慣化が図れなかった。</p>
特別支援教育	<p>①特別な教育的支援が必要な児童に対して理解を図る。</p> <p>②特別な教育支援が必要な児童を的確に把握し「個別の指導計画」を作成し、個に応じた指導を推進する。</p>	<p>①LD、ADHD、高機能自閉症の定義や具体的な対応の仕方について研修を行う。日常的に特別な支援が必要な児童の実態と分析を行い、全教職員で共通理解して対応する。その際に特別支援加配と連携して支援を強化する。</p> <p>②登校しぶり等の児童状況を早期に把握し、教育相談部を核として組織的に対応を図り、課題を解決する。</p>	<p>○△高機能自閉症の理論学習ができたが、LD、ADHDの学習ができなかった。</p> <p>○支援計画を作成し、計画に基づき指導するとともに次年度に引き継ぐことができた。</p> <p>○日本語の習得が困難な児童に必要な支援を行うことができた。</p> <p>○校内だけでなくスクールカウンセラー、他の専門機関と連携して支援できた。</p> <p>△理解と認識を深めるための保護者との連携に不十分な点があった。</p>
特別活動	<p>①異年齢集団による活動を推進することで1～6年生までの良好な人間関係を育て、豊かな心を育成する。</p>	<p>①学級を基盤として、1年間を通した1～6年生の異年齢班を作り、班で給食、運動会、各種児童会行事、遊び等を行う。</p>	<p>○学級だけの関係にとどまらず学年を越えた関係ができた。</p> <p>○△上級生が下級生にやさしく接したりできた一方、良くない接し方があった。今後の課題である。</p> <p>△学校内での関係が学校外でも発揮されるようにする。</p>
保護者・地域との連携	<p>①一人一人の保護者を大切にす。保護者の立場で考え、考えたことに対して親切で丁寧な対応をし、信頼関係を構築する。</p>	<p>①授業参観、半日授業参観、学校行事で学校や児童状況を把握してもらおう。</p> <p>②学校だより、学級通信、ホームページ、家庭訪問、電話連絡、連絡帳記入等で児童状況等を伝えて理解と協力を得る。</p> <p>③行事後の評価、教育活動改善に向けたアンケートを実施して、教育活動を改善していく。</p>	<p>○△8割強の保護者が教育活動の状況が見えていると答えているが、1割の保護者が学校からの情報が少ないと答えているので、さらに努力・工夫する必要がある。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>①確かな学力を身に付け、意欲や創造性があふれる学校づくり。 そのために・本年度作成した学習指導計画に基づき、新学習指導要領の移行措置に伴う学習内容が漏れ落ちのないように指導する。 ・「コミュニケーション能力の素地の育成」を目指し、外国語活動や他教科で研究・実践を行う。</p> <p>②豊かな心を育成 全校活動、学級活動で仲の良い友達関係づくり等「心の教育」を推進する。そのために、道徳、特別活動等を中心に推進する。</p>		

平成20年度 学校評価報告(小学校)

学校名〔京丹後市立丹波小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>(1) 学校の教育課題について共通理解を深め、校長主導のもと三者を中心に学校運営の要となる各分掌部会を十分機能させ、教育実践の進行管理を適切に行う。</p> <p>(2) かけがえのない児童一人一人に寄り添い、肯定的評価を中心としたきめ細かで熱意あふれる真摯な指導を行う。</p> <p>(3) 学校評価制度、教職員評価制度を活用し、教育活動の見直し、教職員の資質向上等、組織的、計画的、継続的にPDCAサイクルの実践を積み上げ、学校改善を図る。</p> <p>(4) 家庭や地域社会と連携を深め、開かれた学校、信頼される学校、魅力ある学校づくりに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教育活動において「じっくり・きっちり」「てきぱき・きびきび」をキーワードとし、児童、教職員へ浸透させ、意識の高揚を図ることができた。さらに児童実態に応じたキーワードを設定し、教育活動の柱として取組を進める。 ・読書活動を大きな柱として位置付け、朝読書の取組、推薦図書を紹介、読み聞かせを実施し、学校全体に落ち着いた学習の始まりが確立した。 ・市の教育実践モデル校の指定を受け、算数科の研究を進めた。他校に全研究授業を公開し、適切なアドバイスや示唆を受け、研究が進んだ。次年度は教育実践モデル校の指定のまとめの年度として、他校へ研究の波及を進める。 ・児童・保護者アンケートを実施し、教育活動の改善に向けて、懇談会の開催や資料配付により、保護者に方向性を示した。より積極的な学校の情報発信を行う。 ・学校や地域における自然体験、社会体験など地域と連携した多様な体験活動を行う。 	<p>(1) 学力の充実と向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語力の向上。 ・指導方法、指導内容の工夫による基礎・基本の徹底。 ・基礎学力の定着、確かな学力の向上 <p>(2) 豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の推進による豊かな情緒、感性の育成と、豊かな言語力に基づく想像力の育成。 ・教育活動全体を通して人権教育、道徳教育の充実による、「自分を大切に、友だちを大切に」できる児童の育成。 <p>(3) 信頼される学校づくり、安心安全な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な情報発信、学校評価、学校評議員等を活用した学校改善 ・教職員の危機管理意識の高揚や危機対応能力の向上による安全管理の徹底。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教育活動、教育環境を通して学習の基盤となる言語力の向上を図る。 ・授業研究を通じた研修による授業実践力の向上と授業改善に努める。 ・基礎学力診断テスト等から児童の学力実態を把握し、個に応じた指導と回復を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員が「言葉」「言語活動」にこだわった研究授業を行い、実践力の向上に努めた。特に「聴く・話す」活動を徹底した。 ・学年の発達段階に応じた「授業のきまり」「家庭学習の手引き」を作成し、授業規律の確保、家庭学習の定着を図った。 ・「チャレンジタイム」、「ドリルタイム」の充実を図り、教育課程外の時間を利用した補充学習を徹底し、全教員で組織的に児童の学力定着の取組を進めた。 ・市の教育実践モデル校の指定を受け、算数研究の公開授業、3箇年の研究のまとめを行い、各校に発表した。 	<p>○小規模校加配を活用し、学力課題の大きい学級に年間を通じてTT指導を行い、個別指導の充実を図ることができた。</p> <p>○回復指導として、教育課程外の時間、長期休業中に補充学習を行い、全教員で分担して個別学習を行い、児童の学力定着を図ることができた。</p> <p>△限られた時間による回復指導のため、教科、学習内容の精選等の工夫が必要である。</p>

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童や保護者との教育相談活動の一層の充実を図り、いじめや不登校の未然防止、早期発見と早期解決に努める。 ・生徒指導機能を生かすとともに、肯定的評価を重ねながら信頼関係に基づく温かい人間関係を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な生徒指導部会、教育相談部会の開催、児童への学校生活アンケート等の実施により、児童理解を進めるとともに、指導、支援の具体化を図り、全教員で児童の課題解決に向けた取組を行った。 ・全ての教育活動に「感動」「感謝」「ありがとう」をキーワードとして、児童へ、また教職員へ浸透させた。 ・児童へ「身の回りの整理整頓」と、取組への「役割分担」の2つの具体的な指導項目を立て、全校で目標を明確にして指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期毎に指導目標を立て、児童活動、特別活動と連動した具体的な月目標を設定し、行事や取組を通して、人間関係能力の向上を図ることができた。 ○行事や取組の後、児童・教職員ともに必ず事後評価を行い、成果と課題を整理し、次の活動に反映させることができた。 △評価のための評価に終わらないように、継続した活動をめざす。
健康安全	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に健康に関する認識を高め、基本的な生活習慣を確立させる。 ・交通安全指導の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期はじめに「元気貯金」を行い、基本的な生活習慣への意識化と自分の生活をよりよくするための行動への自覚を児童に促した。 ・児童が安全に安心して学校生活を送れるよう、具体的な実践を通して教職員の日常的な危機管理意識の高揚を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の健康の様子、遅刻・欠席の状況を、全職員が始業の時点で把握し、1日の指導が円滑に行くよう徹底できた。 △危険予知能力を高める必要がある。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する児童について、校内、校種間での綿密な情報連携を行い、組織的に指導、支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する児童について、定期的に特別支援教育部会を開催し、校内、校種間、教育関係機関との情報連携による共通理解のもとに、チームで対応するなど、組織的に指導支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○支援を必要とする児童一人一人について、個別の指導計画をもとに、定期的な特別支援教育部会で評価し、改善しながら支援を進めることができた。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科研究を通して、教職員の豊かな人間性、社会性、専門的な指導力量の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いきいき楽しく学ぶ算数」をテーマに算数を中心とした研究による授業づくり、学級づくりをめざし、教育活動の工夫改善を図った。 ・新学習指導要領の学習を行い、全教科でそれぞれの分掌担当が改正内容を提示し、次年度からの移行計画を立てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数科の研究を進めるとともに、学級経営の研究をも進めた。安定した学級経営・学習規律のもとに学習指導を進めることができた。
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に積極的に学校の情報を発信し、懇談会や学校評価、学校評議員等の活用による一層の学校改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、保護者アンケートを行い、結果を分析検証し、保護者に懇談会、PTA総会の場を通じて資料配付し、具体的な取組を示した。 ・茶華道クラブ、囲碁クラブに社会人講師を招聘し、茶室体験、囲碁大会への参加等、地域の中での社会体験へと活動を広げた。 ・安心安全な児童の生活をめざして、安全パトロール隊との連携強化を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭訪問や学級懇談会をこまめに行い、民生児童委員、学校評議員との懇談の実施、定期的な訪問を行い、情報交流に努めた。 ○学校だよりを月2回発行。裏面には安全・教育環境づくりに関する情報を掲載し、情報提供を行った。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・知・徳・体のバランスのとれた児童の育成のため、より一層工夫した取組を進める。 ・保護者、地域からの信頼を得る教職員としての服務規律の確保や、専門性・社会性等自らの資質、指導力の向上に一層努める。 ・児童が安全に安心して学校生活を送れるよう、教職員の危機意識の高揚、危機対応能力の向上を図るとともに安全管理の徹底を図る。 ・家庭や地域との連携を深めながら、学校評価や教職員評価を活用し、開かれた学校づくり、安心・安全で信頼される学校づくりを推進する。 		

平成 20 年 度 学 校 評 価 報 告(小 学 校)

学校名〔京丹後市立長岡小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1 確かな学力の定着を図り、生涯にわたる学習の基盤を育成する。 2 自己・他者を大切にすることを培い、基本的人権を尊重する基盤を育成する。 3 考える力を培い、変化の激しい社会に対応できる基盤を育成する。	○小規模校として組織的な活動・取組が、教職員の協働の元に推進できた。 ○異年齢集団活動が活発に行えた。 ○地域と協力・連携した取組ができた。 △学力・表現力の育成に課題が残った。 △授業力・指導力・学級経営力の更なる向上。	1 学習指導：基礎・基本の定着を図る。 2 生徒指導：規範意識を培う。授業態度の確立を図る。 3 人権教育：「思いやりの心」を育む。 4 道徳教育：豊かな感性を培う。 5 進路指導：基本的生活習慣の確立を図る。 : 目的意識を育てる。	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	(1) 「読み」「書き」「表現」「計算」の力の向上を目指す。 (2) 基礎学力診断テスト・C R T・全国学力学習状況調査の結果分析を行い、基礎学力向上に向けての取組に生かす。	○「読み」・・・朝読書、昼ドリル ○「書き」・・・まとめテスト ○「表現」・・・音読、暗唱、暗唱発表会、文づくり ○「計算」・・・計算チャレンジタイム、夏季休業中10回の補習 ○放課後の取り出し補習 ○家庭学習定着に向けた取組 ○各種テスト・状況調査の結果を分析し、課題を明確にして実践する。	○学習規律を確立し、基礎学力の向上に向けた取組を充実させることができた。 ○暗唱発表に取り組み、長岡っ子交流会や学習発表会で保護者に成果を発表することができた。 ○家庭学習がんばり週間の設定により、家庭学習の定着の兆しや充実が見られた。 ○児童や保護者への「以前より勉強ができるようになったか」というアンケートで良いと回答を得た。 △学力の定着状況を早めに検証し、早い時期に回復を図る手立てを講じる。
生徒指導	(1) 児童の実態把握や内面理解に努める。 (2) 自立の力を育てる。 (3) 望ましい集団活動の体験を通して、社会性を伸ばす。 (4) 一人一人に課題解決の力を育てる。	○定例的に部会を開き、重点課題についての成果と課題を交流する。 ○問題事象が発生したときは、迅速に対応する。 ○生活点検を実施し、分析を行い、保護者への啓発をする。 ○生徒指導の機能を生かした教育活動を進める。	○問題事象への対応が組織的に行えた。 ○児童の課題について、共通認識を持ちながら方針を立て取り組めた。 ○具体的に児童へ目標や課題を提示して指導することができた。 △会議や研究会の中で、児童の実態について十分に交流できなかった。 △生活点検で、就寝時間が遅い子が目立つので、保護者の協力を得ながら改善していく。

健康安全	<p>(1) 健康についての意義を正しく理解し、健康作りに励む児童を育てる。</p> <p>(2) 体力増進を図る。</p> <p>(3) 安全な生活を営む実践力を身に付けさせる。</p>	<p>○基本的生活習慣の確立を図る。</p> <p>○健康診断と体重測定の実施</p> <p>○性教育の充実</p> <p>○早朝ランニング月間の実施</p> <p>○各種競技会への参加</p> <p>○毎月の校舎内外の安全点検を行う。</p> <p>○安全指導・登下校指導の充実</p>	<p>○健康診断を行うことで、自分の身体の発育や自分の身体に関心を持つことができた。</p> <p>○保護者を巻き込んでの性教育ができた。</p> <p>○競技会参加に向けての練習や成績により児童に達成感を与え、体力の増進にもつながった。</p> <p>○大きな事故がなかった。</p> <p>△虫歯の完全治療ができなかった。</p>
特別支援教育	<p>(1) 特別な教育的支援が必要な児童の状態や発達段階に応じて、個性や能力の伸長に努める。</p>	<p>○支援学級の理解教育をする。</p> <p>○個々の到達課題を明確にしながら取り組む。</p>	<p>○理解教育を行うことで児童の障害に対する理解が深まり・児童同士の交流も広がった。</p> <p>△個々の児童の発達段階を踏まえ、到達課題をより明確にした取組を更に進める。</p>
研修	<p>(1) 個をみがき、ひびきあう児童の育成を目指して</p> <p>○学びの基盤作りをする。</p> <p>○考える力や表現力を付ける授業づくり</p> <p>○一人一人の考えを認め合い、響きあう教室づくり</p>	<p>○各学年で説明文の授業公開をする。</p> <p>○低・高のグループによる教材研究と模擬授業</p> <p>○毎月、詩の暗唱課題に取り組む。</p> <p>○朝会で学年発表と感想交流をする。</p> <p>○夏季研修会で「書くことの力の育成」について研修を深める。</p> <p>○書く力を育成するため「文づくり」と発表を行う。</p>	<p>○グループ研や模擬授業で、発問・板書計画・ワークシートの作成などの工夫や研究ができた。</p> <p>○授業研究の中で授業規律について学び合い深めることができた。</p> <p>○書かせる視点を意識して取組、その結果だんだんと書くことができるようになってきた。</p> <p>○学習発表会で表現力の向上が見られた。</p> <p>△学級として、学習の基盤づくりは大切だが、個々に課題を持つ児童への対応も同時に考えていかなければ、しっかりした基盤づくりはできない。</p>
保護者・地域との連携	<p>○保護者との連絡を密にする。</p> <p>○地域との連携を図る。</p>	<p>○連絡帳、各種たより、電話連絡、家庭訪問等を行う。</p> <p>○保護者の意見に十分耳を傾ける。</p> <p>○運動会の共催、地区祭りへの参加</p> <p>○グランドゴルフ・ゲートボール大会、グランドの草取り、長岡っ子交流会への招待などで交流する。</p>	<p>○学校・学級だよりなどタイムリーに発行できた。</p> <p>○電話連絡より家庭訪問を重視して保護者との連携が図れた。</p> <p>○特に地区長寿会とは色々な面で協力してもらい、また、児童との交流もできた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>(1) 学力向上及び学力の確実な定着を目指して、国語・算数において各学年別に重点指導事項を絞り込み、その到達点を明確にして、全ての児童に達成させる方策を確立し、実践する。</p> <p>(2) 市教育実践モデル校を受け、食育の指導のあり方、全体計画・年間指導計画の作成、給食指導など取組を通して充実させていく。</p>		

平成20年度 学校評価報告(小学校)

学校名 [京丹後市立大宮第一小学校]

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
○組織の一員として協働意識をもって自己の役割と責任を果たし、信頼関係を高めながら、児童にとって楽しい学校づくりと、地域、保護者から信頼される学校づくりをめざす。	<p><成果></p> <p>①各教職員が自分の分担だけでなく、プラスαの動きをする等協働心を高めながら取り組むことができた。</p> <p>②各担任が日常的に学級経営に工夫改善して指導、実践することと、課題がある児童等への支援を組織的に取り組むことで機能しない学級を出さずに実践することができた。</p> <p>③否定的な事象と言動へは「即対応、即解決」で取り組み、効果的な生徒指導と安定した学校環境を醸成することができた。</p> <p>④教職員評価の本来のねらいである所属職員の実践意欲の高揚と指導力の向上を意識した実践によって教職員の管理、育成につなげることができた。</p> <p><課題></p> <p>①一層協働性と学校力を高める。</p> <p>②授業におけるきめ細かな指導の充実によって学力を高める。</p>	<p>①「協働と信頼づくり」とおして学校力を高め、学校の地力、基盤をより高める。</p> <p>②全教職員が共通理解と連携した指導実践力や組織的実践力を更に高める。</p> <p>③昨年度までの研究実践の内容を土台として更に「確かな学力の向上・充実」に向けた取組を一層推進する。</p> <p>④研究活動の一層の充実と授業力の向上を図る。</p> <p>⑤学級経営力の向上を図る。</p> <p>⑥生徒指導及び不登校の解消と未然防止に向けた取組の充実を図る。</p> <p>⑦教育相談活動や就学指導、特別支援教育の充実を図る。</p> <p>⑧学校改善、学校評価と教職員評価の一層の機能化と充実を図る。</p>

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<p>①学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の編制を行う。</p> <p>②基礎・基本の確実な定着を図るために教科の授業時間数の確保と授業改善を行う。</p> <p>③「授業実践力」と「学級経営力」の向上が日々の教育活動の中心であることを日々意識して取り組む。</p> <p>④「日々の実践的研究」「国語科を中心とした重点研究」とおして教職員個々の組織運営能力や資質・実践力の向上を図る。</p>	<p>①年間を通じて教育活動が見通しをもって展開できる教育計画を作成する。</p> <p>②低・中・高学年部会を最大の研修の場と位置付け、研究推進を活性化させる。</p> <p>③学校課題を整理し、学期計画・月計画・週計画案を作成し、長期・中期・短期それぞれの教育活動に見通しがもてるようにする。</p> <p>④新学習指導要領に関する趣旨・内容を学習し、理解と準備の年度に位置付ける。</p>	<p>○校長主導のもと、教頭が指導性を発揮して教務主任と二者連携で教育活動や研修活動が見通しをもって実践できる的確な進行管理ができた。</p> <p>○新学習指導要領の改訂点等内容について年間をとおして計画的に研修に取り組み、課題の整理等共通理解を図ることができた。</p> <p>△授業研究に計画的、組織的に取り組むことができたが、個々の教員への目に見えた授業力のアップまでは至っていない。</p>
生徒指導	<p>①児童の生活実態の把握や児童個々の内面理解に基づく指導をする。</p> <p>②望ましい集団活動をとおして自覚と責任を学ばせ、課題解決の意欲と実践力を育成する。</p> <p>③生徒指導上の様々な課題を的確に把握し、組織的・計画的な指導にあたる。</p>	<p>①基本的な生活習慣の確立及び、児童・地域の実態に即し正しい価値観と判断力を育成する。</p> <p>②取組過程を重視した異年齢活動を中心にした児童会活動等、全校行事を充実する。</p> <p>②生徒指導等日常的な指導と取組が「報告・連絡・相談」に基づく「即対応・即解決」につながる組織的な実践を行う。</p> <p>③課題の解決に向け、必要に応じて家庭訪問を行い連携して取り組む。</p>	<p>○学校行事、児童会行事等全校での取組をとおしてリーダー層の6年生が育ち、全校の肯定的な雰囲気を作り上げ、規律ある集団の育成に連動し積極的な生徒指導にも機能することができた。</p> <p>○「報・連・相」機能が一層高まり、問題事象に対して「即対応・即解決」につながる組織的な実践を行うことができた。</p> <p>△一層内面を鍛え、育てる生徒指導の在り方についての研修と実践を充実させる。</p>

健康安全	<p>①いのちや健康に関する認識を高めながら基本的な生活習慣と生活リズムを身に付ける。</p> <p>②望ましい食生活や食習慣を身に付けた健康的な生活を自ら作り、実践する能力と態度を育成する。</p> <p>③児童の健康や安全意識と実践力を高める具体的な取組を進める。</p>	<p>①自分の体について積極的に知り、自ら健康づくりに取り組む力を育てるために日々の学級指導を充実させる。</p> <p>②交通安全指導、避難訓練、防犯訓練等計画的に取り組み、安全意識、防災意識を高める。</p> <p>③児童の安心と安全の維持、向上に向け、PTA、「一子どもも安全ボランティアネットワーク」等と連携した取組を充実する。</p>	<p>○肥満児童を対象者に肥満防止教室を家庭と連携して実施し、大きな成果をあげた。</p> <p>○5, 6年生が年間をとおして朝マラソンに取り組み、外遊びの雰囲気高め、体力づくりにも成果をあげた。</p> <p>△児童の廊下走りの完全解消、登下校時の安全意識の向上等、一層危険予知能力の向上と実践力を高める。</p>
特別支援教育	<p>①通常の学級において教師の援助が必要な児童について学校全体として支援する校内体制を作り上げる。</p> <p>②児童の実態や取組をとおして教職員の共通理解を図り、組織的な研究と実践に取り組む。</p>	<p>①教育ニーズに応じて、個別の指導計画を作成し、個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>②校内研修を計画的に実施し、身体的・情緒的・学力的に配慮を要する児童について共通理解を図る。</p> <p>③各学年の発達段階に合わせて、障害のある人や特別支援学級や通級指導教室で学ぶ児童等への正しい理解を深める。</p>	<p>○支援を要する児童への対応が担任任せにならないで、特支コーディネーターを中心に組織的に取り組むことができた。</p> <p>△支援を要する児童へのよりきめ細かな指導を可能にする「個別の指導計画」の一層の充実を図る。</p>
研修（資質向上の取組）	<p>①授業力、学級経営力、生徒指導力等指導力の基盤になる力量を高める研修と実践。</p> <p>②学校運営への参画意識と協働性を高める研修と実践。</p> <p>③危機管理意識を高める研修と実践。</p>	<p>①授業研を核にした校内研修を全学年で行い深め合う。</p> <p>②日々の授業づくりや特活指導、学級経営、授業研の取組等を学年団でのコミュニケーションや事前研等を最大の研修の場に位置付けて取り組む。</p> <p>③「報・連・相」の意識化と実践を徹底し、危機管理意識や学校運営への参画意識と実践力を高める。</p>	<p>○授業力の向上に向けて全学年での授業研究会を核に組織的、計画的に取り組むことができ、授業力向上につながった。</p> <p>○職員室での学年団を中心とした教育実践上のことを話題にしたコミュニケーションが充実し指導力の向上につながる雰囲気を一層高めた。</p> <p>△授業力を一層高め、学力充実につなげる。</p>
保護者・地域との連携	<p>①PTA役員、学校評議員等とのつながりを大切に、それを核に地域とのつながりやネットワークづくりにつなげていく。</p> <p>②民生児童委員や安全ボランティアとの日常的な情報交換と連携を密にする。</p>	<p>①定例の本部役員会や学校評議員会を原則的に実施し、日常的な情報交換や関係づくりを維持、向上する。</p> <p>②地域、保護者からの情報や相談事には真摯に耳を傾け、情報が入りやすい関係や必要に応じて連携して取り組める、より強固な素地を日常的に構築していく。</p>	<p>○PTA役員会議や学校評議員会議を年間計画どおり実施し、情報交換等をおして一層連携と信頼関係を深めることができた。</p> <p>○民生児童委員や安全ボランティアとの情報交換と連携も計画通り実施し深めることができた。</p> <p>△各種諸団体との情報交換や連携の精度を一層高める。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>①足元の自校の課題を的確に把握し、とりわけ、学力の充実・向上と不登校課題等の改善に向けて丁寧確実に組織的に解決していく。</p> <p>②上記①の諸課題の解決活動の過程をとおして「協働と信頼づくり」を一層めざし、学校力等、学校の地力、基盤を更に高める。</p> <p>③一層「報・連・相」機能を充実、徹底し、解決に向けて組織的に取り組めるよう校長主導の元、教頭と教務主任の二者連携実践をとおして具現化を図り、一層充実させる。</p> <p>④全教職員が連携、共通理解した指導実践力や組織的実践力を更に高める。</p> <p>⑤新学習指導要領の移行期にあたり、現行の教育課程を踏まえ、授業時間数増や外国語活動への対応等、新学習指導要領に対応できる教育課程に組み替え、全面实施を見据えた教育課程を組む。</p> <p>⑥退職者、初任者の入れ替えが一層進む中での人材開発と指導方法等の充実、効果的な引継を進める。そのために、学校としてベテラン教員は意図的、積極的に指導方法等を伝えようとしたり、若手は意欲的に学ぼうとしたりする雰囲気を醸成していく。</p>		

平成 20 年 度 学 校 評 価 報 告(小学校)

学校名 [京丹後市立大宮第二小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>①目指す学校像、目指す授業像、目指す職場像を明らかにして、学校運営に当たる。</p> <p>②開かれた学校づくりによる保護者・地域と連携した教育活動を推進する。</p> <p>③内容を焦点化し、肯定的変容の見える教職員研修を充実させる。</p>		<p>①学習指導 ○国語、算数の定着率は 80%、△理科 65%、△文章表現力、○学習規律、○人の話をしっかりと聞く</p> <p>②生徒指導 ○不登校児童 0 人、○生活規律、△人間関係を築く力</p> <p>③健康安全 ○欠席者数の減少、避難訓練力の向上、持久力の向上、△遅食児童の減少、△自分の身を自分で守る力（大きな声）</p> <p>④特別支援教育</p> <p>⑤保護者・地域との連携</p>	<p>①安定した学級運営（学級崩壊をさせない）</p> <p>②初任者研修を職員研修の基本に据える。</p> <p>③児童の肯定的な変容を指導の目標と評価に据える。</p> <p>④不登校児童出現の未然防止</p> <p>⑤保護者との連携</p> <p>⑥身に付けさせたい基礎基本を定着させる。</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	国語、算数、音楽ですべての児童にすべての観点をB規準達成	<p>①目標と評価の一体化した授業への研究授業の実施</p> <p>②全校同一歩調の取組（算数科 1 時間増、毎日 15 分の業間指導、家庭学習の定着化促進、学力診断テストの分析と活用）</p> <p>③学習規律の更なる定着（話を聞く力、授業の始まりと終わりの挨拶、呼名に対する返事、ノートの取り方指導）</p> <p>④音楽のテンポに合わせた行進（週 1 回の朝会毎に、できていない児童のチェックと指導）、階名唱を全学年で実施（新曲を必ず階名で歌わせ、音程感を定着させる）</p>	<p>○関心・意欲・態度は国・算とも 92%定着</p> <p>△話す・聞く能力、書く能力、言語事項の理解（平均 70%台の定着率）</p> <p>△数学的な考え方、表現処理、知識理解 70%台の定着率</p> <p>○音楽に合わせた行進 95%の定着</p> <p>○全校（1 学年から 2 部合唱ができる音程感）</p> <p>△階名唱、音程感はまだまだ未定着</p>
生徒指導	<p>①不登校児童 0 人の継続</p> <p>②生活規律の向上</p> <p>③人間観関係を築く力の育成</p>	<p>①学級における学習・活動状況や毎日の出欠状況（理由）の把握、課題の整理・分析、素早い対応（指導・家庭訪問等）を担当と養護教諭複数で行う。（管理職の指導）</p> <p>②児童会活動と連動させて、児童の具体的な活動を喚起する。</p> <p>③学級内で特におとなしく、めだたない児童に着目した個別の支援・指導 児童会活動で、目立たない児童にもチームリーダーを担当させて、みんなの前に出させ自信を付けさせる取組の推進 挨拶運動に取り組むことで、主体的に声を出させる</p>	<p>○不登校児童 0 人の継続の他、前年度 2 学期からの保健室登校児童を今年度 1 学期中盤には教室に戻した。</p> <p>○トイレのスリッパは完全に綺麗に揃う。</p> <p>△廊下歩行は取り組むことができるが、まだ 70%程度の定着に留まる。</p> <p>△今ひとつ自分から声を出して挨拶をするところまでは達成していない。</p>

健康安全	<ul style="list-style-type: none"> ①欠席・肥満児童を減らす。 ②遅食児童を減らす。 ③安全意識・態度を向上させる。 ④持久力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①こまめな保健指導と欠席・肥満に入念なチェックを実施する ②毎日遅食児童の数と理由をチェックし、健康安全部で分析・対策を生み出す。 ③避難訓練の実施と安全指導を学級指導等こまめに行う。 ④児童一人一人の課題を分析、年間を通した朝マラソン・なわとびの実施、遠足（低学年 5km、中学年 10km、高学年 15km の歩行）の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○欠席者数の減少（インフルエンザには対応できなかった。） ○遅食児童が 3 学期大きく減少した。 ○△避難訓練力は付いたが、大きな声を出すなどはまだまだ未定着 ○マラソン大会全員参加、全員走破、持久力、遠距離を歩く力の向上
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ①特別支援学級に在籍する児童の個々の児童の学力を向上させる。 ②普通学級に在籍する課題の大きい児童の学力定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①個別の指導計画を作成し、個に応じた指導を行う。 ②補習を行い、一斉授業で定着できない課題を解消したり家庭との連携により、家庭学習を充実させたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各児童とも学力を向上させた。 △該当学年の学力定着を目標にする。 △普通学級在籍児童の学力定着。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ①初任者教員の指導 ②技能教科の基本技能指導 ③目標と評価の一体化した授業力の向上 ④学級経営に関する指導 	<ul style="list-style-type: none"> ①拠点校指導教員と校内指導教員が指導に当たる。(指導主事の招聘) ②音楽、図工、体育（水泳等）について、実技研修を実施する。 ③研究授業、事前・事後研究会の実施 ④児童の肯定的変容を注視し、授業研究や平素の授業における児童の変容を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スムーズな学級経営、学習指導等、1 年間新規採用教員が本校職員として教育活動を行うことができた。 ○図工（彩色）、歌唱方法、水泳の基本指導等、全教職員で研修を受け、児童に学力を定着させることができた。 △授業研究については学力の定着が今一步で、効果的ではなかった。より深く授業研究することが必要だ。
保護者・地域との連携	<p>学校教育に対する理解・協力を向上させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①参観授業、学校行事等を公開する。 ②アンケートを行事毎、並びに年度末に実施して、地域・保護者の学校教育に対する評価を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価を学校評議員や保護者など外部に報告した。 ○保護者アンケートは 90%の肯定的評価を受けた。 △10%の解決すべき課題
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ①学力向上に関する取組課題をより焦点化して、教育活動に取り組む。 ②児童にとって「分かる」「できる」授業の創造を目指す。 ③欠席児童数の減少と不登校傾向児童 0 人の継続 ④自己表現力の弱い、他人との人間関係が構築しにくい課題の克服 		

平成20年度 学校評価報告(小学校)

学校名 [京丹後市立大宮第三小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
郷土を愛し、豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成		<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書など集中して静かに学習ができるようになった。 ○児童への支援のあり方や発問のあり方について研修が深まった。 △児童の登下校の安全・安心の課題 △不登校・登校しぶり児童が出現。その解消に向けた取組 	<p>一人一人が輝く学校</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 子ども一人一人の可能性を追求し、伸ばす。 (2) 一人一人に居場所がある楽しい学校にする。 (3) 家庭・地域に愛され開かれた学校
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ児童の育成を図る。 ・小規模校・少人数学級の特性を生かし、個に応じたきめ細かな指導にあたり、基礎学力の向上を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 京丹後市教育委員会指定教育実践モデル校として <ul style="list-style-type: none"> (1) 国語の授業研究を通して聞く力・読む力を付けるとともに、自分の考えを自分の言葉で話す力を付ける取組 (2) 少人数学級の良さを生かした授業展開の在り方 2 基礎学力の徹底を図るための取組 <ul style="list-style-type: none"> (1) 漢字まとめテストの実施と漢字がんばり教室の開催 (2) 当学年ですべての児童に付ける力の明確化 (3) 辞書を引く習慣の育成 3 学年間の学習交流や対外的なコンクール・発表会に積極的に参加し、場を踏む経験を積むとともに自信を持たせる。 4 家庭学習の習慣化と家庭との連携 <ul style="list-style-type: none"> (1) 家庭学習がんばり週間を設定し家庭学習の大切さを家庭に啓発する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数学級の良さを生かした授業展開の在り方について研究が進み、学級の中で一人一人が大切にされた授業展開ができた。(一人学びなど) ○漢字まとめテストでは、教師も児童も明確な目標ができ、当学年の漢字を44/45人まで覚えきった。 ○極少数での発表のみならず他学年に出張する朗読会をすることにより、自信や他者理解につながった。さらに校内で自信を付けた児童は校外への発表へとつながった。また、対外的なコンクールに多数応募しよい結果につながった。 △その学年で付ける最低限の学習内容・学習規律の作成ができた。今後、全校が同一歩調で指導にあたり、全体の学力の底上げを図る。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童の解消 ・独りぼっちの子どもをつくらぬ学級・学校 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導部と教育相談部が連携を図るとともに機能化により、不登校児童の欠席日数を昨年度の半分に減らす。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の学校生活の中で全教職員で全校児童を見る。 ・欠席者の状況、気になる児童の状況を克明につかむ。 ・職員会議での児童実態交流を通して、全教職員が共通理解する。 2 児童の学級における人間関係を迅速に掴み素早い対応を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員・児童の人権意識の向上 ・学級実態の交流の日常化 3 月目標を設定して社会規範意識を高める取組を児童会と連携して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○当該児童への全校あげてのきめ細かな手だてにより不登校児童が解消した。 △学級の中で悲しい思いやつらい思いをしている児童が全くないとまではいかなかった。 △毎月決めた月目標がお題目となり、児童会と連携した具体的な取組が進みにくかった。 △落書き・小さいたずらなど、誰がしたのかわからず、解決しない問題がある。

健康安全	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携を図り、全校児童の総欠席日数を減らす。 ・安心安全な学校・地域づくり 	<p>1 健康な体づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通した朝マラソン、朝縄跳びを通した基礎体力の伸長 ・保健指導、養護教諭からの児童・保護者への啓発・講話 ・学校・保健委員会の健康な体をつくる取組 <p>2 P T Aと連携した「早寝・早起き・朝ご飯」「基本的生活習慣」確立の取組</p> <p>3 大宮第三小セーフティーネットを軌道に乗せる。</p>	<p>○2学期までは、昨年度より大幅に欠席日数が減少したが、3学期はインフルエンザの蔓延により昨年度並みの欠席日数となった。</p> <p>○早寝・早起き・朝ご飯の取組は学校と家庭とが連携した取組となり家庭の意識向上が見られた。</p> <p>△児童の運動能力の向上</p>		
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な教育的支援の必要な児童の実態を把握し、支援を図る。そのための校内体制を整える。 	<p>1 職員会議や職員朝礼で児童の様子を交流し、全教職員で共通理解を図りながら課題に対して早期に手だてを打つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配慮児童の記録作成 ・発達検査の実施 <p>2 外部の専門的な機関との連携を図る。</p>	<p>○定期的な外部機関との両親懇談が実現し、保護者の学校への理解・協力が前進した。</p>		
研修（資質向上の取組）	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質能力の向上を図る。 	<p>1 若い講師等の学級経営を安定させるための組織的な指導・支援体制を組む。</p> <p>2 学習指導を中心に重点教科国語の研究を進め、少人数授業の研究を進める。</p>	<p>○ベテラン教師を活用し、若い講師の育成に努めた結果、指導力の向上が見られた。</p> <p>△国語の研究分野が多岐に渡ったために、研究成果が見えにくかった。次年度は児童実態からスタートし更に絞った研究を進める。</p>		
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域に学校の方針・取組が見える開かれた学校づくりを進める。 	<p>1 学校だより・学級だより、懇談会を通して、学校・学級の取組を保護者・地域に知らせ、学校教育への理解を深める。</p> <p>2 地域の人材を積極的に活用し、児童の地域理解を進め、地域に誇りを持たせる。</p>	<p>○保護者アンケートで「学校は教育方針をわかりやすく伝えていて、学校が育てようとしている児童の姿が分かる」よく分かる・ほぼ分かるで94%「学校は子どもの様子や教育活動状況、学習内容をたよりや懇談会などで分かりやすく伝えている。」も97%と高い評価を得た。</p> <p>△地域人材の活用は学年により偏りがあった。</p>		
次年度に向けた改善の方向性	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>1 確かな学力を育む教育の推進</p> <p>(1) 小規模校の利点を生かした一人一人に応じたきめ細かな指導</p> <p>(2) 基礎基本の徹底を図る指導方法の工夫</p> <p>(3) その学年で付ける力の明確化と徹底</p> <p>(4) 児童の主体性を育てる学習の推進</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>2 豊かな心を育む教育の推進</p> <p>(1) 不登校児童0の継続と登校しぶり児童の解消と学力向上</p> <p>(2) 児童の自主・自立を育む生徒指導</p> <p>3 学校外への積極的な挑戦</p> </td> </tr> </table>			<p>1 確かな学力を育む教育の推進</p> <p>(1) 小規模校の利点を生かした一人一人に応じたきめ細かな指導</p> <p>(2) 基礎基本の徹底を図る指導方法の工夫</p> <p>(3) その学年で付ける力の明確化と徹底</p> <p>(4) 児童の主体性を育てる学習の推進</p>	<p>2 豊かな心を育む教育の推進</p> <p>(1) 不登校児童0の継続と登校しぶり児童の解消と学力向上</p> <p>(2) 児童の自主・自立を育む生徒指導</p> <p>3 学校外への積極的な挑戦</p>
<p>1 確かな学力を育む教育の推進</p> <p>(1) 小規模校の利点を生かした一人一人に応じたきめ細かな指導</p> <p>(2) 基礎基本の徹底を図る指導方法の工夫</p> <p>(3) その学年で付ける力の明確化と徹底</p> <p>(4) 児童の主体性を育てる学習の推進</p>	<p>2 豊かな心を育む教育の推進</p> <p>(1) 不登校児童0の継続と登校しぶり児童の解消と学力向上</p> <p>(2) 児童の自主・自立を育む生徒指導</p> <p>3 学校外への積極的な挑戦</p>				

平成 20 年 度 学 校 評 価 報 告(小学校)

学校名〔京丹後市立網野北小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
郷土を愛し 進んで学び 心豊かに たくましく生き抜く子		「自分の思いを言葉で伝える力の育成」「進んであいさつをし、友達と仲よくする力の育成」「場に応じて、元気に活動する力の育成」の三点を重点として教育活動を推進してきた結果、自己評価では7割の達成率であった。場に応じた言葉使いや規範意識、学習内容の確実な定着などに課題があることが明らかになってきた。	① 各学年で学習すべき内容を確実に定着させ、学年間の円滑な接続を行う。 ② 学校生活や社会生活において、規範意識の高い児童を育成する。 ③ 教師と児童及び児童同士の良好な関係が築ける教育活動を大切に、保護者や地域から信頼・支持される学校を目指す。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	◇各学年で学習すべき内容を確実に定着させる。	・授業計画の中に形成的評価を取り入れるとともに、学習の定着や習熟を図れる時間の確保も行い、一人一人の児童にきめ細かく対応するようにした。 ・校内研修を通して教員個々の指導力を高めてきた。	○どの学年も学習規律が一定確立し、学ぶ意欲も向上してきている。 △活用型学力を育成するための指導方法の工夫改善が必要となってきた。
生徒指導	◇規範意識を高める。 ◇児童同士の良好な関係が築ける教育活動を推進する。	・学校生活における3分間前の行動の取組 ・異年齢集団による遊びや行事の取組 ・互いの違いや良さを認めあえる学級づくり	○児童及び保護者に実施した調査結果からも良好な人間関係が築けていることが現れている。 △廊下歩行、自転車の乗り方、言葉使いなど規範意識を高める取組が今後も必要である。
健康安全	◇健康管理に努め、前年度よりも欠席児童数を減らす。	・全校朝会等を通じて、欠席状況や欠席理由を知らせるとともに、保護者にも協力を促す。 ・健康安全への意識を高め、実践力をつけていく。	○1 学期後半から 2 学期にかけて、前年度よりも欠席者が大幅に減少してきた。 △頭を打つ事故やケガが多かったので、予知能力を高める。
特別支援 教育	◇特別支援教育の理解と個別対応と集団への参加	・教職員及び保護者への理解と相談活動の充実 ・集団との関わりを重視した個別対応	○組織的な対応を通して、パニックを起こす児童が安定 △特別支援教育に対する保護者への啓発
研修(資質 向上の取 組)	◇学力向上研究指定校(国、府)を生かした取組	・府総合教育センターと連携した授業研究 ・大学教授等を招聘した研修等	○若手教員の資質が徐々に向上 △40 歳代の学校運営の核になる中堅教員の不足
保護者・ 地域との 連携	◇PTAを中心に課題を共有化し、課題解決に向け地域と連携し取り組む。	・学校だより、PTAだよりの発行 ・PTAと協力しホームページの作成と更新 ・読み聞かせ、算盤等のゲストティーチャーの招聘	○学校だより、PTAだより、HPを通して、学校の活動状況を広く保護者に知らせ、協力を得ることができた。 △PTA役員と役員以外の温度差の解消
次年度に 向けた改 善の方向 性	① 学校目標を児童、保護者等にも覚えてもらいやすいように、「やさしく、かしこく、たくましく」に改める。 ② 教員の学校経営への参画意識を高めるために、企画委員会、学年主任会を設置する。 ③ 学期毎に学力、学習状況を把握できる定着度テストを実施し、結果をふまえ次の指導に反映させる。 ④ 次年度も学期毎に児童、保護者の意識調査を実施し、学校と保護者とが課題を共有化し学校経営の改善に生かす。		

平成 20 年 度 学 校 評 価 報 告(小学校)

学校名〔京丹後市立網野南小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
心やさしく 進んで学び きらり輝く子の育成	○学校生活の規範意識を高める改善が出来た。 △基礎学力をどの子にも定着させるという点では、まだ不十分さが見られる。	①知「自分の思いを言葉で伝え合う力」の育成 ②体「きびきびと活動する力」の育成 ③徳「友達を思いやり仲良くする力」の育成

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	①どの子にも基礎学力の定着を図る。 ②分かり易く楽しい授業を工夫する。 ③場に応じて判断し言葉で伝える表現力を高める。	①基本的な学習態度の徹底を図る。 ②朝読書、スキルタイムなどの充実を図る。 ③校内診断テストを定期的実施し、未定着な点の指導をする。 ④未定着な児童には、補習などを工夫して実施する。 ⑤授業、朝会、職員室の場や目上の人に対する言葉遣いの指導をする。	○基本的な学習態度の点では、どの学級も努力し落ち着いて学習ができています。 ○場に応じた言い方、表現力の向上が図れた。 ○校内診断テストを活用し補習などの指導の工夫が出来た。 △全ての児童に学力の定着では、課題がある。
生徒指導	①学級づくりの充実を図る。 ②学習や生活の規範意識を高める。 ③どの児童も安心して学校生活を送ることが出来るようにする。	①児童の状況・課題について、全教職員が共通理解を図るようにして進める。 ②学校生活のルールを守らせる点を明確にし、全教職員で取り組む。 ③学級づくりについては、学期毎に評価して必要な改善を図る。 ④児童間のトラブル、生指上の問題の発生については、事実の確認をし、速やかに必要な対応を図る。 ⑤不登校など個別な課題を持つ児童については、担任だけの取組にせず教育相談部で組織的に対応する。	○学校生活のルールを守る取組により規範意識をより高めることが出来た。 ○学級づくりの取組により一定安定した状況を作ることが出来た。 ○問題事象は少なからず発生したが、保護者の理解を得て、首尾良く対処できた。 △組織的に精一杯の努力をしているが、不登校児童を解消できていない。
健康安全	①元気な心と体を作る。 ②学校事故の未然防止に努める。 ③登下校の安全確保に努める。	①保健室経営の充実を図る。 ②朝マラソン、外遊びの励行、年間を通して体を動かす取組をする。 ③交通安全教室、避難訓練などを計画的に実施する。 ④安全ボランティアの活動の改善を図る。 ⑤学校事故発生時においては、児童の状況を把握し、保護者への対応など組織的に対応する。	○廊下歩行など些細な面も含めて、日常生活における安全意識の高まりが見られた。 ○学校での事故が発生したが、適切な対応が出来た。 ○安全ボランティアの組織化が徐々ではあるが図られてきている。

特別支援教育	<p>①障害のある児童が生き生きと学習や生活が出来るようになる。</p> <p>②特別支援教育への理解を広げる。</p>	<p>①児童の様々な障害について実態を組織的に把握し、必要な取組を計画的に進める。</p> <p>②特別支援学級、通級指導教室の指導の充実を図る。</p> <p>③軽度発達障害のある児童の個別の指導計画を作成し、指導の充実を図る。</p> <p>④関係機関との連携を密にし、個別の児童の効果的な取組を進める。</p>	<p>○軽度発達障害の児童についても個別の指導計画を作成し、継続的效果的な指導が出来た。</p> <p>○就学指導の取組により保護者の理解を得て、特別支援学級・通級指導教室の入級が増えた。</p> <p>○関係機関との連携により効果的な指導が出来てきている。</p>
(A) 研修(資質向上の取組)	<p>①教職員の一層の指導力の向上を図る。</p> <p>②新学習指導要領の理解を深める。</p>	<p>①重点研究計画を作成し、研究授業など計画的な取組を進める。</p> <p>②新学習指導要領について、計画的に研修を深め、移行・完全実施に向けた準備を計画的に進める。</p> <p>③日々の教育活動について、適切に評価をして具体的実践から学び合う機会を計画的に実施する。</p>	<p>○研究テーマを設定し、研究推進計画を作成し、計画的な研修活動を進めることが出来、授業の充実に向けた実践の向上を図ることが出来た。</p> <p>○新学習指導要領の研修により次年度または完全実施の準備が具体化した。</p> <p>○実践の評価による研修の充実を図ることが出来た。</p>
保護者・地域との連携	<p>①学校の進める教育のPRに努め理解を得て一層の連携・協力を得るようにする。</p> <p>②PTAとの連携を一層図る。</p>	<p>①学校の教育について、PTAの活動の機会を活用したり、学校便り、学級通信等で知らせる。</p> <p>②教育活動の評価を保護者・学校評議員等に意見を求め生かすようにする。</p> <p>③生指上の問題、学校での事故等については、迅速に対応し、理解を得て進めるようにする。</p> <p>④家庭への日々の情報交換を大切に、信頼関係を高め、理解と協力を一層得るようにする。</p>	<p>○教育活動については、計画の説明、実施後の評価について、PTA総会や学校教育説明会で実施することが出来た。また、アンケート等で意見の集約もできた。</p> <p>○生指上の問題、学校での事故についても迅速な対応で対処できた。</p> <p>○民生児童委員、学校評議員等との学校教育への連携を一層図ることが出来た。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>①新学習指導要領の移行を遺漏なく進め、趣旨に即した教育活動を効果的に進める。</p> <p>②「質の高い学力」についての学校としての共通理解を深め、全ての児童に学力の一層の定着を図るようにする。</p> <p>③市教育委員会の教育実践研究モデル校の指定を活用し、教職員の一層の資質・指導力の向上に努める。</p> <p>④安心安全な学校づくりとして、安全ボランティアの組織化、充実を一層図っていく。</p>		

平成20年度 学校評価報告(小学校)

学校名〔京丹後市立島津小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教育目標達成に向けて、教職員、児童がともに生き生きと活動し、目標を明確にして協力し取り組むことによって、資質の向上と実践力を高め、保護者、地域に信頼される学校づくりをめざす。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 組織的、協働的な動きへの意識化や高まりが少しずつでてきた。 △ 評価の視点があいまいで、次の取組に生かすことが弱かった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 更なる組織的な学校運営の推進を図る。 2 協働的な学校運営の推進を図る。 3 計画的な学校運営を図る。 4 学校評価を生かし改善を図る。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	見通しを持った教育活動ができるようにする。 学力向上の取組を充実させ、基礎・基本の力を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 達成目標及び指導の重点内容を明確にし、その実現に向けた教育活動を推進する。 ・ 適切な評価活動を入れる。 ・ 研究推進部、学力充実部の取組の明確化と取組の充実を図る。 ・ 個に応じた指導を積極的に進め、意欲的に進んで学習する児童を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○重点的に指導する内容の焦点化ができ、その項目に沿って学期ごとに評価をすることで、次の取組に生かすことができた。 ○分掌での実践すべき内容が明確になり、主任が責任をもって推進できた。 ○チャレンジタイム、補習の時間を有効に活用し、算数や漢字の力の定着が図れた。 △音読発表の感想の中身について、学年に応じた段階的な指導が必要である。
生徒指導	生徒指導の機能を生かし、児童の実態や内面理解に努め、よりよい人格の形成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 終わりの会や学級活動を充実させ、児童に振り返りの場を設定する。 ・ チャイム行動など、学校生活の決まりを意識した行動をさせる。 ・ 問題事象については事実を正確に掴み、生指部を核として早期に指導し解決に努める。 ・ いじめや学校不適應などの児童の実態や課題を内面から把握し、児童理解に努める。 ・ P T Aと連携し、児童に『早寝早起き、朝ご飯』の習慣が身に付くよう啓発していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学級とも児童同士、指導と教師のふれあいを大切にした学級づくりに努力した。 ○安定した学校になるよう、あいさつ運動や3分前行動を委員会が中心になり粘り強く行い、成果をあげた。 ○昨年度に引き続き学校不適應児童0が継続できた。 △生活アンケートを実施し、児童の実態は把握できたが、「早寝」への課題が残った。 △児童の規範意識を高める指導の在り方を検討する。
健康安全	生涯を通じて、心身ともに健康で安全に生き抜く実践力を身に付けた児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的健康診断を行い、児童の心身の様子や実態を把握し健康管理を進める。 ・ 安全点検、自転車点検、交通教室等で安全確保と安全に関する判断力と実践力を養う。 ・ 食について関心を持たせ、望ましい食習慣やマナーを身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自転車に乗る時の児童のヘルメット着用が定着し、意識が少しずつ高まっている。 △安全点検を行ってはいるが、校舎の老朽化に伴い、改善が難しいところがある。

特別支援教育	様々な障害のある児童個々の教育的ニーズに応え、障害による困難の改善、克服を図る。また、全ての児童が障害のある人を正しく理解するための指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある児童を学校全体として支援する校内体制の整備を図る。 ・ 特別支援学級における個別の指導計画を作成し指導にあたる。 ・ 教育的配慮を要する児童の実態把握に努め、指導を充実させる。 ・ 障害のある児童への教育の正しい理解と認識を深める指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援の必要な児童の実態把握を行い、具体的対応を検討し、個に応じた指導ができた。 ○発達障害の事例研を行い、教師の指導力の向上に努めた。 ○保護者面談等こまめに行い、適正就学に努めた。 △コーディネーターと担任との連携の在り方を考える。 △特別支援担任と通常学級担任との連携を密にする。
研修	重点研究の推進により、本校の教育課題に迫るとともに、一人ひとりの指導力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業研究会を通して、『京の国語力向上のための指導資料』を活用し、「話す・聞く」についての視点を明確にした具体的実践を積み上げる。 ・ 身に付けたい授業規律の確立を目指した取組を工夫する。 ・ 学年発表や全校音楽を通して、児童一人ひとりの豊かな表現力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語力育成のための様々な教科における指導の在り方の研究が進んだ。 ○「はい」「○○です。」を全ての学年で指導を徹底し、一定定着が図れた。 ○音楽フェスティバル出演を機に、豊かな表現力を目指して全校で取り組み、成果がみられた。
保護者・地域との連携	開かれた学校づくりを目指し、教育活動や学校運営についての学校評価や情報の発信に努めるとともに、安心・安全の学校づくりと家庭・地域との連携の一層の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校だより、学級通信、ホームページ、家庭訪問、地区懇談会等を充実させ学校の様子を知らせる。 ・ 授業参観、学校行事等、年度途中にアンケートを取り、保護者の思いや願いを把握し、次へ生かす。 ・ 地域の方や、施設から講師を招き、地域から学ぶ教育を進める。 ・ 特に登下校の指導等に力をいれ、安心・安全な学校を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○月1回学校だより、実践啓発部だより（かがやき）、学級通信、ホームページ等でできるだけ詳しく学校の様子を知らせることができた。 ○行事ごとにアンケートを取り、保護者の願い、思いを知り改善に努めた。（PTA 総会等で返し、改善策を提示した） ○社会、「総合的な学習」の時間に地域の方を講師に招き、歴史、環境問題等深めることができた。 ○にこにこカーを利用し登下校の見回りを徹底し、安心・安全に努めた。 △登校班長を中心として、自分たちで安全な登校を心がける。
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 教師としての資質の向上を図る…やると決めたことは全教職員が一致して指導をやり切るというスタンスを徹底する。（指導のズレ、ぶれをつくらない） 2 学力の向上に向けて指導力をつける…教科指導力、生徒指導力をつけ、安定した学級で落ち着いて学習ができる環境を整える。 3 児童に自力解決の力を付ける…児童会活動、委員会活動 異年齢活動等の取組を通し、自分たちの力で取組を成功させ、満足感、達成感を味わわせ、自主活動を活性化させる。 		

平成 20 年度 学校評価報告書(小学校)

学校名〔京丹後市立三津小学校〕

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1 一人一人の良さや可能性を引き出し、基礎基本の徹底を図るとともに自ら学ぶ意欲、思考力、表現力、知識・理解などの資質や能力の育成を図る。 2 心の教育の充実 ○温かい人間関係を育てる言語環境作り ○人権教育・道徳教育の充実 3 自己表現できる心と体の育成 4 学校評価・教員評価システムの確立 5 危機管理体制の確立	明るく元気で学習面においても学校生活においても意欲を持った児童になり、生徒指導上も大きな問題点は無いが、受け身的な生活態度や落ち着いて物事を考えて学習する面で弱さがある。 集団や社会の一員としての自覚等、主体性や集団の中の個の在り方に課題がある。小規模校の特性を生かした生徒指導や特別活動を通して、社会性の育成に努めているが、今後さらに指導の充実を図らなければならない。 さらに組織的・機能的なP D C Aによる学校運営が推進できる体制づくりに努めなければならない。	確かな学力の育成
		豊かな心の育成
		たくましい体の育成
		組織的P D C Aサイクルの徹底
		危機管理の徹底
		①学習の基礎となる学力 ②基礎的・基本的な学力 ③総合的・発展的な学力 ①言語表現力の向上 ②読書活動の充実と詩の群読・暗唱 ③音楽教育の充実 ①意欲的・主体的な態度の育成 ②基本的生活習慣の確立と日常的な体力づくり ③食育の推進

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	教育課程 ・新学習指導要領実施に向けた教育課程に係る検討 ・各教科、道徳、特別活動、総学及び各学年相互の関連を図り系統的・発展的な指導をする。 ・年間指導計画、週指導案等に基づき効果的・計画的な指導を進める。 ・教育課程実施状況を点検・調整する機能体制を整え、改善充実を図る。 学習指導 ・学力実態を学力診断テスト等や日常の学習活動をもとに分析・把握して指導に生かす。 ・基礎的な学習内容の徹底を図るため、朝読書、昼ドリル学習を計画的に取り組む。 ・特設時間を設け、漢字検定や補充学習に取り組む。 ・家庭との連携を密にし、互いに理解と協力を深める。	・新学習指導要領改訂の趣旨理解 ・平成21年度教育課程編成表の作成（時間数増・日数増で再作成） ・新学習指導要領の趣旨に基づく内容改善・充実 ・綿密な週指導計画案に基づき、計画的に指導し、記録の活用を図る。 ・週予定を全教員に示し、教育活動の円滑化を図る。 ・月毎に教育課程の実施状況をまとめ、改善充実を図る。 ・全国学力・学習状況調査、基礎学力診断テスト、C R T（学年始）、C D T（学年末）のテストを実施し、分析結果を指導に生かす。 ・全校百マス（足し算、引き算、かけ算）計算大会の実施 ・校内漢字検定認定試験の実施・家庭学習の手引き作成と家庭学習がんばり週間（学期二回）	○各分掌主任がチューターとなり、新学習指導要領による各教科等の趣旨と変更点等を共通理解することができた。 △教育課程編成表はできて、内容改善・充実に向けた研修に課題が残った。 ○週教育計画はその週に目指す教育活動のねらいのポイントが的確に記され組織的・協働的に教育活動を推進することができた。 ○百マス計算は、全校児童が同じ課題に取り組み、競い合うことで計算力だけでなく集中力が向上した。 ○漢字検定は、過去の問題を使用して全校的に認定試験を実施した。九割を超す合格率で、漢字の力だけでなく、努力し続ける力がついた。 ○家庭学習がんばり週間を実施し、家庭での学習時間が増大した。

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営、学習指導の改善と充実（生徒指導の三機能を踏まえて） ・基本的な生活習慣の確立と定着 ・特別活動の充実と発展・家庭・地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる機会を捉えて、共感的な児童理解に努める。 ・教師と児童、及び児童相互の好ましい人間関係を育てる。 ・「全校児童を全教職員で」という姿勢で教育活動を推進する。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校全体が落ち着いており、課題に対してまじめに取り組もうとする態度がどの児童にも見られる。 ○就寝時間の必要性を理解させることで、自ら就寝時刻を意識して、早く寝ようとする児童が増えた。 △就寝時刻や起床時刻を自ら律することができない児童が固定化しているため、家庭との連携が必要。
健康安全	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の健康実態を把握し、課題を早期に解決する。 ・児童が自分の身体や生活を見つめ、健康認識を育てるための健康教育を充実し、推進する。 ・事故災害等の実態を把握し、交通安全教育、防犯や防災安全教育を含む安全指導・安全管理の徹底を図る。 ・食の大切さや好ましい人間関係を育てるなど食に関する指導の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健、学校安全、学校給食の年間指導計画を作成する。 ・事故災害は軽微なものでも全員に報告し教訓化する。 ・毎月健康だよりを発行する。 ・個に応じた指導を行うため、健康相談、健康教室を行う。 ・避難訓練の充実 ・食に関する指導全体計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○新規採用の養護教諭であったが、毎月保健だよりを発行したり、HPで啓発したり、掲示物等工夫して保健管理・保健教育に努めた。 △安全点検を毎月実施したが、担当箇所だけの理解でなく、改善状況等交流しなければならない。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を正しく理解するとともに共生していく心を育てる。 ・児童の実態を的確に把握して、個々の特性や能力に応じた適切な指導、援助を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の能力に応じた適切な指導を行う。 ・特別な教育的支援を要する児童には、組織的に補習指導を行う指導体制を確立する。 ・保育所、中学校等関係機関との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○気になる子の発達検査を行い指導に生かすことができた。 ○毎月教育相談日を設定し組織的に対応している。
研修研究	<p>「確かに読み取り、豊かに表現する児童の育成」 説明的文章における一人学び・学び合いの指導を通して、授業力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読むことの指導内容を明らかにする。 ・語句に着目した「一人学び」の場を授業に位置づける。 ・自他の読みを交流する「学び合い」の場を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○仮説に沿って研究を進め、説明文の読み方の「指導のてだて」を確かめることができた。 ○各学年の「学びの手だて」を作成し、「一人学び」の方法を身に付けることができた。 △少人数の中での学びを深める方法の研究を進める。
保護者・地域との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員がPTA諸活動や各専門部会等に積極的に関わる。 ・学習活動で、地域の人材の積極的活用と地域の財産を有効に生かす。 ・児童の地域での健全育成を図るため関係諸機関との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容について十分な打ち合わせを行い、PTA活動の活性化を図る。 ・授業や「総合的な学習の時間」等で地域の人材・施設を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域にある大敷網体験には、保護者も参加するなど漁協の全面的協力を得ている。 ○三津っ子祭りは地域を題材とした学習の成果を地域の人を招いて発表できた。 △会員数が減少し、ほとんどPTA役員の状況であるが、全員参加で活動している。
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 新学習指導要領への対応 改訂の基本的な考え方や教育内容の主な改善事項（7項目）の重視 2 学校評価・教職員評価の充実 (1) 一人一人の主体的な学校評価 (2) 具体的目標の設定と管理職の効果的な指導助言 3 教育実践の具体的目標（児童に育てたい力）を設定し、目指す児童像の実現を目指す。 4 組織的・機能的な学校経営をするための基盤を支える人材の育成（実務・連携・調整・企画する力） 5 危機管理の徹底 		

平成 20 年 度 学 校 評 価 報 告(小学校)

学校名〔京丹後市立郷小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
(1) 確かな学力の定着を図り、生涯にわたる学習の基盤を育成する。 (2) 自己・他者を大切にする態度を培い、基本的人権を尊重する基盤を育成する。 (3) 考える力を培い、変化の激しい社会に対応できる基盤を育成する。		○基礎基本の学習を徹底したり、繰り返し学習を重視したりすることで、少しずつわかる・できる喜びを感じる児童が増え、学力の向上につながってきている。 ○道徳の時間を中心に自分の生活を振り返ったり、人権学習の中で人を思いやる意識を高めるための取組を進めたりすることで自分の言動を見直すことができた。 △いやなこと、苦しいことを避ける傾向があり、規範意識の向上、改善に取り組むことが必要である。	(1) 全ての児童に基礎的な学力を定着させる。 (2) 郷小の学校のきまりをもとに規範意識が高まるよう指導の徹底を図る。 (3) 自分に厳しく、人には優しくする気持ちが持てるよう指導の徹底を図る。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	基礎基本の学力を身に付けさせるために繰り返し学習を重視し、指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力充実タイムに読み・書き・計算の基礎的な学習を繰り返し指導することで、全ての学習の基礎基本となる部分の徹底を図った。また、各教科の基本的な内容の確実な習得を図った。 ・ 担任による日々の学習補習や職員全体で実施する長期休業中の補習の取組などを通して、全ての児童に確かな学力が身につくように努めた。 	○基礎基本の学習を徹底したり、繰り返し学習を重視したりすることで、少しずつわかる、できる喜びを感じる児童が増え、学力の向上につながってきている。 △取組がマンネリ化しないように繰り返し学習や補習の取組などの工夫改善を図る。
生徒指導	規範意識を培うため学校のきまりを活用し、指導の徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業規律や生活態度をよりよくするために生徒指導に関わる学校のきまりを見直し、指導の徹底に努めた。 ・ 課題のある児童の実態について全職員が共通理解し、気になる行動に対しては早期に複数の教員で対応する中で課題解決に努めた。 	○郷小のきまりを児童や保護者にも徹底を図ることで意識の向上が徐々に見られる。 △規範意識の向上を図ったり、基本的な生活習慣の向上に向けて取り組んだりするためにも家庭との連携強化に一層努める。

健康安全	<p>基本的な生活習慣を確立する中で自分の健康について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活点検などの取組を進める中で、自分の生活を見つめ直す機会を設けた。 朝マラソンや縄跳びの取組などを通して、自己の健康づくりや体力向上への意識の高揚を図った。 食育の取組を進める中で体に良い食生活や健康について考える学習に取り組んだ。 	<p>○健康安全や食育に関わる取組の中で、自分の健康を見つめ直すことができた。 △縄跳びの取組については意識の高まりが見られたが、朝マラソンについては目標が十分達成できなかった。 △避難訓練（火災・地震・防犯）の計画的な実施と危機管理意識の高揚を図る必要がある。</p>
特別支援教育	<p>特別支援教育に関わる研修を深めたり、校内の組織体制を充実したりすることで、特別支援教育についての認識を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年度途中より校内委員会を定期的に持ち、特別な手だてが必要な児童への支援や方策を練る機会を設けた。 気になる児童の交流を機会あるごとに設定し、学級の実態、個々の実態を明らかにし、指導の方向性を示した。 	<p>○校内委員会の設定を定期的に位置づけることで、手だてが必要な児童への支援内容が共通理解できた。 △特別支援教育に関わる理解教育の取組を計画的に進める必要がある。</p>
研修（資質向上の取組）	<p>重点に関わる研究授業を計画的に進め、視点を明確にした事後研修会をする。 初任者研修を校内研修に位置づけ、教員全体の指導力量向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業を計画的に進める中で、重点教科の指導法についての研修を進めた。 低学年・高学年のグループで、重点教科の事前研修を進めた。 初任者への指導をすることで、自己の指導実践を振り返る機会とした。 	<p>○一人2回の研究授業をすることで自己の指導力量向上につなげた。 ○毎回の研究授業で参観の視点を明確にしながら研修を深められた。 △研修内容に偏りがでないように、年度当初の計画を綿密に立てる必要がある。</p>
保護者・地域との連携	<p>信頼される学校づくりの推進をめざし、保護者、地域との連携を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連絡を密にし、学校と家庭が同じ方向で指導できるように努めた。気になる事象については必ず家庭訪問することを徹底することで信頼関係を深めるように努めた。 学校だよりや学級だより、保健だより等を通して、子ども達の様子や課題について共有できるように努めた。 民生児童委員や保護者の協力で児童の登下校時に安全確保のための立ち番やあいさつの意識を高める取組を進めた。 	<p>○欠席時の連絡を始め、気になることなどの連絡を丁寧にすることで各保護者との連携を深めることができた。 △様々な機会をとらえて、学校の様子を地域に伝えることを増やす必要がある。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級が設置されることで、やさしさや思いやりを育む教育をさらに推進することが重要となる。 しんどいことや面倒なことにも立ち向かえるような意識の高揚を図るための取組を意図的に仕組むことが必要である。 気持ちよい挨拶がとびかうような学校づくりを目指す。 		

平成20年度 学校評価報告(小学校)

学校名 [京丹後市立橋小学校]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>児童・保護者及び地域の期待に応える教育を推進するため、教育関係諸法令及び学習指導要領、京都府教育委員会並びに京丹後市教育委員会の示す指導の重点や児童・地域の実態をふまえ、新しい時代を生きるにふさわしい児童の育成を目指す。</p> <p>そのために、公教育に課せられた使命と責任のもとに生涯にわたる学習の基礎を培うとともに、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を目指した教育実践を推進する。</p> <p>推進に当たり、創意ある綿密な教育計画の立案と進行管理及び評価を行い、全教職員の協力・協働体制のもとに、日々の教育実践を推進する。また、家庭・地域社会との連携を深め、学校評議員制度や外部評価などを活用して、信頼と協力を基本にした教育活動が展開できるよう努める。</p> <p>【めざす児童像】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. たくましく元気な子 (体) 2. 知恵を出しがんばる子 (知) 3. なかよくやさしい子 (徳) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営システムの構築を図り、組織的・効率的・機能的にPDCAのマネジメントサイクルによる学校運営を行うことができた。さらに、質の向上を図る。 ・基礎学力の向上に向けて、各基礎学力診断テスト分析による基礎学力定着状況をふまえ、指導方法の工夫、授業改善、家庭との連携を行い、課題克服に向けた多面的な取組を行うことができた。さらに、個に応じた指導の充実を図る。 ・全校的には、児童会活動の充実が図られ、異年齢の豊かな人間関係の育成が行えた。学級経営については、各学級実態に応じた課題の焦点化を図り、課題解決に向けて着実に取組を進めることができた。さらに、従来から続いている特定学年の課題の克服を図る。組織的には、生徒指導部がセンター的な役割を果たし、家庭との連携を図りながら、課題解決を図ることができた。 ・学校教育課題を克服するために、橋中学校、PTA、地域の各団体との連携を計画的に行うことができた。さらに、連携課題を焦点化し、日常的に連携を図るための工夫を行う。 ・全教育活動を通じて、主体性、表現力、人間関係を結ぶ力を伸ばさせるべき指導の充実を図る。 	<p>【めざす学校像】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学力の充実・向上と一人一人の個性・良さ・可能性を伸ばそうとする学校 2 家庭・地域との連携を深めながら特色ある開かれた学校 3 児童が生き生きとして輝き、地域の信頼に支えられた活力と潤いのある学校 <p>【めざす授業像】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童・地域の実態をふまえ、全教職員が共通理解・内面理解した指導 2 基礎・基本を徹底するため、個々の児童に視点をあてたきめ細かで丁寧な指導 3 授業改善に務め、各教科の目標に準拠した指導 <p>【全教育活動で子ども達に育みたい資質・能力】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決する力 2 思いや考えを自分の言葉で豊かに表現する力 3 学び合い・励まし合い・支え合う豊かな人間関係を結ぶ力

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<p>学習指導では、児童の学力実態や学習状況を的確に把握し、基礎的・基本的な学力を確実に身につけさせるとともに、一人一人の児童の良さや長所を生かしながら、児童が自ら学ぶ意欲と自ら考える態度の育成に努める。</p> <p>学習指導要領にもとづいて教科・道徳・特別活動及び総合的な学習の時間の指導内容の充実を図る。また、蓄積した実践研究成果、少人数指導の成果をふまえ、指導方法及び授業改善を積極的に行い、目標の達成に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力診断テスト分析に基づく、授業改善の研究に取り組む。 ・少人数学級（6年）による生徒指導・授業づくりに取り組む。 ・学校として独自に少人数指導（3年4年5年の算数科）に取り組む。 ・重点研究教科である国語科を中心にした授業研究に取り組む。 ・全校補習、ドリル時間の充実、朝読書の充実を図るために教育課程編成の工夫を行う。 ・定期的な効果測定を行い、結果に応じた回復指導に取り組む。 ・連絡ノート、学級懇談会、学級だより・学校だよりを活用して、家庭との連携に取り組む。 	<p>○基礎学力診断テスト分析、学期毎の基礎学力達成状況をふまえ、多面的に課題克服に向けた取組を行うことができた。</p> <p>○とりわけ、少人数学級、少人数指導（独自）について個に応じた指導の充実を図ることができた。</p> <p>△基礎学力をきちんと身につけさせていくための日々の授業改善、効果測定に基づく即時回復指導の工夫、徹底を図る。</p> <p>△家庭とも連携し、確実に個に応じた回復指導を行っていく。</p>

生徒指導	<p>生徒指導においては、人権尊重という観点に立ち、教育活動全体を通じて、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り、より良い人格の形成を促すとともに、自ら課題を解決する意欲と実践力を育成する。また、「いじめ」「不登校」等の諸問題に対しては、日常的な教育相談活動を行うとともに「心の教育」の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営案作成時の指導・助言。学期毎の課題と課題克服方針を明確にするための評価に取り組む。 ・学級経営の安定を図るための事例研究に取り組む。 ・児童会活動を通して、多様な異年齢活動に取り組む。 ・自治能力を高めるための学級における自治的活動に取り組む。 ・定期的に生徒指導部会を開催し、的確に課題を把握し、課題克服方針を策定し、継続的に課題克服に取り組む。 ・特別に支援が必要な学年について、毎月1回の定例支援会議を開催し、実態分析に基づいた、具体的な指導内容の確認、支援方策・支援体制の確認を行い、全校体制で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全校的には、児童会活動の充実が図られ、異年齢の豊かな人間関係の育成が行えた。 ○学級経営についても、各学級実態に応じた課題の焦点化を図り、課題解決に向けて着実に取組を進めることができた。 ○組織的には、生徒指導部がセンター的な役割を果たし、課題解決の組織的推進を図ることができた。 ○支援が必要な学年について、落ち着いた状況で学校生活が送れるようになってきた。 △学級における自治的な活動を充実させる。
健康安全	<p>健康安全教育では、生涯を通じて体育・スポーツ活動に親しむことができる能力や態度を育成するとともに、体育・運動能力の一層の充実を図り、健康で安全な生活を営む、たくましく実践力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝マラソン、朝縄跳により、年間を通して体力づくりに取り組む。 ・年間を通して、計画的に食育・保健指導に取り組む。 ・生活点検を実施し、生活改善に取り組む。 ・よりよく生きるための性教育・薬物乱用防止教育に取り組む。 ・施設点検・管理を徹底し、生活安全指導に取り組む。 ・種々の危機状況を想定した、命を守るための避難訓練に取り組む。 ・登下校の安全を守るため、地域・PTAと連携して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して、体力づくりの取組を充実させることができた。 ○計画的に食育・保健・安全指導に取り組むことができた。 ○危機管理意識の高揚と、対応力を高めるための連携・訓練を行うことができた。 △生活安全に関わる環境整備に取り組む。 △地域安全のための組織強化を図る。
特別支援教育	<p>特別支援教育においては、心身の障害の状態や特性に応じ、特別な配慮の下に、障害の軽減・克服を図りながら、個性・能力の伸長とたくましく生きる力を培うとともに、人間尊重の精神を基盤にした「共に生きる心豊かな児童」の育成を図る。</p> <p>また、すべての児童が障害のある人を正しく理解するための指導を計画的に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に児童実態の把握を行い、指導・支援の在り方について協議し、全校体制で指導に取り組む。 ・正しい発達障害理解、特別支援教育体制の構築に関わる理論研修に取り組む。 ・特別支援教育コーディネーターを要し、教育支援を行うためのより効果的な校内体制づくりに取り組む。 ・個別の指導計画づくりを組織的に取り組む。 ・特別な配慮を要する児童の支援について、関係機関との連携を強化しながら取り組む。 ・全ての児童が障害のある人を正しく理解するための理解教育、特別支援学校との交流学习に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に丁寧な児童実態把握を行い、共通理解を図りながら、全校体制での指導を進めることができた。 ○発達障害理解・特別支援校内体制づくりに関わる研修を行うことができた。 ○関係機関と連携を図り、特別な支援が必要な児童について指導が行えた。 ○充実した理解教育、より関係を深めることにつながる交流学习が実施できた。 △校内の特別支援教育体制の整備を行う。 △支援会議の充実を図る。
研修(資質向上の取組)	<p>教職員は、その使命と責任を自覚し、豊かな人間性、広い社会性、高い専門性を身につけるため、不断の研鑽に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた研修計画を策定し、課題を焦点化させて研修に取り組む。 ・授業研究、児童理解、今日的教育課題等関わる実践的研修に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間計画に基づき、専門性の向上に係る理論的研修・実践的研修が実施できた。 △今日教育課題に関わる研修を充実させ、指導力の向上を図る。
保護者・地域との連携	<p>PTAをはじめ関係諸機関等との交流を通して、地域の生活や文化を教育の中に生かし、地域に開かれた学校づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との信頼関係を築き、子育て課題を共有するために、迅速、的確な電話連絡、家庭訪問等、誠実で丁寧な家庭との連携に取り組む。 ・教育活動のねらい、子どもの様子、連携課題を伝え、家庭との連携を密にするための学校だより、学級だよりの発行に取り組む。 ・PTA、地域各団体との交流の場を大切に、適切な情報交換を行い、協力して子育て課題克服に向けて取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○連携課題を明確にして、個別に丁寧な家庭との連携を行うことができた。 ○発信のねらいを明確にしたたよりの発行ができた。 ○PTAをはじめ、地域の各団体などとの連携を定期的に行うことができた。 △固有な課題克服につながる連携の仕方、日常的な連携の工夫を行う。
次年度に向けた改善の方向性	<p>【推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三者会議、企画委員会、分掌部会の計画的運営と各会議間の連携の工夫を行う。 ・学校経営システムの構築を図り、組織的・効率的・機能的にPDCAによる充実した学校運営を行う。 ・課題解決に向けて、各システムの機能化を図る。 <p>【教育活動・研修活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科を中心に、全教育活動で言語能力の向上をめざした教育活動の充実を図る。 ・課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力を育むための教育活動の充実を図る。 ・教科指導・生徒指導力の向上を図るために、理論的・実践的研修を充実させる。 <p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を学校教育の充実に生かすために、連携の在り方を追求する。 		

平成20年度 学校評価報告(小学校)

学校名 [京丹後市立豊栄小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教職員が一致した指導体制のもとに、保護者や地域の人たちと協力し合って、心豊かにたくましく、意欲的に学ぶ児童を育成する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○「豊栄ルール」を軸にした指導により、児童が自分の意見や考えを伝える力を少しずつ身につけ、落ち着いて生活できた。 ○京丹後市教育実践モデル校として、国語科を重点教科とした教材研究や模擬授業を積極的に行い教師の授業実践力、学級経営力の向上が見られた。 △校務分掌を見直し、児童課題の解決を目指した新たな組織体制づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導と生徒指導を教育活動の中心にすえ、児童個々の力を伸ばす学校運営 ・教職員が互いに切磋琢磨し、資質能力の向上を図る学校運営 ・教職員、児童がともに安心・安全な環境の中で教育活動に専念できる学校運営 ・地域、保護者と協力、連携しあう学校運営
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<p>児童一人一人の学ぶ意欲を育て学力の充実と向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標を明確にした分かる授業を創造する。 意欲的に学び合う学習集団を育てる。 豊かに感動する心の育成を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の具現化を目指し、PDCAサイクルの視点で学校課題を焦点化し、教育課程を設定する。 ・「京丹後市教育実践モデル校」として国語科を中心にした国語力の向上をめざし、「自ら学び、深く考え、生き生きと表現する児童」を育成するために授業改善を推進する。 ・基礎学力の充実を図り、15分間の朝読書設定、指導形態の工夫、昼ドリルの工夫・改善、家庭学習の推進、放課後・長期休業中の補充学習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをまとめ、相手に伝えることを意識して発表する児童が増えた。また、その研究過程、成果、課題をまとめた冊子を京丹後市内小学校に配布する。 ○複数指導体制により児童課題が全教職員で共有化でき、個別指導で児童の達成感が高まった。 ○地域の特色を活かした豊かな体験活動が実施できた。 △児童に「自ら学ぶ」ことへの意欲を持たせ、主体的に学ぶ自己教育力を育成する。
生徒指導	<p>共感的理解に基づいた好ましい人間関係を築いていける力を身につける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態交流を日常的に行い全教職員で共有化する。 ・集団生活のルールやマナーの指導を行い、規範意識を培う。 ・家庭、保護者との連携を充実し、基本的な生活習慣を体得させ、生活のリズムを確立させる。 ・日常生活での優しい言葉づかいや、挨拶の励行を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣をつけるために家庭と連携した取組を実施し、意識化が進んだ。 ○問題事象には、生指主任を中心にしたタイムリーで迅速な組織対応が定着し、早期解決につながった。 △事例研修や中学校との連携を進める。

健康安全	健康で安全な生活を営む実践力を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠状況の把握と朝の健康観察を充実する。 ・性教育、薬物乱用防止指導を行う。 ・日常の安全指導及び事例の教材化、救急法講習会を実施する。 ・給食の衛生管理と指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○養護教諭の積極的な取組により、教職員の危機管理意識が高まった。 ○栄養士による栄養指導により、充実した食育学習が実施できた。 △トイレスリッパの使用により、児童の衛生管理意識の高揚を図る。
特別支援教育	支援の必要な児童一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育課程を編成し、学ぶ意欲と基礎学力の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・支援教育に係る校内指導体制（サポートチーム）を確立するとともに、具体的な指導方法について研修を実施する。 ・特別な支援が必要な児童の実態を把握し、関係機関と連携した教育相談を継続する。 ・個別の指導計画による個に応じた指導を進める。 ・保護者への啓発を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員の協働支援体制、発達検査の早期実施、保護者や関係機関との連携で個別の課題に応じた指導が進められた。 △保護者と連携を密にし、就学指導を進める。 △中学校との連携を強化する
研修（資質向上）	<p>学級経営力、授業実践力の向上を目指し、積極的に研修に取り組む。</p> <p>教育実践モデル校としての取組を校内研修の活性化と学校力向上につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年の研究授業に低高各ブロック研が主体的に取り組み、指導力授業実践力の向上をめざす研究を進める。 ・ワークショップ型の事後研、講師を招聘しての校内研修を積極的に行う。 ・外部の研修会に参加できる後補充の体制を作り協力する。また、研修で学んだことは復講習を行い、本校の実践に積極的に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○低高ブロック研が活発に機能し、授業研究、事後研究会が充実し、指導力向上につながった。 ○外部研修の復講習は本校の日々の教育実践に生かされた。次年度も継続する。 △次年度の校内研修は、年間計画を立て、より見通しをもって実施できるようにする。
保護者・地域との連携	開かれた学校をめざし、保護者、地域と協力、連携しあう学校運営を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット「豊栄小の教育」をPTA総会、学校説明会の場で保護者に説明し、学校への理解につなげる。 ・学校だよりを校区全戸に配布し、学校運営や教育活動について情報発信し、気軽に足を運べる開かれた学校づくりにつなげる。 ・地域人材、施設、設備を活かした学習活動を積極的に推進する。 ・学校評議員、民生児童委員との連携を密にする 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭訪問を丁寧に行い、保護者との信頼関係を深めた。 ○PTA、学校評議員、民生児童委員、地域ネットワークの協力により様々な情報を得ることができ、迅速で確実な対応を進めることができた。 △地域安全ボランティア組織の再構成
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・児童につけるべき力を、明確で具体的な目標（キーワード）として設定し、全教職員が共通認識を持って指導にあたる。 ・教職員との信頼関係を強め、日々、報・連・相にこだわりながらきめ細やかな指導を進める。 ・教職員一人一人の努力と、協働的な組織力で教育を推進する姿勢を継続させる。 		

平成 20 年度 学校評価報告(小学校)

学校名〔京丹後市立間人小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>しっかり考え、自分の考えや思いを表現できる児童の育成</p>	<p>与えられた課題に対しては、考えて解決できるようになってきたが、まだ自ら考える力は弱い。また、練習を繰り返したり、決められた発表方法であれば、自信を持って発表できるようになってきたが、そうでない場合は、まだまだ厳しい。</p>	<p>「学力を付ける」「豊かな心を育てる」「健康な体を作る」ことを目標に、以下の視点で取り組む。 (1) 意味を考え取り組める児童の育成 (2) 自分の考えを理由をつけて言える児童の育成</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	(1) わかる授業・楽しい授業 (2) 考える力を育てる。 (3) 表現する力を伸ばす。 (4) 読む・書く・計算する力を伸ばす。 (5) 読書活動を進める。	<p>○ 何が分かったり、出来たりすればよいか、よく分かる授業作り。</p> <p>① 意味や理由を考える場面を授業に取り入れる。 ② 学んだことを利用したり、活用したりする場面を授業に取り入れる。</p> <p>① 自分の考えを、理由をつけて発言する授業をする。 ② 発表や発言の仕方を授業で教える。</p> <p>① 国語タイム・算数タイムでドリル学習を行う。 ② 「家庭学習の手引き」を生かし家庭学習の充実を図る。</p> <p>① 全校で10,000冊読書を目指す。 ② 家庭読書を進める。</p>	<p>○ 目標を明確にした授業を行い、児童は力を付けた。 ○ 繰り返し練習することで、身につく「読む、書く、計算する力」を伸ばすことができた。 ○ 自然に本に親しめるようになり、読書力が付いてきた。 ○ 家庭学習の定着が一步進んだ。 ○ 書いてまとめる、自分の気持ちを素直に書き表す等書く力が付いてきた。 △ 考える力を伸ばすことが大きな課題。 △ 意見に理由を付けて発言する力の伸張。 △ 自分の意見をわかりやすく伝える力の伸張。 △ 書いたことを発表につなぐ指導。</p>
生徒指導	(1) 児童課題解決を焦点化させた学級経営をする。 (2) 自治の力を育成する学級・全校活動を進める。	<p>① 低・中・高学年の発達の特性を基盤にした学級経営を進める。 ② 人権教育・道徳教育を基盤にした学級経営を進める。 ③ カウンセリングマインドを生かした児童対応をする。 ④ 生徒指導の機能を生かした学級経営をする。 ・ 自己決定する場面を与えるような取組をする。 ・ 自己存在感を与える場面を与えるような取組をする。 ・ 仲間づくりが進む取組をする。 ⑤ 特別支援教育部や教育相談部と連携をした取組を進める。</p> <p>① 共通の感動体験が持てるような取組をする。 ② 一人一人に成功感や存在感が味わえるような取組にする。 ③ 児童の自発的・自主的な活動を大切にしたい取組にする。</p>	<p>○ 低、中学年では発達特性に応じた指導ができ、児童も力を付けた。(規範的態度・生活リズムの育成、友達と関わる力の伸張) △ 中・高学年における、自律的な態度の伸張 ・ 友達を思いやる、友達の立場に立てる力の伸張 ・ 自分を客観的に見る力の育成 ・ 自分を大切にしたい心身の育成 △ 異年齢での取組の一層の充実を図り、自発的自主的な活動の充実を図る。 △ 児童個々について保護者と一層連携を深め指導に当たる。</p>

健康安全	<p>(1) 体に関する科学的な認識を育てる。</p> <p>(2) 健康な生活をつくる。</p>	<p>① 「食育教育」を行う。 ・4観点(体の健康・心の育成・社会性の涵養・自己管理能力)で取り組む。</p> <p>② 生命の尊厳・人権尊重を基盤とした学級指導と保健授業を行う。(心と体の教育等)</p> <p>① 健康な生活づくりの取組をする。(学校生活・家庭生活点検等)</p> <p>② 継続的で粘り強い体力作りの取組をする。</p>	<p>○「食と体」・「生活と体」についての基礎知識について理解が進んだ。</p> <p>△得た知識を活かし、実生活をより良くしているようとする実践的態度の育成が課題である。</p>
特別支援教育	<p>(1) 障害のある児童個々の教育的ニーズに応じた教育課程を編成し、自分で生きていく力を育てる。</p> <p>(2) 特別な教育的支援を必要とする児童個々に目を向け、校内体制の確立を図り、個々の実態に即した指導を組織的に展開する。</p>	<p>○ 特別支援学級・通級指導教室の指導の充実を図る。 ・個別の指導計画を作成し、指導する。 ・基礎学力と社会性を身につけさせる指導を行う。 ・家庭との連携を図る。</p> <p>○ 普通学級での特別な教育的支援の必要な児童への取組。 ・アセスメント表・個別の指導計画を作成し、指導する。 ・指導上配慮を要する児童の状況をつかみ、組織的に対応する。 ・家庭との連携を図る。・関係機関との連携を図る。</p>	<p>○特別支援学級・通級指導教室では、個の課題に応じたきめ細かで、効果的な指導を導を積み上げ、基礎学力の充実や課題の克服が一歩進んだ。</p> <p>△一層個々の課題を、発達の、環境的、心理学的、身体的視点等から把握し、より有効な個別の指導計画を作成し、個々の課題を解決していく。</p> <p>△普通学級での特別支援の必要な児童の指導。</p>
研修(資質向上)	<p>・教職員評価を活かして教職員の資質向上を図る。</p>	<p>① 自分の立てた目標について評価し、自分の実践を振り返り、実践力の向上に生かしていく。</p> <p>② 年度当初・中間・年度末に面談を持ち、自己評価の機会とする。</p>	<p>○経験年数の少ない教員の専門性(授業力、学級経営力等)の向上が図れた。</p> <p>△職員の社会性、人間性の一層の向上</p>
保護者・地域との連携	<p>(1) 保護者との連絡を密にし、児童課題について共通理解を図り取組を進める。</p> <p>(2) 地域の自然や人々から学ぶ。</p>	<p>① 学級通信等で学級・学校の様子を家庭や地域に知らせる。</p> <p>② P T A・学校評議員・民生児童委員・守る会と連携して取り組む。(食に関する指導、家庭学習の確立、読書習慣の確立、健康な家庭生活、授業参観日、行事アンケート・学校評価アンケート)</p> <p>③ 児童個々の事柄については、直接、保護者と面談して話す機会を作る。(家庭訪問を大切にします。)</p> <p>① 生活科・総合的な学習など地域教材から学ぶ取組を進める。</p> <p>② 地域の行事等への積極的な参加を勧める。</p>	<p>○学級通信・学校便り等で学校の様子や児童の様子を保護者や地域に発信し、学校や児童理解が一歩深まった。</p> <p>○安全・安心の取組を通して、地域諸団体と学校との連携が進んだ。また、地域の自然や産業、歴史等について学ぶことができた。</p> <p>△児童個々について保護者と一層共通理解が図れるよう丁寧な連絡をし、連携を進める。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>次年度も「学力をつける」「豊かな心を育てる」「健康な体を作る」を目標にする。最も大きい課題が、「心の育成」である。学力の視点では、「読み・書き・計算」から「分かって使える」「応用・活用」が課題となる。</p> <p>(1) 意味を考え取り組める児童の育成</p> <p>(2) 自分の考えを理由をつけて言える児童の育成の充実を図ることで「考える力」を伸ばし、特に豊かな心(「相手の立場に立って考える力」「自律的な力」「自治の力」の育成等)、確かな学力(「分かって使える力」「応用・活用力」の育成等)の伸張を図っていく。</p>		

平成 20 年度 学校評価報告(小学校)

学校名 [京丹後市立竹野小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
(1) 授業改善を進め、学力向上を図る教育活動 (2) 児童がのびのびと活動に励む教育活動 (3) 情報発信と関係機関との連携を推進する教育活動		暗記した発表等表現力は伸びてきている。しかし、同一小集団による固定的な見方や対外的なことへの挑戦意欲に弱さがあり、考え深め合うことや筋道だった思考の弱さが見られる。家庭学習の時間、自然体験や生活体験の不足、更に地域の特色等にもあまり目が向けられていない状況がうかがえ、学力の幅が広がっていかない面も見受けられる。	(1) 力実態の把握と基礎基本の徹底 (2) 少人数における学習指導のあり方の研修 (3) 音楽フェスティバルの取組から情操等心豊かな児童の育成 (4) 特別支援、教育相談、生徒指導の連携と手だて (5) 保護者・地域への情報発信、啓発
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	○実態に基づき、複式学級を含む教育課程の編成 ○基礎基本を徹底し、学力向上を図る。	○年間計画、月案、週案の作成により、計画的な教育課程の進行を行う。 ○複式学級を含め、合同体育など集団性を重視した編成を行う。 ○国語科の重点研究により授業改善を進め、基礎基本の徹底を図る。	○授業時間数の確保はできた。 ○合同体育等は集団性に活かすことができた。 △授業研究により表現力等一定成果を上げたが、理解を深めるための練り合いの活動が弱かった。
生徒指導	学校生活が安心安全で、協力し合えるようにする。	○問題事象に対して、迅速な事実把握と状況判断を的確に行い、解決に向けた方針の下に丁寧に指導に当たる。	○大きな問題事象は発生せず、一過性の事象も迅速に対応できた。 △気になる事象を機を逸せず捉え、報告と指導を行う。 △積極的な生徒指導に努め、月目標等児童会との連携した取組にする。
健康安全	心身ともに健康で安全に生き抜くたくましい実践力ある児童の育成	○基本的な生活習慣の確立へ向け、実態調査に基づき取り組む。 ○保健指導を学期に1回、内容を焦点貸して取り組む。 ○食に関する指導と学期毎の保健指導を充実する。	○学期始めに生活点検をすることで意識づけられた。 ○学期毎に期間を設け、季節や行事と合わせて取り組み、身近な問題として意識づけられた。 ○栄養士からの指導により食習慣の見直しに生かされた。 △意識を継続させる取組が必要。

特別支援教育	個々の実態を把握し、意欲を見せる指導に進める。	<p>○すべての児童が、豊かにたくましく生きる力を培うことを目指し、個に応じた適切な指導や支援を行い、一人一人の個性・能力を十分に伸張させる。</p> <p>○配慮を要する児童、気になる児童の指導のあり方について共通理解し、全教職員が一致した指導に当たる。</p>	<p>○個別の指導計画を作成し学期毎に指導のあり方について協議し、全教職員が共通理解の上、指導に当たることができた。</p> <p>○教育相談部、就学指導部と連携し、取組を進めることができた。</p> <p>△定期的な部会を持ち、さらにきめ細かな指導に当たる。</p>
特別活動	諸活動において、積極的に活動する児童の育成を図る	<p>○学期 1 回の重点取組を学級経営とつなげ、目標を持ち、日々振り返りながら取組を進める。</p> <p>○異年齢集団活動を通して、全校児童の連帯感を深め、好ましい人間関係を育てるとともに高学年の指導性を高める。</p> <p>○児童が自分達の力で実現可能な内容を見つけ、自分の持っている能力を生かしながら、協力して共通の興味・関心を追求する活動に喜びを持たせる。</p>	<p>○取組過程を重視し、高学年のリーダー性を養うことを重点として指導し、その力を十分に発揮した取組ができた。</p> <p>△系統的にリーダー養成のプログラムを作成し、低学年から意識した取組を進める。</p> <p>△学級からの提起を委員会活動に生かす。</p> <p>△クラブ活動のあり方を見直す。</p>
保護者・地域との連携	情報の発信と収集に努め、学校教育活動への理解を深める	<p>○学校だより、学級だよりを発行により、学校教育、学級の教育活動啓発や理解を深める。</p> <p>○様々な機会を捉え、学校教育活動に対する情報収集と発信を進める。</p>	<p>○各たより等を通して教育活動を理解していただいた。</p> <p>○2 学期から HP を一新し、情報発信に生かした。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>(1) 複複式の学級編成に対応した教育課程を編成する。</p> <p>(2) 一層少人数の指導のあり方について研修し、指導力量の向上に努める。</p> <p>(3) 一人一人の課題を明確に把握し、個に応じた指導を進める。</p> <p>(4) 児童会活動を含め、集団性を重視した活動を充実させる。</p> <p>(5) 生活習慣の確立を進め、健康で安全な学校生活を送らせる。</p> <p>(6) 保護者、地域との連携を深め、様々な方法、機会を捉え、学校教育への理解と啓発に努める。</p>		

平成 20 年度 学校評価報告(小学校)

学校名〔京丹後市立宇川小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 教育推進体制の確立 2 豊かな人間関係づくり 3 教育環境づくりと整備 4 地域に開かれた学校づくり 5 特色ある学校づくりの推進		○家庭学習がんばり表を積極的に実施することにより、学年毎の家庭学習時間が定着した。 △家庭学習の手引きの改訂を行ったが、活用が図られているかを検証することが必要であった。 ○SC・保育士・特支学校等の連携を積極的に行うことにより、児童理解が深まり指導の幅が出た ○生徒指導において、年間指導計画に沿って生活アンケートを学期毎に実施し基本的な生活習慣の確立のため保護者と連携し取り組むことができた。 △思いやりがあり挨拶のできる学校が、本年度の学校目標であったが、ねばり強くやりきることが不十分であった。 ○豊かな環境づくりに向けて、やる気と親切丁寧な対応に努めることにより、保護者・地域の支援が得られた。 △教職員が積極的に地域行事への参加する体制づくりが必要である。	1 基礎基本の徹底と主体的に学ぶ児童の育成 2 家庭・地域との連携により、規律ある生活の確立と人権尊重を基盤とした生徒指導の充実を進める。 3 支援を必要とする児童の個に応じた指導計画・指導方法の工夫改善を視点とする特別支援教育を進める。 4 教育相談機能を充実した不登校児童ゼロの未然防止を進める。 5 関係機関との連携による安全管理・安全指導の充実を図る。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1 観点別評価・評定の全教職員による検証 2 一斉授業における個に応じた指導の工夫 3 教材・教具の有効活用 4 学力テスト等の分析による指導方法等の改善 5 言語活動の適切な指導	1 年度末に教科のまとめによる申し送り事項を、年間指導計画・評価計画に沿って実施する。 2 一斉授業での教材等の活用方法・設問・返答・目安のしぼりこみ等を重視した校内研修の充実を図る。 3 教材教具の整理整頓の励行と活用方法の研修を進める。 4 各種テスト結果の分析を全教職員の共通理解のもと指導方法等の振り返りにより、次につなげていく研修を行う。 5 自分の思いを、大切な言葉を抜かずに簡潔に表現する。	○授業時間確保に努めた。 △教科指導において、学年の相互関連を図ることが必要である。 ○個々の児童の実態把握に努め、家庭学習がんばり表の活用によって、家庭との連携ができた。家庭での学習時間が定着した。 △話すことの力を伸ばすために、書くことを意識した取組を充実させていく。

生徒指導	<ol style="list-style-type: none"> いじめ・不登校の未然防止 思いやりがあり、挨拶ができる。 基本的生活習慣の定着 	<ol style="list-style-type: none"> 学校組織として対応し、担任1人が問題を抱え込まない。 常に危機意識をもち、生徒指導部と教育相談部会の定例化を図り、提案に対して早く全教職員の共通理解を図り、早期の問題解決に努める。 家庭・関係機関との連携を図る 生活アンケートを学期2回実施し、家庭と連携し基本的生活習慣の定着を図る。 	<p>○生徒指導部が主体となり提案し、学校組織として全教職員の共通理解のもと活動・対応を図ることができた。</p> <p>△課題克服に向けて、粘り強くやりきることが不十分であった。</p> <p>○子どもの不安や欠席等に対する兆候を見逃さず、危機意識をもって不登校の未然防止に努めた。</p>
健康安全	<ol style="list-style-type: none"> 学校の施設設備の安全管理 性教育の充実発展 体力向上 	<ol style="list-style-type: none"> 宇川子どもの安全を守る会の充実発展と安全マップの改訂 性教育の系統性の整理と小中の連携を図る 体力の発達の度合を大切にして、体力向上の具体的な方策と子どもの運動に対する意欲を喚起する 	<p>○避難訓練の実施により、自主的に避難することができた。</p> <p>△日常生活での危機意識や指導が希薄である。</p> <p>△体力づくりにおいて、計画的・具体的な数値を出して、系統的にねばり強く取り組むことが不十分である。</p>
特別支援教育	<ol style="list-style-type: none"> 個別の指導計画作成の充実 特別支援学校等との連携 	<ol style="list-style-type: none"> 幅広い研修の活性化と充実 就修学において、特支学校や関係機関との連携により、子どもの適正な就修学を図る、 	<p>○特別支援学級児童の個別の指導計画は、個々の児童の発達目標に向けて、きめ細かな視点で作成できた。</p> <p>△気になる児童へのきめ細かな指導が不十分であった。</p>
(A)道徳	<ol style="list-style-type: none"> 学習資料集等の活用 年間指導計画に沿った授業 	<ol style="list-style-type: none"> 道徳の時間で使用する学習資料集等を明確にする 豊かな体験学習によって、協働意識・思いやり等の豊かな心の育成を図る 	<p>○地域の清掃活動でボランティアとして参加する子どもが増えている。</p> <p>△道徳の時間の指導略案作成と活用した資料集等をファイル化することができきれなかった。</p>
保護者・地域との連携	<ol style="list-style-type: none"> 保護者・地域から信頼される学校づくり 本校の行事に、保護者や地域の人が積極的に参加する 	<ol style="list-style-type: none"> 地域教材を積極的に活用し、地域の支援により宇川の子どもの豊かな育成を図る。 保護者・地域に丁寧に積極的に学校行事の情報を発信し、気軽に来校できる学校づくりを進める。 	<p>○学年ごとに地域教材を活用するために系統的な整理を図った。</p> <p>○学校行事は毎回多くの方の参加が得られた。</p> <p>△教職員が地域の行事等に積極的に参加していく体制が不十分であった。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 学校組織としての協働体制の確立 新学習指導要領実施に向けて特色ある教育課程の編成 児童の学力状況を的確に把握し基礎基本の徹底 特別支援教育における、個に応じた指導計画・指導方法の工夫による個性の伸長 		

平成 20 年度 学校評価報告(小学校)

学校名〔京丹後市立吉野小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
計画的・組織的な学校運営を基盤として生きる力を育成するとともに開かれた特色ある学校づくりを推進し、教育の活性化を図り、学校改善を推進する。		図書館教育の研究推進を通して国語科の授業研究が充実し、授業の質の向上を図ることができ、一定国語力の向上を見ることができた。更に、漢字力等について全校的組織的な取組が必要となる。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館教育研究大会の成功に向けた研究推進の充実 ・「読書大好き吉野っ子」をめざした国語力の育成 ・感動、感激、感受する体験活動の取組 ・生活リズム、挨拶、学習規律の徹底充実
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書大好き吉野っ子」を目指した読解力・漢字力・表現力の育成 ・感動的な体験活動による学力と心力の育成、生きる力の展望 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学ぶ力を育成し、読解力・漢字力・表現力(話す・聞く、読む、書く力)を付ける。 ・図書を活用した学習に取り組み、資料を活用する力を高め、読書の幅を広げる。 ・補充の時間(吉野タイム、チャレンジタイム)を活用し読み・書き・計算など基礎的な学力を身に付け定着させるため、集中して繰り返し学習に取り組みさせる。 ・1時間の指導目標を明確にした授業づくりをする。 ・自分で考え、自分の考えを表現する力を伸ばし、またその場を設定する。 ・場に応じた言葉遣いや声の大きさの指導を充実する。 ・学習の手引き等を活用し、学習習慣の確立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1時間の学習スタイルの定着を図り、児童が見通しを持って学習に取り組めるようにすることができた。 ○関連図書を使った学習を意識したことで、多くの図書に触れることができた。 ○漢字の定着に向けて計画的に繰り返し指導したことで、該当学年の漢字を習得できた。 ○学習のまとめを利用してレポート作成に取り組み、分かりやすくまとめられる児童が増えた。 ○群読の取組は、発表の目標と見通しを持たせて取り組み聞き手を意識した発表態度が育成できた。 △話を聞く態度に課題があり、聞くポイントをはっきりさせた聴き方を指導する必要がある。 △漢字指導は継続する事が、更に児童に力を付けるためには大切である。
生徒指導	豊かな心、逞しく生きる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と教職員、児童相互の心のふれあいを大切にし、確かな信頼関係をつくる。 ・学級活動や異年齢集団活動などの特別活動を通して、豊かでたくましい心と主体的に判断し行動する力を育てる。 ・基本的な生活習慣を体得させるとともに、発達段階に応じた判断力・自立心を育てる。 ・教職員の一致した指導体制の確立をめざし、いじめや不登校を防止するように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師間の緊密な連携を図り、不登校傾向の児童への対応を迅速に図ることができた。 ○人間関係に関わる課題があり、児童の思いを丁寧に聞き対応することを大事にして指導できた。 ○毎月児童の実態交流を行い共通理解が図れた。 △毎学期生活リズムの点検をし、繰り返し指導したが、家庭を巻き込んだ指導の充実が必要である。 △より丁寧な児童分析や対応の仕方などの研修を更に深める必要がある。

健康安全	健康と安全について自己管理する能力と態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 健康に対する認識を高めるため、健康安全計画に基づいた保健指導を行う。 避難訓練、防犯訓練、登下校時の安全指導、校舎内外の安全点検を通じて、身の回りの危険に気づき正しく判断し安全な行動がとれる能力と態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級における保健指導を計画的に実施できた。 ○交通安全教室・防犯訓練・防災訓練を全校で計画的に実施し、安全に対する意識を高めることができた。 △交通指導は、今後も更に充実させ継続して指導していく必要がある。
特別支援教育	特別支援の必要な児童の個性・能力の伸長と生きる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 児童の障害の状況を把握し授業改善を行う。 全児童との交流と相互理解を図る。 保護者・地域社会に対する特別支援教育の啓発を行う 教職員研修の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アセスメント票・指導計画・個別の支援計画を作り実践した。 △PTAの理解を深める研修を実施できなかった。 △在籍児童以外の支援の必要な児童への研修や事例研究を更に深め、適切な理解と支援をしていく必要がある。
研修(資質向上の取組)	全教職員の資質能力の向上を図るための研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が組織的に協働し教育目標の達成に向かう教育活動に取り組む。 図書館教育の推進を通して、全教職員が国語力を高める研修や授業研究に努める。 授業研究部、表現力育成部、環境整備部の成果を共通理解し取組を推進する。 各分掌主任としての自覚、自己の実践計画による目標達成の実現をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館教育研究大会へ向けての研究推進を通じ、協働の組織体制で教育活動を実践することができた。 ○計画的な校内研修を充実し、全学年で国語力を高める授業研究を中心に授業力を向上することができた。 ○研修で学んだことを実践し指導力の向上につながった。 ○研修会等で研修した内容を復講習し、校内に広めることができた。 △新学習指導要領への移行や授業改善のための研修を更に充実させる必要がある。
保護者・地域との連携	開かれた学校づくりに努め、地域に信頼され・協働する学校をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動を公開し、開かれた学校づくりに努める。 学校評議員、民生児童委員との連携を強化する。 地域の人的・物的資源の有効活用及び地域・保護者との連携を強める。 吉野小学校区地域安全ネットワーク会議・ボランティアの方々との連携を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者以外の地域の方にも参加していただき、学校や児童の様子を見ていただくことができ、地域との結びつきが強まった。 ○年間を通じて読み聞かせボランティアの協力を得、読書意欲の向上を図ることができた。 ○保護者・地域と強く連携した全校の伝統的米づくりの取組を実施できた。
次年度に向けた改善の方向性		<ul style="list-style-type: none"> 教職員の資質能力の向上のための研修を充実し、授業改善を更に進める。 図書館教育の研究成果を継承発展し、学力の向上に向けた取組を充実する。 不登校、いじめ、特別な支援を必要とする児童への対応を充実する。 安全指導を徹底し、事件・事故の発生を未然に防ぐ。 家庭・地域との連携強化し、開かれた学校づくりを推進する。 	

平成20年度 学校評価報告(小学校)

学校名 [京丹後市立溝谷小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「挑戦意欲と心の安定」と「確かな学力」を培う</p> <p>(1) 確かな学力を培う基盤として、全教育活動を通して良好な関係づくり、個に応じたベストなかかわりを重視し、豊かなコミュニケーションをとおして心の安定や意欲的に挑戦する、我慢する、最後までやり通す等の逞しい心及び逞しい身体を持った児童を育成する。</p> <p>(2) 確かな学力をつけるため、言葉を大切に、よく聞き、意欲を持って学び、考える力や自分の言葉で伸び伸びと表現できる力、考える力を育む授業づくり及び学習環境づくりを進める。</p> <p>(3) そのために、教職員は豊かな人間性を身に付け、日々研鑽して個々の指導力、実践力を高める。</p>		<p>○ 「ことば」「規律・規範意識」を切り口に学校の重点課題解決に組織的に迫り、よりよい「学校風土」づくりに更に一步近づけた。</p> <p>○ モデル校指定も生かし、課題、視点を明確にした重点研究が進み、校内授業研、グループ研の活性化、研究実践の積み上げと深まりにつながった。また、校内研修活動を通して学び合い、育ち合い、実践力の向上が図られた。</p> <p>○ 学力課題を踏まえた補充学習、全校的な取組や個に応じた学習支援が組織体制で行われ、課題克服に迫れた。</p> <p>○ 指導・支援部を核とした配慮する児童の実態把握と児童・保護者への組織的な指導・支援が児童の変容と理解・啓発に繋がった。</p> <p>△ 「確かな学力」を培うために、実践力の向上、本校としてつけるべき学力を明確にしたより一層の授業研究の推進と実践力の向上</p> <p>△ 「児童を動かす」指導から「児童が動く」指導への転換</p> <p>△ 自主・自律・自立力醸成とリーダー意識の高揚や多様な児童集団の場を活用したリーダーの育成</p> <p>△ 家庭・地域との連携の強化と連携内容の充実。健全育成・安全確保</p>	<p>○ やさしさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いい声、いい言葉によるいい心のつながり (挨拶・返事) ・違いの認め合い ・責任遂行 ・協力 <p>○ かしこさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかり聞く ・話す ・読む ・よく考えて学ぶ ・よく考えて行動する <p>○ たくましさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我慢する ・挑戦する ・最後までやりとおす
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<p>○ PDCAサイクルによる教育課程経営と実質的な授業時間数の確保</p> <p>○ 国語力の育成と確かな学力の定着</p>	<p>○ 短期評価を生かした教育課程の進行管理</p> <p>○ ゆとりある週時程の工夫</p> <p>○ 国語力、確かな学力の充実・向上につながる授業づくりと授業研究の推進</p> <p>○ 診断テスト・学力調査の分析、活用</p>	<p>○ 行事毎、月毎に評価を行うことによって個々の教育活動の有機的な繋がりが図られた。</p> <p>○ 週指導計画案と年間指導計画の進捗状況を把握しながら時数管理を行い、計画的な指導が出来た。</p> <p>○ 「話すこと・聞くこと」を意識して取り組む中で発表に繋がりのある授業が増えた。</p> <p>○ 診断テスト分析等とおして課題を明らかにした取組及び検証が出来た。</p> <p>△ 新学習指導要領移行に伴う週時程の工夫</p> <p>△ 指導力向上に向けた校内研修の一層の工夫</p> <p>△ 計画的な補充学習及び内容・検証方法の一層の工夫</p>
生徒指導	<p>○ 生徒指導の3機能が働く居場所のある学級集団、全校集団の育成</p> <p>○ 人権意識の高揚、規律の確立・規範意識の醸成</p>	<p>○ 豊かな人間性の育成に繋がる集団活動の工夫・改善</p> <p>○ 良好な関係・かかわりを基盤とした共感し合える集団の育成</p> <p>○ 規律・規範意識の醸成をとおした自律・自立的な集団の育成</p>	<p>○ 安定した学級経営の中で児童の良好な関係が図られてきている。</p> <p>○ 月目標を設定し、全校一斉に取り組む中で短期目標の具現化が図られてきた。</p> <p>△ 異年齢集団活動を計画的に実施し、一層の充実を図る。</p> <p>△ 規律・規範意識の醸成</p>

健康安全	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら進んで健康な体作りに取り組む児童の育成 ○ 安全指導安全管理の徹底による危険予知及び回避できる児童の育成 ○ 生命や人権の大切さが分かる児童の育成 ○ 望ましい食習慣の形成や好ましい人間関係の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 始業前に体力づくりを実施 ○ 生活実態調査、「よい生活習慣作り」の取組を実施 ○ 月別健康目標の設定と指導。保健だより等を活用した保健指導（養護教諭とのTT指導含む） ○ 避難訓練や防犯訓練の実施、安全点検日を設定し期間箇所の点検 ○ 性教育月間の設定 ○ 給食の年間指導計画を作成して計画的に実施、給食週間の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 始業前に年間を通した体力づくり（マラソン・縄跳び）を実施する中で主体的に取り組む児童が増えた。 ○ 生活習慣を意識する児童が見られるようになった。また、結果を保護者に知らせる中で保護者の意識も高まりつつある。 ○ 養護教諭と連携した保健指導が実施できた。 △ 給食指導の一層の充実（マナーを含む） △ 児童の安全意識・危機管理意識の向上
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々の障害の実態を的確に把握し、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育課程の編成 ○ 障害のある人についての正しい理解と認識の育成 ○ 特別支援教育について保護者や地域社会の理解と認識を深めるための啓発の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内委員会の充実と支援体制の整備 ○ 児童の的確な実態把握（行動観察、発達検査等）及び交流 ○ 個別の指導計画の見直しによる指導方法の工夫・改善 ○ ふれあい交流会、交流学習をとおして児童への啓発 ○ 授業参観、PTA総会、新入学児童入学説明会等をとおして保護者への啓発 ○ 関係諸機関と連携した地域社会への啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内委員会を定例化し、児童の状況交流を図った。その中で、児童が落ち着いてきた。 ○ 児童や保護者に対していろいろな場をとおして啓発を図る中で理解も深まってきている。 △ 個別の指導計画の見直しと活用方法の工夫 △ 個に応じた指導方法の一層の工夫改善
研修（資質向上の取組）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重点課題解決に繋がる校内研修と組織の活性化 ○ 主体的な外部研修への参加と専門性、資質・能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語科を核とした重点研究推進による授業研究の活性化と組織内での学び合いの推進 ○ 校内事例研修による学び合い、相互評価 ○ 外部講師等の招聘 ○ 主体的な研修参加と復講習による学び合い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ KJ法など、新しい手法も取り入れた校内研修を行い、研修の内容充実が図られた。 ○ 学級経営について事例研究会を実施し、学級経営力の向上が図られた。 ○ 外部講師を招聘し国語についての研究が深まった。 △ 校内研修に対して教員の主体的な参加 △ 研究の継続的な積み上げ
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人材、素材、コミュニティ力を生かした家庭・地域社会との連携 ○ 地域を生かした豊かな体験活動の工夫・改善 ○ 安全確保、健全育成の充実 ○ 学校評価、説明責任の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域人材、素材、施設・設備を生かした学習活動の工夫 ○ 児童実態、課題の共有化と双方向からの解決 ○ 地域と連携した安全確保・健全育成（校区ボランティアの会） ○ 学校評価、外部アンケート等による説明責任の遂行 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な学習の時間等において地域の人材等の活用が図られた。 ○ 学校だより等が定期的に発行できた。 △ 関係機関等との連携強化 △ 学校評価、外部アンケート等の工夫・改善
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新学習指導要領完全実施に向けて、特に外国語活動、総合的な学習の時間、算数、理科等の指導内容の充実、的確な時数管理を行う。 ○ 学習集団の視点も持ちながら授業づくりについての研究を進めるとともに、研究内容を明確にして積み上げを図る。 ○ 個々の児童の居場所のある学級経営に努めるとともに、規範意識の醸成を図る ○ 異年齢集団活動を計画的に実施し、児童の好ましい人間関係の育成を図る。 ○ 特別支援コーディネーターを活用し、個に応じた指導を組織的に行う。 		

平成 20 年度 学校評価報告(小学校)

学校名〔京丹後市立鳥取小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 不登校児童の未然防止(不登校児童「0」の継続) 2 小学校の果たす役割への意識の高揚 3 若手教職員の人材育成		(成果) 1 学力向上に向けた様々な取組の実施 2 四部会を中心とした協働意識の確立 (課題) 1 個を生かす指導、個に応じた指導の徹底 2 各部会の横の連携と経営参画意識	1 学力の定着と充実 2 豊かな心の育成 3 逞しい心身の向上 4 協働体制の確立
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	確かな学力の定着と基礎・基本の徹底	(1) 朝ドリル(漢字・計算・活用問題・学級課題)の実施 (2) かがやきタイム(学力充実タイム)を複数指導で実施(毎水曜5校時) (3) 低・中・高学年グループ研究会を組織し、授業研究を通して指導法の研究を推進(全学年での授業研究を実施) (4) 「家庭学習の手引き」の作成・配布 (5) 学習規律についての月目標の設定	○授業研究会の実施により、指導法の工夫改善を図った。 ○かがやきタイムを複数体制で指導をすることで、意欲的に学習することができた。 ○月目標の設定により、学習規律を意識する児童が増えた。 △個に応じた指導、個を生かす指導に不十分さが見られる。 △補習の時間の確保が不十分である。
生徒指導	豊かな心を育む学級経営・教育相談活動の充実	(1) 生徒指導部会の定例化(週1回) (2) 教育相談部会と学級担任の合同部会の開催 (3) 学級経営における交流会の実施 (4) 児童会活動の推進	○部会の定例化により、共通理解を図った。 ○児童会活動の活性化(チーム活動)を図った。 △学校のきまり「みんなで守ろう」の意識に不十分さがある。 △「あいさつ」の意識付けに課題がある。

健康安全	逞しい心身の育成と安全管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> (1) 朝マラソン・朝縄跳びの設定と外遊びの奨励 (2) 学期に1回の避難訓練の実施（火災・不審者侵入・地震） (3) 月末の安全点検の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○外で元気に遊ぶ児童が増えた。（学年やチームでの取組を含め） ○非常時における安全意識の向上を図った。 △環境整備の点で不備が見られる。
特別支援教育	特別支援教育の推進と充実	<ul style="list-style-type: none"> (1) 特別支援教育についての学習 (2) 個別指導計画・アセスメント票の作成と全教職員での共通理解 (3) 特別支援教育の啓発（保護者向け） (4) 特別支援教育部と各担任による合同部会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○交流学习・啓発等により特別支援学級・通級指導教室の理解を深めた。 ○合同部会により、手だての具体化を図った。
研修（資質向上の取組）	初任者研修による校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> (1) 初任者研修の勤務校研修を校内研修として位置づけ、年間計画に沿って実施…全教職員体制で実施 (2) 授業研究会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員の振り返り研修の場となった。 ○全学年による授業研究会が実施でき、指導法の工夫改善を図った。 △研修の充実による若手・中堅教員の育成
保護者・地域との連携	開かれた学校づくりの展開	<ul style="list-style-type: none"> (1) 公開授業の実施 (2) 保護者アンケートの実施（学習発表会・年度末） (3) 学校だより・学級だより・ホームページによる発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期1回の公開授業により、学校をみてもらい、意見を聞かせてもらった。 ○学校からの発信ができた。 △ホームページの毎月の更新が今後の課題である。 △学校公開日及び保護者アンケートの回数の増加
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 1 基礎的・基本的な学力の定着と活用力の育成 2 心の教育の充実と自立心の育成 3 企画委員会の充実と四部会の横の連携の強化 4 組織体制の充実（教職員の学校経営参画意識の高揚） 5 不登校児童の未然防止（不登校「0」の継続） 6 若手・中堅教員の育成 		

平成20年度 学校評価報告(小学校)

学校名〔京丹後市立黒部小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 課題について共通理解し、教育実践を組織的に推進し、教育目標の具現化を図る。 2 個々や児童相互の関わり合いを大切に、丁寧な感動ある教育を推進し、家庭や地域社会から信頼される学校、児童にとっては、毎日が楽しく魅力ある学校づくりに努める。 3 教育者としての専門性や資質能力の向上を図り、意欲的、組織的な研修と実践に努める。		○全校スピーチでしっかりと発表する児童が増えた。 ○挨拶をする児童が増えた。 ○児童相互が協力し、感動ある行事をつくることができた。 ○保健指導等を充実させることができた。 ○学校便りや授業参観、懇談会等で教育情報を発信するとともに、啓発に努めることができた。 ○関係団体の協力により、児童の安全に努めることができた。 △基本的な生活習慣の確立や危険予知能力の育成を図る。	1 授業力・学級経営力の向上 2 豊かな表現力・コミュニケーション能力の育成 3 心の教育の充実 4 健康・安全教育の推進 5 信頼される学校づくり
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1 基礎基本の定着を図るための取組を計画的に進める。 2 学習状況を把握し、主体的に学ぶ力を高めるための指導方法の改善を図る。 3 学習意欲や関心を高めるために、適切な評価を行い、指導に生かす。	1 国語科を中心として、授業改善の取組を積極的に推進する。 （低・高学年グループで研究、講師の招聘） 2 指導力向上を図るため計画的・組織的な研修を充実させる。 （学習意欲や思考力、表現力の育成） 3 診断テストを活用して改善を進め、基礎学力定着に努める。 （全国学力学習状況調査、基礎学力診断テスト等） 4 発表の場を設定し、自ら考え深めようとする態度を育成する。 （全校スピーチ、詩の暗唱大会）	○研究校への視察や講師を招聘し、学習の基盤づくりについて学ぶことができた。 ○全校スピーチや詩の暗唱大会を開き、力を伸ばすことができた。 ○計算練習等で、児童の努力を認め、励ますことで、意欲の向上に努めることができた。 △学習に向かえない児童への指導を図る。
生徒指導	1 好ましい人間関係づくりを基盤に、きめ細かな指導を充実する。 2 学級づくりを推進する。 3 望ましい集団行動を通し、規範意識や社会性等を育成する。 4 教育相談部、各部と連携を図る。	1 児童の心身の実態把握と取組 （生活点検、学校内の生活の改善、児童会との連携） 2 生活実態や課題を把握し、家庭・地域と連携して取り組む。 （登校班、PTA地区懇談会、保・小・中連絡会） 3 指導体制の確立 （組織的に問題行動や事象対応、教育相談部との連携）	○保小連絡会等、関係機関と連携して児童の指導に努めることができた。 ○異年齢活動や児童会行事のねらいを児童指導に生かし、やり切らせることで児童に成就感を味わわせることができた。 ○教育相談部と連携して児童の指導にあたり、変容を図ることができた。 △社会性やリーダー性の育成を図る。

健康安全	<ol style="list-style-type: none"> 1 進んで健康な体づくりに取り組む児童を育成する。 2 人権尊重を基盤とした性教育を進める。 3 安全に対する意識を高めるとともに、日常的な安全や交通安全指導の充実を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 保健学習・指導の充実 (1) よい姿勢の習慣化(机・いすの調整、姿勢指導) (2) 児童の実態に即した保健指導 (健康観察、保健行事に合わせた学習、食指導、生活習慣) 2 危険予知能力の育成等、安全に生き抜く実践力育成に努める。 (避難訓練、防犯訓練、交通指導、児童会との連携) 3 施設・設備の点検 	<p>○姿勢指導・体操により、少し改善が図れた。 ○遅食児が減り、時間内に完食できるようになった。 ○歯の指導や啓発に努めることができた。 ○「心と体、命の学習」を参観日に行い、家庭と連携した取組とすることができた。 ○避難訓練や安全指導を行い、意識を高めた。 △基本的な生活習慣の確立に努める。 △児童の危険予知・回避能力を高める。</p>
特別支援教育	<ol style="list-style-type: none"> 1 LDやADHD等の発達障害を含め、障害のある児童一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程を編成する。 2 全ての児童が障害のある人を正しく理解するための指導を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童の障害の状況把握と発達の保障に努める。 (児童の実態交流、関係機関との連携、個に応じた指導) 2 個別の指導計画を作成を図る。 (アセスメント票の作成、個別の指導計画の作成) 3 交流・理解教育の推進を図る。 4 保護者・地域社会に対する特別支援教育の啓発を図る。 (懇談会、新入学児童説明会) 	<p>○要配慮児童を中心に、感覚機能を高める運動を実施し、改善に努めることができた。 ○通級指導教室や関係機関と連携した指導を行い、児童の変容に努めることができた。 ○特別支援教育について、理解や啓発を図ることができた。 △対象児童に対し、支援・指導に努める。</p>
心の教育 体づくり	<ol style="list-style-type: none"> 1 豊かな心を育て、たくましく生き抜く力を身に付けさせる。 2 適切な運動の経験を通して、学習の基盤となる体をつくとともに、楽しく明るい生活を営む態度を育成する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 道徳・人権教育の充実 (心の教育の日を設定、人権旬間・人権月間の取組) 2 豊かな体験活動や異年齢・学級活動を充実させ、信頼関係を築きながら、思いやりのある児童を育成する。 (学級経営、運動会、野外体験学習、チーム遊び、縄跳び) 3 体育や人権、特別支援教育などの視点に基づき、成就感を味わい、感動を共有する活動を推進し、自己肯定感を育てる。 (体づくり運動、遊び、人権旬間、目標を決めやり切る指導) 	<p>○人権意見発表会等で、交流し考えを深めた。 ○児童相互が協力し、努力して感動ある取組をつくることのできた。 ○スリッパそろえ等、他者を思いやりの行動が増えた。 △自己肯定感の低い児童への指導を図る。 △体力テスト結果等を基に指導を行い、体づくりに努める。</p>
保護者・地域との連携	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価や教育情報について、発信の充実を図る。 2 家庭・地域社会と連携して教育の推進に努める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 PTA総会や学校便り等を通して、目指す教育について丁寧に説明して理解を得、連携して指導に努める。 2 地域の方の協力を得て、連携して教育を進める。 3 保護者アンケート等を生かし、連携して教育を進める。 	<p>○教育情報を発信することができた。 ○パトロール運転を、連携して実施できた。 ○行事後にアンケートをとり、今後の教育に生かすよう努めることができた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的に学ぶ力を育成するための、指導方法の研究を進める。 2 学習規律を確立させ、学習に向かう意欲づくりや基本的な生活習慣の確立など、授業づくりや学級づくりとともに、心と体づくりを推進する。 3 児童アンケートや保護者アンケート、各種テスト結果等から明らかになった、個々の課題に焦点をあてた指導を行う。 		

平成20年度 学校評価報告(小学校)

学校名 [京丹後市立野間小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
保護者や地域との信頼関係の構築を図り、その上に立って、児童が少人数であることの利点を活かした教育活動を推進する。 また、野間の自然を十分活かした体験活動を通して、ふるさとを思う心の育成を図る。		○ 保護者や地域との信頼関係の改善が見られた。 ○ 児童の表情が明るくなり、学校に活気が出てきた。 △ 表現力やコミュニケーションの力に課題がある。 △ 生活リズムに課題が見られ、学習に集中できない児童がいる。(早寝・早起き・朝ご飯の徹底に課題)	「確かな学力」を身につけさせるための指導法の工夫・改善を図る。特に、「基礎・基本事項の定着」及び「コミュニケーション力や表現力の育成」に力を入れる。そのことを通して、保護者や地域との信頼関係を確かなものにしていく。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	① 基礎学力の充実 ② 教育課程の進行管理 ③ 重点研究の推進 ④ 総合的な学習の時間の充実	①個に応じた指導の充実及び週2回の学力補充タイムと帯のドリルの実施(朝のドリル・昼の読書活動を実施) ②週案の充実及び、月毎の集計、週予定の充実、担任会の充実・担任会で指導方法の交流や研修を行う。 ③表現力及びコミュニケーション力の育成を中心に学力向上の取組 ・国語の授業の工夫・改善(表現力の育成・発言意欲の喚起) ・全校集会で、発表場面を意図的に作り、発表体験をさせる。 ・体験発表会や文化祭典など、発表場面を大切に、鍛える場とする。 ④地域の特産物や歴史などの探究と体験活動の充実	①○個に応じた指導法を工夫・改善し、学力の向上につなげた。 ②○担任会の充実により、指導内容・指導方法の工夫・改善ができた。 ③○目的を焦点化し、発表する機会をうまく利用したことで、児童に自信と表現に対する意欲が出てきた。 △個別の課題に応じた個別指導による基礎学力の定着に課題がある。 ④○体験活動が充実し、学年に合った取組ができた。 △教科学習との関連や探求活動の充実
生徒指導	①個々の児童の生活実態把握と内面理解 ②目標を持った生活づくり ③安定した学級経営 ④基本的生活習慣の確立による児童の体と心の安定	①教室での丁寧な観察や関わりと同時に、休み時間・そうじ時間等に児童と積極的に関わり、児童の実態把握と内面理解に努める。 ②年間個人目標を玄関に掲示して、全員で協力しながら達成させる。 月目標を児童に示し、学級毎に具体的な取組内容を決定させる。 ③学級の児童の人間関係を良好なものにすることで、学習へ取り組む姿勢を意欲的なものにする。(話し合い活動の充実) ④児童にも家庭にも「早寝・早起き・朝ご飯」を重点的に訴え、学習の基礎となる基本的生活リズムの確立に努める。	①○休み時間など、全教員が児童と一緒に時間を過ごし、少しの児童の変化も見逃さず次の指導に活かすことができた。 ②○月目標を学級毎に具体化して取り組み、その振り返りを全校集会で発表することにより、児童の生活への自覚が高まった。 ③○話し合いにより、解決する力がついてきた。 ④△改善してきたが、まだ、定着できない。

健康安全	<p>①基本的な生活習慣の確立</p> <p>②体の学習を通して自己の健康管理に活かす。</p> <p>③「食」についての指導充実</p> <p>④危険回避の訓練・指導</p> <p>⑤交通安全についての指導充実</p>	<p>①生徒指導と連携して、生活習慣の見直しをさせ、「早寝・早起き・朝ごはん」の取組を徹底して取り組む。合わせて、テレビやゲームの時間についても、個別に指導を進める。</p> <p>②健康診断や身体計測などの機会に、自分の体の成長や状態を知らせ、健康管理について、個別に指導を行う。また、体と心の学習では、成長による体と心の変化について理解させ、自他の体を大切にすることを育てる。</p> <p>③年間を通じて「食」の指導を行う。(給食の時間を中心に)</p> <p>④避難訓練や不審者対応などの学習・訓練を行う。(年3回)</p> <p>⑤交通教室で、自転車を使用して行う。日々の教室での交通安全指導も充実させる。</p>	<p>①○生活リズムカードを利用し、毎学期生活点検を行うことで、児童と保護者に意識が高まった。 △ゲーム等の時間が多くなり、寝るのが遅れるケースも多く、徹底できていない。</p> <p>②○自分の健康管理を意識する児童が増えた。病気による欠席が減少した。</p> <p>③○「食」についての指導は、毎日の給食時に行い、児童も食に関心を持てた。</p> <p>④○避難訓練を整然と実施し、その意味についても、理解できた。 ○児童と教師と一緒に毎月安全点検を実施することによって、安全意識が高まった。</p> <p>⑤○自転車を使った交通教室は、児童の運転技術もよく分かり、指導に役立った。 △自転車のヘルメット着用の課題</p>
特別支援教育	<p>①個々の課題に合った指導を保護者の理解のもとに進める。</p>	<p>①教育相談部と連携して、個々の課題に合った指導内容を保護者の理解を得て指導していく。(特に、国語・算数)</p>	<p>①○教育相談部と連携して取組を進めてきたことにより、保護者の理解・協力のもと、課題に応じた指導を実践することができた。</p>
研修(資質向上の取組)	<p>①基本的指導技術の研修</p> <p>②児童の見方、学級経営のあり方の研修</p> <p>③複式学級の指導法の研修</p>	<p>①担任会を毎週実施することで、指導内容の交流を通して研修する。</p> <p>②担任会に養護教諭も入り、児童の実態分析を常に行い、学校が組織として個々の児童に統一した指導ができるようにする。</p> <p>③講師を招聘して、複式学級の指導法を研修する。</p>	<p>○担任会で、児童の実態交流や指導交流を行う中で、初めて担任を持った2人の教員も経験豊かな教員から学ぶことができ、自信を持って授業や指導に臨めた。</p>
保護者・地域との連携	<p>①保護者との連携強化</p> <p>②諸団体との連携重視</p>	<p>①授業参観・親子行事等、教師の積極的な指導姿勢を示すことで信頼関係を強くする。また、保護者からの意見や要望に対して、丁寧に対応していく。</p> <p>②公民館活動などに、多くの教職員が積極的に参加していく。</p>	<p>○教師の積極的な姿勢を感じて頂き、協力関係が深まった。学校教育の推進に大きな力をいただいた。</p> <p>△学力充実に関わる、家庭との連携強化</p> <p>○教職員の協力体制を評価していただいた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>児童に安定した心で意欲的・主体的に学習に臨ませることにより、個々の学力の向上を図りたい。そのためにも、学びのベースとなる「早寝・早起き・朝ごはん」を柱とする生活習慣の確立を保護者と連携して目指したい。また、新学習指導要領の移行期間に入るため、職員が研修を進めてきたことをベースにスムーズな移行に関わる指導を確実に実施したい。そのためにも、①教師が明るく元気で子どもと一緒に活動すること ②授業実践力を身につけるための研修を実施すること ③担任会をより充実させ生徒指導の機能を生かした指導を実践することの3点を大切にしたい。</p>		

平成20年度 学校評価報告(小学校)

学校名 [京丹後市立久美浜小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
自信と信頼につながる教育実践を組織的に進めていく。		○算数科における基礎基本の定着、道徳教育の充実・向上 △特別活動の充実	一人一人がキャリアに応じた能力を発揮し、教育の質としての「教科指導力」を充実・向上させる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	① 更なる道徳教育の充実 ～ぬくもりの心～ ② 楽しいわかる授業の創造	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳価値「心地よさ、大好き、ありがとう」の全校的な取組 ・ 家庭、地域社会とのつながり（子どもとつながる環境づくり） ・ 学習状況に応じた習熟、補充授業（算数の少人数指導） 	○道徳教育を位置づけた学校教育の推進 ○算数科における基礎学力の定着 △指導力の充実・向上
生徒指導	① 規範意識の向上 ② 学習集団の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全校的に「話す、聞く」環境づくり ・ 何でも安心して伝え合う人間関係づくり 	○しっかり話が聞ける全校活動 △生徒指導部を中心にした体制の確立
健康安全	① 基本的な生活習慣の確立 ② 安全安心な登下校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の健康観察（不登校の未然防止） ・ 安心サポーターと連携した取組 	○健康意識や個々の課題に対応した指導 ○地域の協力で充実向上した登下校の安全
特別支援 教育	① 障害のある児童との交流 ② 支援体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級の取組、異年齢の取組を通して協力関係の構築 ・ 個々の教育ニーズに応じた個別学習や補充学習の充実 	○委員会や運動会などの行事において一人一人が豊かに認め合う関係
研修（資 質向上）	① 継続的な公開授業 ② 自己実践の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究テーマを連続的に追究していく公開授業 ・ 学級経営上の課題についての実践レポートの作成 	○重点課題である「算数科の授業」の充実 △自己研鑽による指導力の向上
保護者・ 地域との 連携	① 家庭との連携 ・ 学ぶ環境づくり ② 地域との連携 ・ 見守る環境づくり ③ 評価活動を通じた連携 ・ 信頼関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「家庭学習の手引き」を通じた具達的な取組の展開 ・ 安心サポーターや特別クラブ（和、ボランティア）の協力 更には「読み聞かせグループ」の定例化 ・ 学校関係者評価を生かした学校説明と説明責任を果たし、地域に信頼される教育の推進と公開 ～学校行事等へのお誘いと協力関係の構築～ 	△具体的な様子や内容的な課題についての実態把握の不足 ○地域の方々の智慧に学ぶ学習環境の整備 特に、安心サポーターの日常化と連携 △地域の要望に応える教育 ○学校評価の基礎づくり
次年度に 向けた 改善の 方向性	① 中期関連目標を達成していくために、「学力と指導」、「生活・学習習慣と保護者連携」、「学校と地域」への具体的な取組を提示し、評価・改善までに関わりを持たせた学校経営を進める。 ② 地域の人材を活用し、校訓「一生懸命」のもとで、学校・家庭・地域が一体になった「教育の再現の場」を作り、地域の子を育てる。		

平成 20 年度 学校評価報告(小学校)

学校名〔京丹後市立川上小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>意欲にあふれた児童を育成すること 小規模校のメリットを生かす。 地域の特徴を生かす。</p> <p>【児童の学びのめあて】 勉強大好き 友達大好き 川上大好き 学校大好き</p>		<p>国語を中心に 5 年間の研究を生かし、学力向上をめざしてきた。その成果は書く力、読む力等に見えてきたが、読み取る力や自分で考える力に弱点を残した。その課題を本年度研究のテーマ設定の根本的な考え方とした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学力向上をめざし、体感を通じた授業改善を図る。 教員の資質向上のため、校内研究会の充実を図る。 特別支援教育及び教育相談活動を通して、一人一人の実態に応じた指導を進める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	<p>学力充実 重点研究「体感」をキーワードに、児童の学習意欲の向上、授業改善を進める。</p>	<p>日常の学習活動の充実を図り、一日の学習のリズムを確立する。 授業の中に五感を活用する場面をつくり、感性を養うとともに児童の意欲の喚起とその継続を図る。 各学年の授業研究を図画工作科、理科、生活科を中心に行い、授業改善を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> △ 毎日の読書、ドリル、学習タイム等の継続とその内容の充実を図った。 △ 「体感」を取り入れることによって授業改善が児童に寄り添った姿で進んだ。児童が意欲を持って授業に参加できるようになった。 △ 次は、その意欲の継続をどうするかという課題が見えている。
生徒指導	<p>日常生活習慣（あいさつ、早く寝る、忘れ物をしない）は、学力向上につながる。 遊びを通じてルールや耐性を育てる。</p>	<p>児童会活動を中心にあいさつ日本一の学校をめざす取組を進める。 P T A の活動方針にも盛り込み、生活習慣を見直すことを児童の学習への意欲と捉える意識を育てる。 異年齢集団、学級など遊びを通して、児童の心を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつは児童会の活動と P T A の活動を絡めて取り組むことができた。 ○ 生徒指導は遊びの場で実態状況が把握でき、早い対応に心がけた。 ○ 生活目標が、各学級の具体目標にしっかり具現化され、全校としての動きができた。 △ 早く寝るとい生活習慣はまだまだ家庭の生活まで変えることができなかった。

健康安全	食育指導 給食指導の見直し	京丹後市学校給食研究大会の会場校として、食育指導を見直すと同時に給食指導の課題を明確にし、よりよい給食をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年で食育指導の授業研究を行なうとともに、給食指導の課題解決を図った。 ○ 食べることを通して、集団での協力、友達への思いやり、感謝の心等指導内容が明確になり、学校全体の取組ができた。
特別支援教育	理解教育 支援を必要とする児童	一人一人が「学校大好き」と言える学校生活を保障する。 子どもにとって大きく成長する「遊び」を児童会・学級・全校といった組織で取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 支援を必要とする児童については、定期的に保護者との懇談を進めた。その結果、各児童に応じた課題設定をしながら指導を進めることができた。 ○ 「遊び」が非常に活発であり、外で遊ぶ姿にもいろいろな集団があり、その遊び集団での活動が児童の心を育てた。
研修（資質向上の取組）	校内研究会の充実 授業研究会 理論研究 実技研究	<p>図画工作、理科、生活科を中心教科として、重点研究「体感」を授業の中に取り入れた授業改善を図る。</p> <p>本校教職員が自ら「体感」を通じた教材研究や実技研究を進め、学習に対する積極的な意欲を育てる指導を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校の研究は他校には類を見ない内容であり、教職員自らが試行錯誤しながら研究の一步を進めることができた。 ○ 教える教材をまずは教師が楽しめることから研究を始め、児童に意欲を持たせ継続させる指導方法を研究することができた。
保護者・地域との連携	丁寧な家庭訪問 学期1回以上の学級懇談会 学校だより、学級だよりの内容充実	P T Aの方針に、学校との連携を図り、まずは基本的な生活習慣として、あいさつと早寝の取組、忘れ物は学習意欲に大きな影響があるとの理解で、家庭でも見守るといった取組を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつは、おはよう・おやすみから、ありがとう・ごめんなさいという一歩進んだあいさつまで意識して、P T Aと児童会、そして登校班、学級といった広がりを持った取組となった。 △ 早寝については、家庭の都合が優先したせいか、50%弱の達成率であった。
次年度に向けた改善の方向性	<p>本年度の研究テーマ「体感」を進め、小規模校を生かし、地域の特徴を生かした意欲ある児童の育成に努める。そのためにも、本年度の研究テーマをより具体化するとともに、その研究から明らかになった課題、即ち表現力の育成、意欲の継続等の課題をより追求していきたい。</p> <p>特に、非常に純朴で素直な児童であり学習等にも真面目に取り組む姿勢が見られるが、小規模校であるが故にあるレベルで止まってしまうという面を感じた。そこで、少ない学級児童の活動を、デメリット以上のメリットに変えていく活動を進めていきたい。つまりは、現状に満足せず、さらなる高みへの挑戦である。</p>		

平成20年度 学校評価報告(小学校)

学校名 [京丹後市立海部小学校]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>1 一人一人の良さや可能性を引き出し、基礎・基本の徹底を図るとともに、自ら学ぶ意欲や思考・表現力等を向上させる。</p> <p>2 道徳・人権・特別支援教育の充実を図り、思いやりや豊かな心を育む。</p> <p>3 進んで体を鍛え、たくましい心を育てるとともに、基本的な生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>4 家庭・地域の願いを受け止め、連携を深めながら、開かれた信頼される学校づくりを目指す。</p>	<p>(1) 教職員の資質・能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的には若い教員には学ぶ場となったが、ベテラン教員の姿勢によりブロック間の格差があった。 ・ 会を重ねるにつれ発言は増えたが、まだ全員とは言えない。 ・ 復講習は学び合う場となったが、全体への広がりは不十分だった。 <p>(2) 学力充実・授業改善の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的な指導により、課題が克服できた学年もあるが、見通しの甘い学年もあり、学年間格差がみられた。 ・ 発問の工夫については課題があり、問題解決型・探究型の指導は、不十分だった。 <p>(3) 重点研究の推進 (府小研音楽部研究協力校としての発表成功を目指して)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽主任・副主任とそろったので、取組を充実させることができたが、全体としては、学級間の格差があった。 ・ 音楽部のリードにより内容が充実してきた。 ・ 発表の場で高い評価を受け、さらに意欲や表現力が高まった。 <p>(4) 信頼される学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PTA総会や懇談会の場等で提起し、基本的な生活習慣の大切さについての啓発ができた。 ・ 自由参観日の出席率が悪かった。 ・ 安心・安全のために、防犯ブザーを購入し、活用した。 	<p>1 確かな学力の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 少人数を生かした実態の的確な把握と個に応じた指導 (2) 基礎的・基本的な学力(わかる・できる授業の創造) (3) 体験的・問題解決的な学習 (4) 表現力の育成 <p>2 豊かな心の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒指導の3機能を生かした学級経営・学校づくり (2) 異年齢集団活動の充実による好ましい人間関係の構築 (3) 人権・道徳・福祉教育の充実 (4) 音楽活動の継承による豊かな感性や表現力の育成 <p>3 たくましい心と体の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 日常的な体力づくりを通じた体力や運動能力の向上 (2) 基本的な生活習慣の確立と健康の自己管理能力の向上 (3) 教育相談活動・特別支援教育の充実と不登校の未然 <p>4 地域に開かれ信頼される学校づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全・安心の学校づくりと危機管理の徹底 (2) 家庭や地域関係団体との連携強化 (3) 学校評価システムの構築 (4) 教職員の資質向上と協働体制の確立 	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<ol style="list-style-type: none"> (1) 少人数を生かす (2) わかる・できる授業の創造 (3) 体験的・問題解決的な学習 (4) 表現力の育成 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 個別の課題を発見し、手立てを講じる。 (2) 教材研究をしっかりと行うとともに具体的な週案を作成する。 (3) 算数的活動の重視、自力解決場面の設定。 (4) 学んだことを表現する活動を積み上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 算数的活動の取り入れによる意欲の高揚 ○ 意識的な発表場面の設定による表現力の向上 △ レディネステストの積極的な活用 △ 発問研究

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> (1) 不登校の未然防止 (2) 望ましい集団活動の推進 (3) 児童の規範意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 児童の実態をこまめに交流し、教育相談部と連携を図って早期に対応する。 (2) 児童会を中心に、異年齢集団活動に積極的に取り組む。 (3) 月別重点生活目標を設定して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不登校傾向児童の課題解消が進んできた。 ○ 児童会のチームによる活動により、望ましい人間関係が構築されてきた。 △ 生活目標に対する意識が弱かった。
健康安全	<ul style="list-style-type: none"> (1) 望ましい生活習慣の育成 (2) 性教育における生命尊厳意識の高揚 (3) 安全な生活を営むための判断力と実践力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> (1) スッキリ点検を定期的実施する。 (2) 性教育を系統的・総合的に推進する。 (3) ・「こども 110 番のいえ」への駆け込み訓練を実施する。 ・休憩時間における避難訓練を実施する。 ・起震車を活用して、地震を体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭との連携により、生活習慣が良くなってきた。 ○ 自他の生命尊重の意識が高揚しつつある。 ○ 駆け込み訓練等により、安全意識が高揚しつつある。 △ 危機に対応したより実践的な訓練を実施する。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> (1) 特別支援学級に対する正しい認識力の形成 (2) 特別支援学級経営の充実 (3) 特別に支援を要する児童の実態把握及び指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 全校指導や学級指導において、理解教育を丁寧に行う。 (2) 関係機関と連携して、教育内容の充実を図る。 (3) アセスメント票及び個別の指導計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援学級への正しい理解により、全校から大きな励ましがあつた。 ○ 他機関との連携により、教育内容が充実しつつある。 △ 個別の指導計画の充実を図る。
教職員の資質向上と協働体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> (1) 協動的に研究の推進 (2) 積極的な発言による主体的な学び (3) 研修内容の積極的な伝達講習 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 2 委員会制により集団論議を充実させる。 (2) 校内研の形態の工夫により参画意識を高揚させる。 (3) 伝達講習の方法を間接的な方法も含めて実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2 委員会制により、論議を深めることができた。 ○ グループ研の設定により、自発的な発言が増えた。 △ グループ研を定期的設定する。
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> (1) 安全・安心の学校づくり (2) 家庭や地域団体との連携強化 (3) 学校評価システムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 見守り隊の充実や安全対策を充実させる。 (2) 地域行事に全員が年 1 回は参加する。 (3) 学校評価を実施し、改善に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見守り隊の拡充が図れた。 ○ 土曜お楽しみ会との連携が進んだ。 ○ 学校評価の実施により、改善が進みつつある。 △ ホームページを更新する。 △ 参観日のアンケート様式を見直す。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> (1) 現在、学校評価を年 1 回実施しているが 2 回実施することにより、学校改善の充実を図る。 (2) 改善策がどれだけ実施できたかを検証することにより、評価を改善に生かす。 (3) 重点目標や具体的方策をより具体化・焦点化していく。 (4) 教職員評価や学校関係者評価と連動させることにより、学校改善を効果的に進める。 		

平成 20 年 度 学 校 評 価 報 告(小学校)

学校名〔京丹後市立佐濃小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
児童がお互いの良さを認め合い、学び合っている能力をさらに高め合っていく学校		○教職員が一致した思いで教育活動に取り組むことで、児童が生き生きと明るく行動できている。 △さらに個々の児童の学力の伸長を図る。	一人一人の確かな学力と心のつながりを育てる学校
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着と向上 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善を図り、わかる授業、楽しい授業を目指す。 学習の定着を図るため、ドリルタイムや放課後補習を学校全体で体制を組み、充実させていく。 読書活動を推進することで本に親しむ児童を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の多くが生き生きと日々の授業に取り組み、積極的に学んでいる。 ○学力診断テスト等の結果を見ても一定の成果を上げることができている。 △さらに個々の児童の学力実態を把握することにより全体的な向上を目指す。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間関係を築く 共に学び合える学級集団を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> 児童会活動を活発化させ、楽しい学校生活を創り出す。 授業に際して規律を重んじる態度を育てるなど生活全般において規律ある態度で行動できる児童を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級での活動、全校での異年齢集団による活動など活発に行うことができた。 ○友達のことを考えた行動ができ、規律ある生活ができている。
健康安全	<ul style="list-style-type: none"> 生命や健康の大切さを理解し、生活に生かせる児童の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 保健だより等により、常に健康の大切さを意識させ、予防していくことを心がけさせる。 安全指導の徹底と危険を予測する力を付けるための指導も併せて行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に総欠席数も減り、健康な生活が送れている。 ○大きなけがが減り病院搬送も減少した。

特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個々の児童の教育的ニーズに応じた指導の推進と指導方法の工夫改善を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の児童をしっかりと見据え、その子の課題に応じた支援を図る。 通級指導教室や特別支援学級を有効に活用することにより、個別の指導計画に基づいて支援をしていく。 	<p>○特別支援教育の視点に立った教育活動が図られ、特別支援学級を活用しての指導を進めることができた。</p> <p>○支援部を中心とした組織的な動きにより、児童の悩み等が早期に解決できた。</p> <p>△さらなる保護者との教育相談活動の推進を図る。</p>
研修	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の資質能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 重点教科を国語科と定め、その中でも「読み取ったこと、学習したことを書く」ことを重視して内容の理解を深めていく。 年間をとおして教師全員が研究授業を行い、その研究をとおして授業実践力を高めていく。 さまざまな教科の実践交流会を設定し、校内研修の充実を図る。 	<p>○個々の教師の授業における力量を向上することができた。</p> <p>○書くことにより、自分の考えを整理し、その考えをやりとりすることで理解が深められるようになった。</p> <p>△若手教師のさらなる授業力の向上を図っていく。</p>
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域の方々が参加しての授業づくり 学校行事への参加の機会の拡充 児童の安全に対する取組 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間や生活科などで地域の方から学ぶ機会をできるだけ多くつくるようにする。 学校行事や授業参観等に保護者だけでなく地域の方々へも参加の機会をつくるようにしていく。 子どもを見守る組織会員の拡充を図る。 	<p>○地域人材の活用により子ども達の学びに深まりができた。</p> <p>○父母による授業が実施でき、相互の理解が深まった。</p> <p>○鈴の音りんりん隊の会員数を大幅に拡充することができた。</p> <p>△鈴の音りんりん隊の活動をより活発にして児童の安全を確保していく。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>次年度は全校児童数が86人となり、すべての学級で児童数が10人台となる。</p> <p>そうした中で、少ない児童をもって学校教育活動を進めていくには、これまで以上に児童一人一人が自分の考えをしっかりと持って主体的に行動できる人間となり、存在感を持って活動していくことが必要となる。</p> <p>また、学校としては児童の一人一人が自分の思いを発信することで共感し合い、それによって心のつながりが強められるような活動を仕組んでいくことが求められる。</p> <p>そのためには、授業形態においても生活面においても児童自身で考えさせる場面を意識的に多く設定していくことが重要である。</p> <p>そういう意味からも授業改善の視点を常に意識し、基礎・基本の定着を大切にしながら、それを活用する能力すなわち「生きる力」の育成を図ることを一層意識した学校運営をしていくことが必要と考えている。</p>		

平成 20 年 度 学 校 評 価 報 告(小学校)

学校名〔京丹後市立田村小学校〕

学校経営方針（中期経営目標）		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
生き生き笑顔で学ぶ学校 生き生き笑顔で学ぶ児童		<ul style="list-style-type: none"> ・重点研究「国語科」の授業研究推進等による児童の変容 ○授業や様々な場で自分の考えや意見が言えるようになった。 △更に考えを深め合いながら、確かな学びにしていこう ・豊かな人間性を育む「心」の育成 ○自尊の感情を高めた。他者を思いやる心の更なる育成 ・健康な体づくりと良い生活習慣を身に付ける ○「早寝・早起き・朝ご飯」「食」を家庭との共通理解により推進 △朝ごはんは意識付いたが、早寝には課題がある。 	児童に付ける力 自信を持ち、自分の力を高める意識の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・しっかり思考する力の育成（伝え合い） 互いの意見や思いを受け止めながら、自分の考えを高める力の育成 ・めあてを持ち、ねばり強く努力し、振り返る力を高める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	確かな学力の充実・向上 読書活動の充実 地域を学び・地域から学ぶ	国語科の授業研究を軸として、全ての学習において考えを持つこと、 深め合う授業推進 書くこと「まとめる等」により確かな理解へ	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見を言うこと、他者の意見から学ぶことが出来るようになった。 ○書くことを厭わず、書き方の学びができた。
生徒指導	豊かな人間性育む「心」の教育の充実 自尊の感情を高める 他者を思いやる優しさ 「生きる力」の基礎作り	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等におけるめあてを明確に持たせる。 ・丁寧な支援・指導と評価による達成感・充実・感を持たせる。 ・日々の生活を課題解決の視点で指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々のめあてを大切に指導と評価を行うことにより、充実感と自信を高めた。 ○生徒指導と特別活動を関係づけた行事や目標設定を全校の共通理解で進められた。 ○挨拶・返事等意識化が進んだ。

健康安全	健康な体と根気強く取り組む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を見つめ、考えた行動をする。 ・良い生活習慣を身に付ける（早寝・早起き・朝ごはん等）ためアンケートや保護者への働きかけ ・給食指導（含む食育） 	<p>○取組の継続により、徐々に意識の向上が見られる。</p> <p>○保健委員会・給食委員会の取組等、全校児童が積極的に取り組める。</p>
特別支援教育	個に応じた指導の充実	<p>一人一人の良さや課題を丁寧に把握し、指導方法の工夫を行う。</p> <p>個々の違いを認め合う。</p> <p>研修活動を行う。</p>	<p>専門的な研修を行い、指導に生かした。</p> <p>個々の努力が認め合える児童の育成</p> <p>更に個に応じた指導の研修</p>
研 修	「国語科における授業の在り方」を研修する。 児童の学び合いによる学習集団づくりを追求する。	<p>授業における事前研究会を充実する。</p> <p>教材研究、教材の解釈、指導の在り方の研修</p>	<p>丁寧な教材研究による授業推進</p> <p>学び合いに繋げる授業づくり</p> <p>「書く」ことの研修（含むノート指導）</p>
保護者・地域との連携	<p>地域から学ぶ・地域とふれあう。</p> <p>安全・安心な登下校や地域での生活</p> <p>保護者の力を借りて良い体験活動</p>	<p>総合的な学習の時間の学びに生かす。</p> <p>教科の学習において地域の方から学ぶ。</p> <p>見守り隊・むくどり子ども教室の協力を得る。</p>	<p>各学年において、地域の産業や地域の方の協力を得て様々な学びを行った。</p> <p>総合的な学習の時間において地域をより深く学ぶことができた。</p> <p>安全・安心な登下校とともに、より良い経験と地域の方と児童の関係づくりの推進が図れた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の充実により活用できる力へ ・個に応じた指導の更なる充実 ・授業の改善と充実 ・新学習指導要領移行の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領移行の具体的推進 ・生徒指導の三機能を生かした学校生活の充実 ・保護者・地域との連携の継続 	

平成20年度 学校評価報告(小学校)

学校名 [京丹後市立神野小学校]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<ul style="list-style-type: none"> ① 学力の充実・向上と個性を伸ばす教育の推進 ② 豊かな人間性と心身ともたくましい子どもの育成 ③ 安全・安心な学校づくりの推進 ④ 地域とつながる学校づくりの推進 ⑤ 信頼される学校づくりの推進 	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 算数科の授業研究が進み9月の検証テストでは6学年中5学年が4月比よりアップした。 ② 授業改善が進み、学習規律や指導課題である「聞く」ことも育ってきている ③ ドリルの時間を「漢字の読み、書き・四則計算」の統一した内容で基礎基本の定着が図れた。 ④ 6年生を中心とした異年齢の活動、そしてその活動に連動する学級経営の取組を行い、「ふれあう子」の育成に成果をあげた。 ⑤ 企画委員会や学年ブロックの連携、行事と連動する学級経営により、問題事象の未然防止となった。 ⑥ 与丹・府陸上記録会・市駅伝大会等への出場に向けて高学年は合同練習を行い、意欲的に取り組めた。 ⑦ 多くの児童がサッカー・野球・ドッジボールを異年齢で行い遊びの輪が広がった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 国語科を重点研究とし、言語力・表現力を育成する。 ② 組織の機能化を図り、特別支援教育の充実と不登校未然防止の創意ある取組を進める。 ③ 異年齢活動と学級経営を連動させ、「ありがとう・ごめんなさい」が言える児童の育成を推進する。 ④ スポーツテストの分析結果を教科体育に生かす。 ⑤ 生活リズムの確立と家庭学習の定着を家庭と連携して、取組を強化する。 	<p>1 学びあう子</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 基本的な学習習慣の定着 ② 「聞く力」「読む力」「書く力」「計算する力」の獲得 ③ ドリル学習で基本的な事項の定着 ④ 朝の読書等で「読書に親しむ子ども」の育成 ⑥ 主体的に学ぶ問題解決的な学習の授業づくり ⑦ 診断・検証テストを実施し、学力実態に応じた指導 ⑧ 「家庭学習の手引き」をもとに家庭学習の習慣化 <p>2 認めあう子</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 異年齢集団や学級活動を通して、集団のルールを定着させ、やさしい言葉がけ(ありがとう・うれしい・たすかった)でつながる集団の育成 ② 一人一人の違いを認め、やさしい心と思いやりの心の育成 ③ 自分の目標やすべきことに頑張る学級経営 ④ 「不登校」や「人権侵害」等の早期発見・早期対応 ⑤ 掃除、給食、挨拶、登下校の指導の徹底 <p>3 たくましい子</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 目標に向かって、自分の苦手なことにもチャレンジする子どもの育成 ② 集団生活に必要な学校ルールの獲得 ③ 運動に親しみ、進んで運動する子どもの育成 ④ 基本的な生活習慣の確立と学習習慣の確立

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 基礎・基本の定着 ② わかる授業づくり ③ 学びのきまりの定着(聞く、話すの指導) ④ 学力充実(ドリル・補充学習・検証テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童の主体的な学習を図る上で一人学びの読みを生かした授業づくり ② 学びのきまりに基づき、聞く、話す、書くことを大切にした授業づくり ③ 計画的なドリル学習(国語・算数)の推進 ④ 放課後学習の時間確保を図るため校時表の変更 ⑤ 年間を通した学年の音読発表と全校音読の実施 	<p>○わかる授業づくりを通して主体的に学ぶ授業改善が進んだ。</p> <p>○活発な意見交流、発表の声が大きくなった。</p> <p>○計画的なドリル学習と補充学習の時間を確保することで基礎基本の徹底を図った。</p> <p>△ことばを通して表現し、人とつながる力を付ける。</p> <p>△学校と家庭と連携し読書に親しむ習慣を付ける。</p>

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 一人一人の居場所の確保 ② 集団のルールややさしい言葉かけでつながる集団の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ① 定例生徒指導部会の開催（先手の生徒指導） ② 問題事象の早期把握と問題解決へ向けて組織的な対応、保護者への啓発活動 ③ 異年齢活動と連動する学級経営 	<ul style="list-style-type: none"> ○月目標を設定し、学校全体の取組で児童の変容を図った。 ○問題事象は保護者と一体となって取り組んだ。 △放課後の遊びのルール作りを確立する。
健康安全	<ul style="list-style-type: none"> ① 基本的な生活習慣の確立（生活リズム） ② 体力の向上（朝の体力づくりの充実） 	<ul style="list-style-type: none"> ① PTAと連携し、毎学期生活点検を実施（特に家庭学習、テレビ・ゲームの視聴時間、就寝時刻、手伝い） ② 各学年目標周回数を決め、教職員も参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○PTAと一緒に生活リズムの取組を実施した。 ○走る習慣が定着し、運動の意欲が高まり各種陸上大会へ参加した。 △走ることを中心とした体力づくりから多様な体力づくりを工夫する。 △学校給食法の一部改正に伴う食育及び学校給食の指導の充実
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ① 互いの違いを認めあう学級経営 ② 一人一人の良さや個性の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ① アセスメント表に基づき指導し、毎学期成果課題を検討し改善 ② 特別支援学級担任による通常学級における発達障害該当児童への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期ごとにアセスメントの改善を行い、児童の指導に生かした。 ○府発達障害等支援・特別支援総合推進事業（地域巡回相談チーム）による指導助言を受け、実践に生かした。 △発達障害児童の通常学級での指導の体制と指導方法の確立
研修（資質向上の取組）	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童実態に基づいた研修の実施、チームワークで課題解決 ② 初任者の資質向上 	<ul style="list-style-type: none"> ① P D C A サイクルにおける c h e c k 機能を生かし児童実態を丁寧に掘り起こし課題を見つけ、有機的な組織体制で解決を図る。 ② 初任者指導を通して全校で研修体制を確立した計画的組織的な取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○初任者へ全教員が授業公開を行うことで、全校体制で初任者の育成に関わった。 △参加型の研修会等、初任者も意欲的に発言できる研修会の工夫改善を行う。
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ① 安心・安全確保の取組推進 ② 「神野チャレンジ教室」への協力 ③ 保護者との連携・協力の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ① 神野っ子セーフティーネットに登下校の見守り隊（付き添い）組織 ② 放課後下校付き添いボランティアの発足 ③ 「神野チャレンジ教室」へのPTA・教職員の保安員として参加 ④ 学習参観、懇談会の充実、家庭との連携（学校・学級だより、家庭訪問） ⑤ 学校評価の実施・公表（PTA総会等）・説明等（学校関係者評価会議の実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域・保護者を巻き込んだ安全安心の取組を通して児童の安全確保と児童と地域の方々のふれあいを促進した。 ○「神野チャレンジ教室」に教員・PTAが参加し、教室の趣旨理解や児童の活動の様子を把握し児童理解に役立った。 ○月1回以上の学校開放を実施した。 ○PTA総会等で学校評価の公表を実施した。 △学校保健法等の一部改正に伴い総合的な学校安全計画の策定
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ① 人に自分の考え、思いを伝える表現力をはぐくみ、全教育活動を通して言語の力を向上させ、質の高い学力を育成する。 ② 互いの違いを認めあう豊かな心の育成と規範意識の醸成 ③ 新学習指導要領の先行実践を計画的に実施（授業時間の確保） ④ 読書活動の質的向上と環境づくり ⑤ 家庭と連携し基本的生活習慣の確立と家庭学習の習慣化の徹底 		

平成 20 年 度 学 校 評 価 報 告(小学校)

学校名〔京丹後市立湊小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、心豊かにたくましく生き抜く児童の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語科を中心として、児童相互の伝え合う授業づくりを推進し、国語力が向上した。 ○知育・徳育・体育・食育の全領域に渡り、関わり合い、伝え合い、認め合いの三合い活動を関連させた指導の下に「生きる力」を向上させた。 ○発達課題のある児童へも、個のニーズに応じた指導を丁寧展開し、保護者から厚い信頼を得ることができた。 △複式学級担任になった場合、しっかりと指導できる授業実践力等「指導力」の向上 △「指導と評価の一体化」の一層の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の確かな学力と温かな心を育む学校 	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎・基本を徹底して確かな学力を付ける。 (2) 指導と評価の一体化を図る取組を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科を中心に研究授業を6回実施し、豊かな言葉で響き合う授業づくりを通し、学習意欲と学び合う集団の質を高める。 ・朝読書の実施により、朝から学習に向かう気持ちを高める。 ・昼ドリルの時間を設け、国語と算数の学習に取り組む。 ・毎週水曜日の5校時に全教員で国語と算数の指導（ミナトトップ） ・放課後の補習学習 ・家庭学習の手引きの改善・配布 ・複式学級におけるガイド学習（スクールサポーターとの連携） 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童相互が自分なりの言葉で伝え合う授業づくりが進展し、読む力が向上した。 ○朝読書の実施により、朝から学習に向かう気持ちが向上した。 △補習学習の時間確保 △複式学級における授業実践力の向上 △ミナトトップの指導と評価の一層の充実
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> (3) 人間尊重を基本とした望ましい人間関係を図るとともに、一人一人の個性を伸ばし、課題に取り組む意欲と実践力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動や給食指導等との連携の下に、異年齢活動を組織・指導する。 ・社会性を高め、自立・自律を育てる。 （コミュニケーション能力やソーシャルスキルの育成・・・総合的な学習、特別活動、三合い活動） （人との関わりを大切に活動・・・主体的な児童会活動） （目標に向かって努力し、やり遂げる感動・共感・充実感を体感させる活動・・・業間マラソン、縄跳び、キッズフェスティバル等に向けて） （異年齢集団による活動・・・運動会、大縄跳び大会、給食の配膳と片付け等、チーム遊び、卒業式の呼びかけ練習） ・生活見直し週間を設定し、家庭と連携しながら取り組む。 ・生徒指導だよりの発行（学級懇談会での配布） 	<ul style="list-style-type: none"> ○「関わり合い」「伝え合い」「認め合い」の三合い活動を全教職員が常に意識し、各取組で仕組み、全校児童の間に温かな人間関係が昨年以上に育ってきた。 ○自立・自律の心が学年に応じてかなり育った。 △分掌間のより一層のきめ細かな連携（取組の事前・途中・事後） △基本的な生活習慣の確立に向けた実効ある方策の構築と実践
健康安全	<ul style="list-style-type: none"> (4) 健康に関する総合的な認識を高めながら、基本的な生活習慣を確立させ、生涯を通じて心身共に健康で安全に生き抜く実践力を身に付けた児童を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯教室と防犯避難訓練・・・京丹後市警察署の指導を受けて実施 ・避難訓練（火災・地震発生時を想定）・・・年間4回 ・「子ども110番の家」の児童による確認と挨拶まわり ・登下校時の指導（教職員、PTA、安全・安心 湊地区見守り隊） ・年間を通じて集団下校（水曜日は全校一斉、他の曜日は2回） ・毎月初めの安全点検の実施と修繕等の改善 ・登校後における児童の出欠の確認（欠席の場合は、理由の確認） ・養護教諭によるミニ保健指導の実施（歯、目他） ・歯の衛生週間、目の愛護週間、性教育旬間等における指導 ・保健だよりの発行（毎月1回以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ○訓練に、警察署員、消防署員等の専門家を招聘し、より実効性あるものにできた。 ○保健行事の時、養護教諭による学級毎にミニ保健指導の実施 ○歯の衛生週間、目の愛護週間、性教育旬間等、全教員の共通理解の下に指導した。 △毎月の安全点検が、出張等で期日にできず、翌日以降によくずれ込んだ。 △下校時の安全パトロールの充実

特別支援教育	<p>(5) 障害のある児童一人一人の教育的ニーズに応じ、障害に基づく困難の改善・克服を図りながら個性や能力の伸長に努め、心豊かでたくましく生きる力を培う。</p> <p>(6) 全ての児童が障害のある人を正しく理解するための指導を計画的に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の特性が見られる児童への個別指導と教育相談の実施 ・スクールカウンセラーなどの関係機関と連携し、保護者との定期的な教育相談活動の実施 ・他の児童と一緒に学級で学びにくい児童について、支援計画を立てて支援に努めた。 ・発達課題の見られる児童についてアセスメント票を作成し、更に個別の指導計画を作成してきめ細かな指導に努めた。 ・校内体制の確立と運用（課題のある児童についてのケース会議） 	<p>○発達課題のある児童が、教室で落ち着いて学習する時間が増えた。</p> <p>○スクールカウンセラー、言葉の教室等の関係機関と連携し、定期的な教育相談活動をして、保護者と共通理解を図りながら児童の指導に努めた。</p> <p>△アセスメント票や個別の指導計画を常に児童実態に合ったものにして指導する。</p>
(A) 研修（資質向上の取組）	<p>(7) 国語科を研究教科として基礎基本の徹底を図る。</p> <p>(8) 新学習指導要領の改訂趣旨及び内容の理解を深める研修の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の事前のグループ研修と全体研修、事後研修を重ねた。 ・新学習指導要領の内容理解に向け、全教科・領域の分掌担当及び教頭・教務が資料を準備し、説明して研修した。 ・外国語活動については、全ての教員が指導できるようにするため、指導の在り方について少しずつ何回も研修を重ねた。 ・授業実践力開発講座や特別支援教育等についても復講習した。 	<p>○研究授業の事前のグループ研修と全体研修、事後研修を重ねたことにより、授業実践力向上につながった。</p> <p>○新学習指導要領の研修を重ね、特に道德教育では、計画を改善できた。</p> <p>△研修内容の精選と機会の確保</p>
保護者・地域との連携	<p>(9) 教育活動内容を積極的に伝え、信頼される学級づくりに努める。</p> <p>(10) 保護者や地域の方が子どもたちと積極的に関わる機会を、教育課程に位置づけた活動を展開する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会（学校評価を公表し、意見を聴く。） ・民生児童委員（授業参観、地域・学校での児童の様子を交流） ・家庭訪問（4月、随時） ・授業参観（4・6・9・10・12・2月） ・運動会、クリーン作戦（海岸掃除と通学路のゴミ拾い）、大浜水泳、遠泳大会、キッズフェスティバル、マラソン大会、遠泳大会など……宣伝・協力依頼、協働、応援等 ・学校だより、地域瓦版「湊の子」、保健だより……毎月一回ずつ発行し、「湊の子」は保育所と紙面作りをして地域へ各戸配布 ・学期毎に教育活動をまとめ、地域に回覧 ・学校教育活動についての保護者アンケートを実施し、分析後返却 	<p>○地域人材及び地域素材を活用し、地域に根ざした教育活動を展開することができた。</p> <p>○児童と保護者の思いや評価を得ることができ、改善に反映できた。</p> <p>△内部評価における評価項目の改善及び保護者や地域住民への公開</p> <p>△評価委員会を設立し、より客観的な評価を行う。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>(1) 児童の確かな学力と豊かな心、じょうぶな体力を付けるための教育を推進する。</p> <p>(2) 学校再配置計画（案）の動向に児童が左右されることなく、しっかりと学び合うことができるよう十分に配慮する。</p> <p>(3) 今年度の年度末学校評価を生かし、課題を克服する具体的方策を全教職員に徹底し取り組めるような体制を工夫する。</p>		

平成20年度 学校評価報告(中学校)

〔京丹後市立峰山中学校〕

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
<p>1 学力の充実向上</p> <p>2 心の教育の推進</p> <p>3 不登校の未然防止と解消</p> <p>4 特別支援教育の推進</p> <p>5 開かれた学校づくり</p>	<p>1 基礎学力の充実向上 ○ 学力課題の分析に基づいた授業、校内授業研究会、週末課題、補充・補習学習の実施 △ 低学力生徒への指導、意欲・関心を高める指導方法、家庭学習の定着</p> <p>2 不登校の未然防止・解消 ○ 組織的な体制による指導で好転した生徒が増加 △ 家庭環境が要因と見られる精神的に不安定な生徒が増加</p> <p>3 心の教育の推進 ○ 多様な指導方法、全教職員による道德授業の実施 ○ 組織的な体制による問題事象への対応で早期発見・早期対応 △ 全教育活動を通しての人権教育・規範意識を高める指導（生き方に迫る指導）</p> <p>4 特別支援教育 △ 個別の支援計画に基づいた具体的な指導</p> <p>5 開かれた学校づくり ○ 積極的な学校公開、情報の発信</p>	<p>1 各教科での基礎基本の定着</p> <p>2 自ら学ぶ意欲と自ら考える態度の育成</p> <p>3 授業改善の推進、個に応じた指導の充実</p> <p>4 読書活動の推進</p> <p>5 各教科等との関連を図った総合的な学習の時間の充実</p> <p>6 道德教育を全ての教育活動で推進</p> <p>7 全教育活動を通して人権教育を推進</p> <p>8 いじめ等の未然防止</p> <p>9 規範意識の向上</p> <p>10 生き方に迫る部活動指導の充実</p> <p>11 教育相談の機能化と組織的な対応で不登校生徒の減少</p> <p>12 小中連携の充実</p> <p>13 障害のある生徒一人一人の教育ニーズに応じた適切な支援</p> <p>14 学校・家庭・地域との一本化、地域への情報発信、奉仕活動</p> <p>15 家庭の教育力の醸成</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎基本の徹底による学力の充実向上 ・ 課題克服に向けて創意ある教育活動の展開 ・ 指導方法の工夫改善、計画的な研修の実施 ・ 基礎基本の定着を図る取組を実施 ・ 授業規律の確立 ・ 評価、評定の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中連携（授業参観、出前授業、体験授業、学力・不登校に係る会議等） ・ 全教職員による校内授業研究会の実施 ・ CRT、学力診断テスト、学力学習状況調査等の分析 ・ 京都式少人数授業の実施（英語・数学）、少人数学級の実施 ・ 休業中の補習授業 ・ 学期一回の補充学習（英語、数学） ・ 週末課題の提出 ・ 定期的な授業アンケートによる実態把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校と中学校の課題を共有することで、系統的な指導が明確になった。また、中学校への円滑な接続が出来るようになった。 ○ 校内授業研究会を全教職員が行うことで授業改善への実践が前進した。特に視点を明確にしたグループでの協議は成果があった。 ○ 習熟の程度に応じた授業（数学100%、英語50%）特に3年生の英語は70%実施することで学力が定着に繋がった。 ○ 客観的なテストや調査の分析に基づいて、補習学習や補充学習を実施することで一定学力の定着を図ることが出来た。 △ 生徒の意欲を喚起する指導方法の工夫改善 △ 学力診断テストの正答率向上（課題の克服） △ 低学力生徒への手立て △ 家庭学習の定着
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規範意識の向上、人権意識の高揚 ・ 生徒の内面に迫る指導の重視 ・ 情報の共有化、組織的な対応で問題事象を減少 ・ 家庭や関係諸機関等との緻密な連携 ・ 不登校の未然防止と解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道德の時間との関連させた学級・全校指導 ・ 定期的なアンケートによる実態調査と学級指導（人権学習） ・ 生徒の実態把握と組織的な対応（生指部会の定例化、毎日の学年会、一週間に一回の状況交流） ・ 定期的な全校集会（生徒会の主体的な取組、教師の講話） ・ PTAとの連携を図った交通安全指導、ニコニコカーの活用 ・ 心の教育推進プロジェクトの機能化 ・ PTAへの積極的な情報提供 ・ 教育相談部を中心とした組織的な指導 ・ SC、心の教室相談員、関係機関、保護者との連携の強化 ・ 小学校との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 規範意識や人権意識の向上に向けた指導と関連させた内容を道德の時間にタイムリーに行うことで、自分自身を振り返ることが出来た。 ○ 実態調査を定期的に行うことで早期に対応することが出来、大きな問題に発展することが未然に防げた。 ○ 生徒指導部を中心とした指導体制で組織的な対応で問題事象が早期に解決出来た。 ○ 不登校生徒の70%が好転した。 △ 規範意識、人権意識の醸成 △ 不登校の未然防止・解消 △ 家庭・地域との一層の連携

健康安全	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の健康課題の把握 組織的、計画的、継続的な保健教育 安全な生活を営む正しい判断力を養うための安全教育の推進 危機管理マニュアルの検証と改善 食育指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 欠席黑板による生徒の出欠の確認 性教育、薬物乱用教室（キャラバンカー）の系統的な指導 校内、校外の安全指導（学級指導）、交通安全指導 避難訓練（不審者、火災、地震）の実施 危機管理マニュアルの見直しと改善 教科との関連を図った食育指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○現代的健康課題に対応する保健教育を系統的に実施することが出来た。 ○不審者に対する避難訓練は、教師の研修や生徒への講話を実施することで意識が高まった。 ○外部の講師を活用した授業が実施できた。（丹後のバラ寿司、骨密度） △保健、安全計画の策定 △校内・校外安全指導の徹底 △危機管理マニュアルの見直しと改善
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的・系統的なキャリア教育の推進 進路相談室等を活用した情報提供と進路相談 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づいた系統的な進路指導 啓発的経験をさせる活動 計画的な進路相談 	<ul style="list-style-type: none"> ○組織的・系統的・計画的な進路指導が各学年ともに実施出来た。 ○1年福祉体験、2年職場体験、3年体験セミナーなど啓発的な体験活動が定着してきた。 ○二者、三者面談を定期的に実施することで、進路に対する生徒の意識が高まった。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターを中心とした校内体制の確立 個別の指導計画に基づいた個に応じた指導の推進 各学校や関係諸機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を必要とする生徒の状況把握 別室の生徒への指導 個別の指導計画の作成・評価 特別支援教育の理解を深める研修 校内委員会の定例化 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の生徒の状況に基づいた指導計画を策定することが出来た。 ○他の機関との連携を図ることで、指導や対応の仕方等について研修を深めることが出来た。 △通常学級に在籍する生徒の具体的な支援 △校内委員会の定例化
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域への積極的な情報発信 地域への奉仕活動 学校評価結果を地域や保護者へ公開 家庭の教育力を醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開日の設定（年間3回） 学校行事を地域へ積極的に開放（合唱祭、体育祭等） 地域連携を図った活動（クリーンキャンペーン、職場体験活動、福祉体験活動） 評議委員、民生児童委員との定期的な懇談会の実施 学校便りの地域への配布 家庭との連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事には500名の保護者・地域の人たちの参加があった。 ○峰山町全域にわたるクリーンキャンペーンを実施することが出来た。（年間2回） ○学校評議委員、民生児童委員との定期的な懇談会で学校の情報を積極的に発信することが出来た。 △地域支援による教育活動 △学校の評価結果を積極的に公開 △生活習慣、家庭学習、規範意識など家庭の協力を得るための取組や工夫
次年度に向けた改善の方向性	<p>生徒は全体的に落ち着いており、大部分の生徒は学習や部活動に真面目に取り組んでいる。特に最近では生活環境の変化に伴うコミュニケーション不足、家庭環境からくる精神的に不安定な生徒が増加傾向になっている。また、規範意識や人権意識の崩れと見られる事象も日々発生している。このことは家庭学習も含めて学力の定着にも大きな影響を与えている。保護者・生徒のアンケート（自己評価資料）においてもこのような課題が指摘もされている。このような状況を踏まえ、学力の充実向上、不登校の未然防止・解消、規範意識の醸成は本校の大きな課題である。道徳教育を基盤に据えた心の教育を推進していく必要がある。</p>		<p>21年度の改善目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題を横断的に捉え、組織としての取組を強化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 心の教育推進プロジェクト・学力向上プロジェクト (2) 客観的な資料、評価の分析と具体的な指導 2 教職員の資質能力の向上（授業で勝負・生徒の心に響く指導） 3 家庭や地域との一層の連携（情報発信、行動連携）

平成20年度 学校評価報告(中学校)

学校名 [京丹後市立大宮中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 生涯学習の基盤として、豊かな心とたくましく生きる力の育成をめざし、基礎基本を徹底し、確かな学力を付ける教育活動の充実を図る。</p> <p>2 教養と社会対応力、思いやりの心を持つ視野の広い生徒を育成するため、学校内外での体験活動と生徒指導・教育相談を充実させる。</p> <p>3 体育・スポーツ活動を重視し、挑戦することを通して向上心、忍耐力、協調性等の育成を図る。</p> <p>4 地域・保護者連携を高め、開かれた教育活動を通して信頼される学校づくりを推進する。</p>		<p>「文武両道」を伝統とする学校として、心技体の調和のとれた生徒育成をめざし教育活動を進めた。</p> <p>○全体指導を重視し、規律を大切にする中で安定した学校生活につながった。</p> <p>○学力充実に向けて各教科中心の取組や協同学習・「学集会」・補充指導等を取り組み、学力向上につながった。</p> <p>○開かれた学校、発信する学校として取組・活動を進め、成果につながった。</p> <p>△学力について教科を越えた組織的な研究・取組が必要である。</p> <p>△不登校問題への取組を工夫し進めたが、数的な改善につながらなかった。</p> <p>△部活動での生徒指導充実が求められる。</p>	<p>～ 文武両道の大宮中学校 ～</p> <p>☆ 基礎学力の定着、国語力の育成、意欲を引き出す授業を通して学力向上をめざす。</p> <p>☆ ふれあい、話し込み、面談等を通して、友を支え、規律あるマナー良い生徒を育てる。</p> <p>☆ 道徳教育、体験活動、学校行事等を通して、たくましく豊かな心を育てる。</p> <p>☆ 日々の部活指導を大切にし、生徒の達成感、充実感を高め、技量向上につなげる。</p> <p>～平成20年度教育活動への信頼度～ 《教育活動評価アンケートより》 生徒評価・・・77% (6%アップ) 保護者評価・・・80% (2%アップ)</p>
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<p>○指導力量、授業改善につながる研修の充実と意欲的な授業公開に努める。</p> <p>○生徒の学力を高めるため組織的、意欲的な活動を展開する。</p> <p>○授業改善に向けた計画的な活動を展開する。</p> <p>《教科共通目標の観点》</p> <p>①開かれた授業、基本の徹底</p> <p>②規律ある意欲を引き出す授業</p> <p>③国語力、表現力の育成</p>	<p>☆「見せる、見せられる」教育活動を積極的に進め、学校教育の充実につなげる。</p> <p>☆目標を明確にした授業公開を増やし、評価を受ける中で授業改善を進める。</p> <p>☆授業評価アンケート(2回)を実施し、分析を通して傾向を提示し、授業並びに授業姿勢改善につなげる。</p> <p>□学習指導の目標を意識した授業研究を計画的に実施し、授業改善を進める。(各教科1～2回授業研、全体授業研3回実施)</p> <p>□各種学力テスト等を分析、検討し、各教科に指導の方向性を示す。</p> <p>□協同学習(終SH後30分間×12日間×3回)、「学集会」(休業中の学習活動)、補充指導等を通して学習状況を把握し、適切な提起につなげる。</p>	<p>○年間3回の休日参観日を含む10回の参観日を設定し、参観者を増やすために様々な工夫も進めた。年間15～600名の参観者</p> <p>○授業評価、教育活動評価等 アンケートを実施し、教育活動の改善と成果につなげた。</p> <p>生徒授業評価・・・「授業の分かりやすさ、意欲的な学習」2～3%アップ(学期対比)</p> <p>○授業以外の学習指導も積極的に進め、協働意識の下で基礎学力定着につながっている。</p> <p>△家庭学習の定着に向けて学校、家庭の連携の充実が必要である。</p>
進路指導	<p>○進路実現をめざし、各学年で実態に合った効果的な進路学習、指導を行う。</p> <p>○進路に関わる保護者連携、情報発信を各学年で丁寧に行う。</p>	<p>☆各学年で進路情報の提供を丁寧に行うと共に、12月に全学年で三者面談を実施し、指導に生かす。</p> <p>□目的意識のある進路選択ができるよう全学年で丁寧な情報提供を進める。</p> <p>□将来を見通した系統的で体験的な進路学習の充実を進める。</p>	<p>○新規で全学年三者面談を実施し、進路・学習・生活全般を考えるよい機会となった。</p> <p>○体験学習の発表会を休日参観に企画できた。</p> <p>○状況を踏まえた3年進路指導の工夫と充実</p> <p>△1、2年生の進路学習の充実を進める。</p>

生徒指導 教育相談	<p>○支え合い、指摘し合える生徒を育てるための緻密な学級経営</p> <p>○生徒の内面理解に努めると共に問題事象や現状の背景分析と家庭、関係諸機関等との連携を丁寧に進める。</p> <p>○報告・連絡・相談による早期発見、早期対応(個別指導)の充実を進める。</p> <p>○スクールカウンセラー、教育相談担当者との連携充実。</p>	<p>☆ふれあい、話し込みを大切にし、事象対応は「スピード・丁寧・誠実」を意識し、動きを止めない指導を進める。</p> <p>☆ルール、マナーを守り、挨拶のできる生徒を育てる。</p> <p>☆定期的にアンケート等を実施し、生徒の悩みや相談について把握し、指導・支援を行う。</p> <p>□支え合いと他者へ指摘できる態度の育成など学級経営重視を軸とし、反社会的問題事象の減少を一層進める。</p> <p>□支え合う心の育成など学級経営重視を軸とし、不登校生徒の減少に努める。</p> <p>□家庭訪問など保護者との接点を大切にし、専門家との連携を通して、各生徒の早期改善をめざす。</p>	<p>○早期発見、対応を進め、又生徒の内面理解にも努め、反社会的事象は少ない状況にある。</p> <p>○全体指導を重視し、規律ある学校生活につなげた。</p> <p>○不登校問題の解決改善に向けて、手法の改善や様々な工夫を進め成果にもつなげた。</p> <p>△生徒指導、教育相談に関わる学級経営力の充実を進める。</p> <p>△不登校生徒の数的状況が停滞し、改善に向けた一層の工夫と努力が必要である。</p>
研修・研究	<p>○研修研究の成果を踏まえ、「教師力」向上教育実践力継承事業を中心に協働精神のもと組織的、計画的に進める。</p>	<p>□各活動・取組は協働意識のもと、人材育成の視点も大切に、具体的、計画的に展開する。</p> <p>□教師力向上・実践力継承につながる研究活動を展開する。 (スキルアップ・5アクション)</p> <p>①授業研究・・全員参加研究会(3回)、教科別研究会等の実施</p> <p>②学年単位の学級経営力、生徒指導力等の育成活動</p> <p>③若手教員育成研修・・教師力基盤育成のための校内研修の実施</p> <p>④校外研究会等への積極的な参加と自己啓発</p> <p>⑤協働意識のもと、組織的な初任者研修</p>	<p>○教師力向上を進める事業研究はスキルアップ・5アクションを中心に実施し、授業改善や人材育成への意識高揚につながった。</p> <p>○活動を通じて学校教育の成果と課題の明確化 研究活動全体・・教員による評価 86% 保護者の教員協働意識評価 72%(6%アップ)</p> <p>△事業研究の成果を整理し、人材育成に向けてのシステムの工夫充実を進める。</p> <p>△日々の教育実践の中での研究活動の工夫充実</p>
健康安全	<p>○健康を第一に考え、健康と安全に関わる指導、訓練を計画的に行い徹底する。</p> <p>○生徒の安全を守るための関係諸機関との連携を進める。</p>	<p>☆火災・不審者・地震等の訓練並びに情報化社会への適正な対応力を高める啓発・指導を通して、危機対応力を高める。</p> <p>☆PTA活動と連携し交通安全等生徒の安全に関わる取組を展開する。</p> <p>□安全につながる基本的な生活習慣の充実を進めると共に、生徒会・委員会活動と連携した取組、活動を展開する。</p> <p>□保健体育科と連携した性教育や保健指導等の充実を進める。</p>	<p>○安全につながる指導・訓練を保健体育科・生徒指導部とも連携して計画的に進めた。</p> <p>○PTA活動(「ここにこカー」活用 21日間)と連携した交通、登下校の安全指導ができた。</p> <p>△情報社会に対応した安全指導の充実を進める</p> <p>△心身の健康管理のため食育を推進する。</p>
保護者・地域との連携	<p>信頼される学校づくり</p> <p>○学校開放と教育内容の充実を進める。</p> <p>○積極的な広報活動に努め、地域貢献を進める。</p> <p>○評価活動を進め、教育充実につなげる。</p>	<p>☆教育活動に対する外部評価、各アンケートを行い、次年度に生かす。</p> <p>☆教育活動の公開、発信を心がけ、地域連携の教育を推進する。</p> <p>☆ホームページ更新を定期的に行うと共に、利用しやすさを追求する。</p> <p>□ホームページ更新のできる教職員を複数養成する。</p> <p>□民生児童委員、保護司会など関係団体との連携を大切にし、情報交流を進める。</p>	<p>○教育評価アンケート(PTA・生徒)を実施、公表し、成果と課題は次年度に生かしている。</p> <p>○情報発信を心がけ、ホームページ更新は積極的に実施した。(PTA閲覧率37%)</p> <p>*○外部評価を試行実施し、本格実施に備えた。</p> <p>△地域と連携した教育活動の質的向上を進める</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>文武両道の伝統を継承する中で、学力向上につながる授業改善は「分かりやすい授業、意欲のでる授業」をめざし、具体的に生徒の変容につなげなければならない。また、不登校生徒問題の現状改善を進めるため、危機意識を持ち多様な活動を展開し結果が求められる。そのためには各教職員が目標、活動の方向性を一層明確にし、指導力を高める必要がある。また、課題改善に向けて小中連携の充実も求められるし、学校支援地域本部事業も活用し、地域社会をより重視する学校教育の質的改善を進めなければならない。</p>		<p>(次年度の重点目標の方向性)</p> <p>1 支え励まし合う学校・学級づくり</p> <p>2 分かりやすい授業を通じた学力充実、向上</p> <p>3 生徒会活動の活性化と部活動の重視継続</p> <p>4 小中連携の充実と学校支援地域本部事業活用</p>
<p>* 外部評価試行は学校評議員・PTA本部役員に依頼し、6月に評価項目提示、2月から評価依頼・分析等を行い、次年度の本格実施に生かす。</p> <p>* 「具体的方策」等の☆印・強調文字は学校・外部評価者の共通評価項目で、□印は学校内評価項目である。☆・□印は紙面の関係で一部省略している。</p>			

平成 20 年度 学校評価報告(中学校)

学校名〔京丹後市立網野中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学び、確かな学力を身につける。 ・自尊感情を尊び、豊かな心を育てる。 ・心身を鍛え、克己心を養う。 ・地域に開かれた学校作りを進める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒を減少させることができた。(H18:15 人→H19:5 人) ・好ましい人間関係づくりが進み、相互に良さを認め合える気運が生まれてきた。 ・校種間・関係団体との会議が充実し連携が進んだ。 	《規律の確立》 「人の話を聴く」 「時間を守る」
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・創意ある積極的な教育活動の推進 ・授業改善 ・授業規律の確立 ・主体的に学ぶ力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数学級(1年)、少人数授業(国・数・英)の実施、選択教科(美術・家庭)における社会人講師の導入 ・学力実態分析、指導方法の交流、年5回の校内授業研究会の実施 ・学力充実向上部、生徒指導部を中心とした授業ルール徹底 ・週1回定例の「気づき」の発行による授業実態の共通理解 ・特別活動部による授業規律の確立を目指した生徒の主体的な取組 ・週末課題、ドリル学習、教え合い学習の実施 	△学力の二極化(特に数学が顕著)と下位層(生徒指導上の課題を含む)への具体的な手立ての工夫が必要である。 ○ベル着が定着し、全体として落ち着いて授業を行えるようになった。 △前年度よりさらに授業規律は向上しているが、授業によっては、集中して人の話を聴くことにはまだ課題がある。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との信頼関係づくり ・教師の指導力の向上 ・好ましい人間関係の育成 ・生徒理解と未然防止 ・相談活動の充実と家庭との連携強化 ・別室指導の機能を生かした指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動、業間指導等、生徒との接点やつながりの重視 ・指導の統一、問題事象等の正確な情報収集と教職員の共通理解、複数指導等の組織的な対応(週1回定例の生徒指導部会及び教育相談部会の実施、週1回定例の「気づき」の発行、保健室を中心とした教育相談活動及び情報収集) ・異年齢集団による取組の実施(全校ボランティア活動、体育祭、合唱祭における異年齢集団での活動の工夫) ・全教職員による別室指導と自教室復帰に向けての指導 ・小中連携・関係機関(病院、福祉事務所、巡回相談、警察等)との連携 	○全校集会が整然とできるようになり、全体の規範意識(頭髪、制服、通学方法、時間厳守等)が着実に向上してきている。 △服装の着こなしなど外部の評価に耐えられる価値観を育成する。 ○好ましい人間関係づくりが進み、相互に良さを認め合えるようになった。 ○不登校出現率を低位にとどめることができた。(H20年度、6名、1.5%)

健康安全	<ul style="list-style-type: none"> 健康の保持増進のための体制づくり 健康教育、性教育の系統的な指導 安全に対する意識の高揚 生徒会保体委員会の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の健康観察、保健室の来室状況の把握、養護教諭と連携した組織的な指導、保健だよりの発行 薬物指導、性教育等の系統的・計画的な実施 毎日の登下校の安全指導の励行と交通安全教室の実施（1年） 生徒会保体委員会の活動の充実 	<p>○問題事象の早期解決や不登校出現の未然防止につなげることができた。</p> <p>○ヘルメット着用が昨年度より定着し、登下校中の交通事故発生も減少した。</p> <p>△外部からの不審者対応等、危機管理意識の高揚を図るための取組を工夫しなければならない。</p>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解、望ましい職業感の育成 進路情報の周知と啓発的な体験活動の充実 進路相談の充実 進路希望の実現を目指す取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習（各学年）、職場体験（2年生）の実施 生徒対象の講話学習（職業安定所職員、高等学校教員）、保護者対象の進学説明会の実施（6月：3年、10月：全学年対象） 高校が実施する体験学習や体験セミナーへの積極的参加 全学年三者面談の実施（11月）二者面談（必要に応じて） 補充学習の実施（3年2学期以降延長ドリル、放課後の学習会） 	<p>○様々な啓発的体験活動を通して、自分を見つめさせ、目的意識を高めることができた。</p> <p>○進路情報を適切に保護者へ周知し、保護者と連携して進路指導を進めることができた。</p> <p>△基礎的な学力を身につけさせるために、早期より具体的な手立てを講じる必要がある。</p>
研修（資質向上の取組）	<ul style="list-style-type: none"> 本校の課題に応じた研修の実施 指導力の向上を図る校内授業研究会の実施 センター研修への計画的参加 	<ul style="list-style-type: none"> 年5回のテーマを設定した授業研究会と全員による相互評価 各領域における計画的な校内研修会の実施 生徒指導部、学力充実向上部を中心とした授業規律の確立を目指した研修の実施 初任者研修の計画的な実施 学校評価と教職員評価の連動と有効活用 	<p>○校内授業研究会を開催することで、互いに学び合い、課題を明らかにすることができた。</p> <p>△授業規律の確立を基盤とした授業改善が、まだ個々の教員に依存しており、組織的に取り組んでいく必要がある。</p> <p>△客観的データ等を活用し、学校評価及び教職員評価をさらにわかりやすく改善していく。</p>
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域に開かれた学校づくり 説明責任 双方向の情報交流を生かした学校運営 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問などの保護者への丁寧な対応 生徒指導総合連携推進事業の継続・発展{小中高連携の充実、地域ネットワーク（民生児童委員、保護司等）と連携した生徒指導の推進} 地域の教育力の活用{ボランティア活動、職場体験、福祉体験、伝統文化体験学習、選択教科の外部講師（美術・家庭）} 学校評価の工夫改善 	<p>○保護者や関係団体などと連携を深め、信頼される学校づくりを前進させることができた。</p> <p>△ホームページなどを活用した定期的な情報発信を進めていく。</p> <p>△保護者アンケートの実施に、より多くの保護者の協力を得る方法を検討する。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立を基盤とした授業改善による基礎学力の定着 生徒の自律的な力、支え合う力の育成 粘り強くやり遂げる力の育成 「生徒指導総合連携推進事業（学習指導・生徒指導・教育相談）」の継続・充実 		

平成 20 年度 学校評価報告(中学校)

学校名〔京丹後市立橋中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
○基礎基本の学力を身に付け、目標を持って取り組む生徒の育成 ○思いやりの心を身に付けた生徒の育成		○組織的な学校経営が定着し、学校運営がスムーズに実現できた。 △生活面では安定しながら、学力面で伸ばしきれなかった。	○学力の向上 ○「豊かな心」「主体的に生きる能力」の育成
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	○「京の子ども夢、未来校」学力向上の発表に向けた、研修会の充実と実践の強化 ○家庭学習の定着に向けた推進 ○学年目標達成に向けた取組 1年—授業規律と基礎学力の定着 2年—学習意欲の向上と学習習慣の定着 3年—学力の向上と進路を目指した計画的・意欲的な学習	①「読解力」を意識した授業改善の推進 ・月1回以上の授業参観と研修会を実施する。 ・月1回の公開授業週間の設定をし、他の教師から学ぶ取組。 ②「英語」・「数学」における、少人数授業の効果的授業の推進 ・最低限単元毎の教科部会によるTT・習熟度授業の研修を行う。 ③「家庭学習」の定着に向けた研修の推進 ・教科全体で宿題や週末課題の調整・研修を行う。 ④「授業に集中できる」生徒の育成に向けた研修の推進 ・「京の子ども夢、未来校」研修の中で、授業改善を図る取組の推進を図る。	○「京の子ども夢、未来校」の発表に向け、全教職員が一丸となり、「読解力」向上に向けた取組ができた。 ○少人数授業の効果的授業の推進についても、教科部会が常時行われ、組織的・計画的な授業展開を推進できた。 △家庭学習の定着については、各教科の連携の弱さが有り、家庭学習時間の増加、定着には至らなかった。今後保護者との連携の中で定着に向けた推進が課題となる。
生徒指導	○生徒相互のより良い人間関係の育成 ○不登校生徒の未然防止を図る ○ネット関連問題事象の未然防止を図る	① 組織的な生徒指導を行う。 ② 年度当初・長期休業中に向けて配布する生活の決まり等の指導の徹底を図る。 ③ 問題事象に対する早期発見・早期指導を図る。 ④ ネット問題に対する生徒・教職員・保護者の研修会を実施する。	○定期的に生徒指導部会を開催し、全職員に問題事象の徹底が図れた。 ○不登校生徒についても年間を通しゼロ件を維持した。 ○ネット犯罪に対する学習会を生徒・保護者別に開催し、意識の高揚につながった。 △正しい情報機器の活用については、まだまだモラル面での指導が必要である。

健康安全	<p>○生徒が主体的に健康で安全な生活を創り出す態度を育成する。</p> <p>○食についての健康教育の推進</p>	<p>① 給食時の衛生面での再点検と改善を図る。</p> <p>② 食育に対する学習を推進する。</p>	<p>○給食時の音楽や給食センターの「いただきます」の放送は食育教育に多いに役立った。</p> <p>△衛生面ではまだまだ不十分な面があり、今後改善していく必要がある。</p>
進路指導	<p>○3年間を見通した計画的・系統的な進路指導の充実を図る</p> <p>○自己の特性を知り、自己を生かす能力を育てる。</p> <p>○職場体験・福祉体験を通して、生き方・在り方を考えさせる。</p>	<p>① 進路実現に向けた3年間を見通した系統的な進路学習の推進。</p> <p>② 高校説明会の有効な立案を研修する。</p> <p>③ 進路希望実現に向けたデータの收拾と緻密な分析をする。</p> <p>④ 三者面談の充実を図る。</p> <p>⑤ オープンキャンパス等の積極的な参加の奨励を行う。」</p>	<p>○3年間の系統的進路学習の改善ができた。</p> <p>○各高校説明会に保護者の参加も多く、意義ある説明会が開催できた。</p> <p>○今年度は市中研進路部会のデータの豊富にいただくことができ、進路指導上大いに活用することができた。</p> <p>△競争率が厳しい状況の中で、低学力生徒の学校選択に対し研究が必要である。</p>
特別支援学級	<p>○支援学級生徒の発達課題を全職員が把握し、個々の指導計画に基づく、指導内容の改善を図る。</p>	<p>① 研修会の実施</p> <p>② 可能な限り、TT授業を実践し、きめ細かな指導にあたる。</p> <p>③ 保護者に対する正しい理解を図り、連携した指導にあたる。</p>	<p>○夏休み中の研修会の開催と月1回の職員会議での報告により、全職員の一致した指導体制がとれた。</p> <p>○今年度は多くの教科でTTの体制がとれ、細かな指導ができた。</p> <p>△教科指導も大切だが、社会性を培う指導も研究・実践する必要がある。</p>
保護者・地域との連携	<p>○地域・保護者・学校が一体となって、生徒を守り、育てていく体制づくりの実現</p>	<p>○ 開かれた学校づくり</p> <p>① 地域行事への積極的参加</p> <p>② 学校公開における、地域の積極的な参加を促す取り組みの推進</p> <p>③ 学校評議員・PTA 役員との連携強化</p>	<p>○地域行事に対する参加体制は強く、合同行事も組まれているため、多くの参加が実現した。</p> <p>△広報活動の弱さがあり、新しく始めた「作品展」等の地域参加は非常に少なかった。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>○ 少人数授業を更に、充実しきめ細かな指導と共に学力向上を図る。</p> <p>○ 支援学級生徒に対し、可能なかぎり複数配置の授業形態を取り、基礎基本の定着を図ると共に、社会性や生きる力を身に付ける指導をする。</p> <p>○ 地域参加の行事や作品展等の工夫を考える。</p>		

平成 20 年 度 学 校 評 価 報 告(中学校)

学校名〔京丹後市立間人中学校〕

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
1 確かな学力を身につける。 2 豊かな心の育成をめざす。	1 学習に対する意欲や関心をもたせること 2 問題事象を教訓にした指導を行うこと	1 落ち着いた学習環境づくりに力を注ぐ。 （１）学習に向かう構え（意欲） （２）授業規律の向上、魅力ある授業 2 生活上のマナー、ルール等を遵守させる。 （１）挨拶励行、服装、身なりに気を配る。 （２）ヘルメットの着用	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	学習意欲を喚起させる。 基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝読書 ・ ドリル学習の定着 ・ 全校補充学習（数学・英語） ・ 小テストによる繰り返し学習 ・ 週末課題の提出指導 ・ 長期休暇中の学習会 	○ 学習の意義を教え伝える機会を計画的に設定したことが奏功し、授業規律が徐々に高まりを見せた。 △ 学んだことを復習し、定着することをめざし継続した取り組みをしていく必要がある。
生徒指導	生活上のルールやマナーを身につけ思いやりの心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活アンケート実施・分析後二者面談の実施 ・ 集会活動 ・ 人権学習 ・ 生徒指導課題交流 	○ アンケートや二者面談等から生徒の実態を把握し迅速な対応ができるようになってきた。 △ 内面に迫る指導に心がけ、さらに生徒と教師の良好な信頼関係を築くことである。
健康安全	心身ともに健康で安全に過ごす生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健教育（健康管理、性教育、薬物指導）交通マナー ・ 登下校の指導 ・ 日々の給食指導 ・ 美化指導 ・ 避難訓練 	○ 保健室の有益な活用ができた。（怪我の対応のみならず、生徒の思いに共感しながら指導を継続した） ○ ヘルメットの着用、二列並進禁止については、適宜注意し続け、街頭指導を強化した。 △ 日々の美化活動については、清掃場所の検討、掃除の仕方について徹底していく必要がある。

進路指導	望ましい職業観や勤労観を身につけ進路を拓く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奉仕体験活動 ・ 福祉体験 ・ 職場体験 ・ 高等学校体験セミナーへの参加 ・ 進路学習 ・ 進路講話（社会人） 	<p>○ 学校では体験できない活動を通じて、自分自身の近い将来の構想をしていくことに大いに役立っている。</p> <p>△ 体験だけに終わらず、体験から学ぶ指導を充実させる必要がある。</p>
③ 教育実践 モデル校 の取組	学習や学校生活全般の中で表現する力を身につけ、コミュニケーション能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科で表現する機会を生徒の活動に取り入れた授業の展開 ・ 部活動 ・ 体験的な活動等を通じて思いのほどを相手に明瞭に伝えることを意識した指導 	<p>○ 社会生活に欠かせない挨拶、言葉遣い等の大切さを実感し、ふさわしい言動ができる生徒が出てきた。</p> <p>○ 授業中に生徒間で教えあう光景が見られるようになった。</p>
保護者・ 地域との 連携	教育活動の理解、協力のもと生徒の健全な発達を願う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校公開の設定 ・ 授業参観 ・ 参観後の評価・懇談（民生委員・保護司） ・ 学校だよりの発行 ・ 懇談会 	<p>○ 授業や部活動の参観や懇談会、学校だより・学級通信等で生徒の活動状況を定期的に伝え、学校の教育方針についても一定の理解をしていただいた。</p>
次年度に 向けた 改善の 方向性	<p>学習規律を向上させ、学習しやすい環境づくりに専心する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級内の良好な仲間関係の構築 ・ 魅力ある授業展開（意欲を喚起させる授業づくり） <p>体験活動を通じて心の教育をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思いやりのある言動（礼儀、マナーなど）を身につける。 ・ 福祉体験や職場体験、奉仕的な活動野の計画と活用 		

平成20年度 学校評価報告(中学校)

学校名〔京丹後市立宇川中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
(1) 生徒一人一人に確かな学力の定着を図る教育活動を推進する。 (2) 積極的な生徒指導及び協働体制の継続を図る。 (3) 道徳の時間を充実させるとともに、体験活動を通して豊かな心を育む。 (4) 教育活動全体を通して、健康や体力の向上に努める。 (5) 家庭・地域社会と一体となって、信頼される学校づくりを推進する。	(1) 本校生徒の学力課題や、授業改善策を全教職員が共通認識した。家庭学習習慣の確立に課題が残る。 (2) 生徒指導部会の定例化、主任を中心とした指導体制が確立でき、生徒の変化に対応した。教職員の危機意識の高揚が課題である。 (3) 「道徳の時間」の指導に、「明日へのとびら」など、年間指導計画に位置づけることが課題である。 (4) SCや心の教室相談員を効果的に活用するなど、教育相談により落ち着きを見せた生徒もある。 (5) 学校教育の公開は適切に実施し、学校行事のアンケート調査等から、学校の信頼回復が出来つつある。	(1) 生徒一人一人に確かな学力の定着を図る教育活動の推進【京の子ども夢・未来校指定研究】 (2) 積極的な生徒指導及び協働体制の継続 (3) 豊かな人間性を育む「心の教育」の充実 (4) 地域に開かれ、信頼される学校づくりの継続 (5) 教育活動全体を通して、健康や体力の向上 (6) 特別支援教育の充実 (7) 校種間連携の更なる推進

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	生徒一人一人に確かな学力の定着を図る教育活動の推進	(1) 指導方法の工夫・改善の研究を充実させた。 ア 6つの視点に基づく授業の振り返りメモの作成 イ 授業で「目標」パネルの活用 ウ 「言語の力」の育成に向けた全教科の言語活動の研究「ホワイトボード」の活用 エ グループ分け(理数系、文化系、技能系)による授業研究 事前授業研究、AT(アシスタントティーチャー) オ 全教科で授業研究会の実施 (2) 家庭学習の習慣化を図るため指導の工夫を行った。 ア 生活リズムの改善 イ 家庭学習習慣化の取組(リストアップ & ペイント方式、「なぜ学ぶ」) ウ 保護者への啓発と支援(生活リズムアンケートの結果から) エ 全校学習会 (3) 学力実態・指導方法等について、小中連携の強化を図った。	○ 全ての教員で研究授業を実施し、基礎基本の定着を図るための指導方法の研究が充実した。 ○ アンケート調査から、言語活動の推進のための「ホワイトボード」の活用で97%の生徒が授業理解に役立ったと感じた。また、54%の生徒が家庭学習の時間が増えたと回答した。 △ 全ての教科で「言語の力」育成に向けたホワイトボードの活用等、更に研究を深めることが課題である。 △ 将来の目標を持たせ、学習意欲の更なる向上に向けたキャリア教育の充実が課題である。

生徒指導	積極的な生徒指導及び協働体制の継続	<ul style="list-style-type: none"> (1) 週1回生徒指導部会で生徒の実態や課題把握、方針を作成した。 (2) 全教職員による協働指導体制のもとで指導を推進した。 (3) 9年間をとおして同一の小集団であるための、人間関係の固定化について改善を図った。 (4) 生徒会活動の活性化を図った。(隔週の生徒会活動・学級活動日) (5) 教職員の危機意識の高揚について常に指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部会の定例化、主任を中心とした指導体制が充実し、生徒の変化に対応できた。 ○ 3年生を中心とした生徒会活動により、自らの生活改善の意識が高まった。 △ 教職員の更なる危機意識の高揚が課題である。
健康安全	学校保健、学校安全、学校給食などを中心に各教科等との関連を図り組織的な取組	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒に自分の生命は自分で守る力を育てるため、年3回の避難訓練(火災、地震、不審者対応)を実施し、月1回下校指導を行った。 (2) 登下校の安全・安心のため、通学路の変更を行った。 (3) 月1回安全点検を実施し、危険箇所の把握と早急な改善を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 繰り返し実施している避難訓練で、身を守る行動マニュアルは身についてきた。 △ 普段の不審者や交通事故等から身を守る意識には課題が残る。
進路指導	進路希望の実現を目指す学力の充実と進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> (1) CRTや広域テスト等の実施、BS等補充指導の充実を図った。 (2) 系統的な進路学習の工夫を行った。 (3) 面談や多目的教室の進路コーナー等の活用により、進路相談の充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3年生の進路希望が実現できた。
研修(資質向上の取組)	今日子ども夢・未来校「主体的な学習意欲の向上」に向けた研修	<ul style="list-style-type: none"> (1) 先進校視察・研究発表会で研修を深め、伝達講習を行った。維孝館中学校、和田中学校、橘中学校、横浜国立大学附属中学校 (2) 新学習指導要領、「質の高い学力を求めて」、「質の高い学力を目指す授業と評価」、平成19年度久美浜中学校の研究を研修した。 (3) 指導主事要請訪問を2回実施し、指定研究の充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京の子ども夢・未来校の研究指定を受けたことが契機となり、多くの研修が出来た。 ○ 研究主任をはじめ、教員の指導方法の研究が充実した。 △ 繰り返し、資質向上に向けた研修を深めることが大切である。
保護者・地域との連携	教育活動の積極的な公開、並びに家庭・地域社会との積極的な連携強化	<ul style="list-style-type: none"> (1) 本校の教育活動・学校運営の理解を得るため、PTA総会や学校だより等で紹介した。 (2) 月1回「学校公開日」を設定し、学校行事や授業の様子を保護者・地域に公開した。 (3) 学校行事や学校公開、また年2回、保護者や生徒に「アンケート調査」を実施し、寄せられた意見を学校改善に活用した。 (4) PTA活動「家庭教育研修会」を年2回開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育の公開は適切に出来た。 ○ 学校行事のアンケート調査等から、学校の信頼回復が出来つつある。 ○ PTA家庭教育研修会は好評であった。 △ 行事のない月に実施している学校公開日の参観を工夫することが課題である。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学力充実・向上に向け、「主体的な学習意欲の向上」を主題とした「京の子ども夢・未来校」の研究発表会を成功させる。(11月11日) (2) 校長主導の組織的な学校経営を充実・発展させるために、全教職員の主体的な教育推進と、教頭・教務主任を始めとした分掌主任の企画力・実践力の向上を図る。 		

平成20年度 学校評価報告(中学校)

学校名 [京丹後市立弥栄中学校]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 一人一人の生徒に確かな学力の定着を図る教育活動の推進</p> <p>2 心の教育の充実を図り、心を揺さぶり、心を鍛え、主体性をはぐくむ教育活動の推進</p> <p>3 自立への歩みを理解し、深い信頼と強い絆のもとに進める不登校の未然防止と解消</p> <p>4 安心・安全で開き、信頼される学校づくりの推進</p>	<p>1 学力 ○学力は概ね定着 △教科指導における特別支援 △内発的な表現力の育成</p> <p>2 心の教育 ○生徒は落ち着き、目立った人権問題やいじめ事象は見られない。 △年間を通じた道徳時間の授業改善 △文化芸術鑑賞の継続実施</p> <p>3 不登校 ○不登校の減少および解消 △スクールカウンセラーによる計画的なスクールカウンセリングの拡大</p> <p>4 安心・安全、開かれた学校 ○弥栄っ子ふれあいフォーラムの開催 △不登校の未然防止および特別支援に関する小中連携 △定例学校公開の周知と参加者数の増加</p>	<p>1 学力 (1) 個に応じた指導など指導方法の工夫改善と指導体制の充実 (2) 基礎的・基本的な内容の徹底と学力の充実・向上 (3) 生徒が充実感を抱く魅力的な授業づくりの構築</p> <p>2 心の教育 (1) 心を耕し、心を鍛える道徳教育の充実 (2) 思いやり、やさしさをはぐくみ、個性や価値観の違いを認めることのできる人権教育の充実 (3) 「生きる力」をはぐくむ「総合的な学習の時間」の創意工夫</p> <p>3 不登校 (1) 生徒の実態把握と組織的な指導体制の確立 (2) スクール・カウンセラーとの積極的な連携と活用</p> <p>4 安心・安全で開き、信頼される学校づくりの推進 (1) 「開かれた学校づくり」に向け、教育活動・学校運営などの積極的な公開 (2) 豊かな体験活動の推進に向けての地域社会との連携と教育力の活用 (3) 危機管理体制の整備と充実</p>

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<p>(1) 個に応じた指導など指導方法の工夫改善と指導体制の充実</p> <p>(2) 基礎的・基本的な内容の徹底と学力の充実・向上</p> <p>(3) 生徒が充実感を抱く魅力的な授業づくりの構築</p> <p>(4) 心の教育の充実 ア 心を耕し、心を鍛える道徳教育の充実 イ 思いやり、やさしさをはぐくみ、個性や価値観の違いを認めることのできる人権教育の充実 ウ 「生きる力」をはぐくむ「総合的な学習の時間」の創意工夫</p>	<p>(1) ア 一人一人の学力実態を把握し、課題を明確にしている。 イ 生徒と教師の信頼関係作りを進め、学力向上を図っている。 ウ 授業改善に関わる研修会を実施し、指導力の充実に努めている。</p> <p>(2) ア 学習の形態や学習内容を工夫し、基礎学力の定着を図る。 イ 長期休業中の学習会に意欲的に参加させ、学力の定着・向上を図る。 ウ 読書力向上への指導を通して、豊かな表現力につなげている。 エ 学力診断テスト・定期テスト等の分析を授業に生かしている。 オ 全校学習を生徒会の取組と連動させ、学習意欲を喚起している。</p> <p>(3) ア 形態、発問を工夫することで、生徒が主体的に活動できるように授業改善を行っている。</p> <p>(4)心の教育の充実 ア 楽しく、豊かな学校生活を送るための人権意識を高める指導を行っている。 イ 人権問題は速やかに対応し、保護者との連携のもとに指導を進めている。 ウ 体験活動等を通じて生き方に迫る指導を行っている。 生徒同士の意見を交流しながら、互いを認め合い、自らの生き方を見つけさせる指導を行っている。</p>	<p>○目標基準準拠学力検査、全国学力・学習調査、京都府中学校学力診断テスト等の結果によれば、概ね、学力は定着している。</p> <p>△道徳の時間の工夫・改善 △通常の教科指導時間等における特別支援 △読書指導の教育課程内での位置付けの明確化と指導の充実 △授業・集会・発表会等における発言・発表等、生徒の主体的な表現力の育成</p>

生徒指導	(1) 生徒の実態把握と組織的な指導体制の確立 (2) スクール・カウンセラーとの積極的な連携と活用	(1) ア 生徒指導部および教育相談部で生徒全体の出欠の動向を把握し、指導の課題を明らかにして指導を進めている。 (2) ア 便りの発行、全生徒対象のカウンセリング講座等によって、教育相談についての理解を深め、啓発している。 イ カウンセリングを計画的に働きかけ、実施している。	○生徒は落ち着き、目立った人権問題やいじめ事象は見られない。 ○2学期に出現した不登校傾向生徒は、通常登校まで回復していないが、午前・午後共に別室登校できるようになった。 △1学期から予兆のあった生徒が、2学期から不登校傾向を示すようになった。 △拠点校スクールカウンセラーの活用
健康安全	(1) 危機管理体制の整備と充実	ア 教職員の危機管理への理解を深め、対応力を高めるために、危機管理マニュアルの研修会等を行う。 イ 毎月、校内安全点検を実施し、営繕を行う。 ウ 通学路の確認、毎日の登校指導や定期的な下校指導により、登下校の安全確保の指導を行う。	○校内定例安全点検を実施 ○避難訓練等、安全指導の実施 △通常時の自転車登下校の交通マナー指導の徹底
進路指導	(1) 希望進路実現に向けて、生徒の学力の充実向上を図る。 (2) 職場体験などの活動から、正しい職業観や勤労意欲を身につけさせる。	(1) ア 年度当初から計画的に二者・三者による進路相談を実施し、課題を明確にして、学習指導を行う。 (2) ア 学級指導および総合的な学習の時間の指導を充実させる。	○希望進路の実現 ○職場訪問・職場体験、進路指導等の計画的な実施 ○家庭と連携した早期からの個に応じた進路指導
ア特別支援教育	(1) 個に応じた指導など指導方法の工夫改善と指導体制の充実	ア 個の学力実態に応じ、特別な支援等を工夫する。 イ 特別な支援の必要な生徒については、アセスメント票や個別の指導計画を作成し、教職員、関係機関との共通認識のもとに、機能的な対応を図っている。	○チェックシートにより発達に課題を持つ生徒の調査を実施 △通常の教科指導時間等における特別支援
保護者・地域との連携	(1) 「開かれた学校づくり」に向け、教育活動・学校運営などの積極的な公開 (2) 豊かな体験活動の推進に向けての地域社会との連携と教育力の活用	(1) ア 月に1度、ホームページの更新を行う。 イ 毎月の学校公開、「学校へ19日（行く日）」を工夫して、参加者を増やす。 ウ 小中連携を進め、生徒指導、学力向上の課題を共有化し、行動連携を行う。 エ 本校の課題や目指す教育の方向性を明らかにし、保護者、地域社会に提示する。 (2) ア 地域社会とのふれあいを大切にした行事に参加し、中学生としての成長をアピールする。 イ 小中合同のふれあい学習発表会「弥栄っ子ふれあいフォーラム」を開催する。	○ホームページを新規に開設し、更新している。 ○弥栄っ子ふれあいフォーラムに参加した。 ○新たに本校作品展を開催した。大好評で、本校の教育活動への理解を深めた。 △行事は参観が多いものの定例学校公開への参加が少ない。ホームページの公開・更新と併せて学校への関心を高める工夫が必要
次年度に向けた改善の方向性	1 学力の定着と向上 2 保護者・地域との連携および道徳時間の充実による心の教育の推進（校訓4 愛郷の指導を推進） 3 不登校の未然発生防止と解消の実践 4 保護者・地域と連携した安全・安心な学校、開かれた学校づくりの推進		

平成 20 年 度 学 校 評 価 報 告(中学校)

学校名〔京丹後市立久美浜中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「学力の充実」「人間としてのあり方・生き方の指導」について具体的な方針を示し、組織的に指導することで信頼される学校づくりをめざす。		(成果) 問題事象に対して生徒指導部を中心に原則的に対応した結果、生徒の言動が前向きになった。 (課題) 不登校(気味)生徒の数が多く、保護者理解を得ながら見通しをもって指導することができなかった。	1 学校体制の確立 2 生徒指導の充実 3 学習指導の充実 4 部活動の充実 5 家庭・地域との連携
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	(1) 指導方法の工夫・改善 (2) 国語力の育成 (3) 教育課程外の取組の充実 (4) 評価に係る研修の充実	(1) 研究授業や公開授業を行い、指導方法の検証を行う。 (2) 学力テスト等の分析を行い、評価・評定との整合性を検証する。 (3) 「聞く・話す・書くこと」を学校全体の活動や各教科の中で指導し、国語力に還元する。 (4) 放課後や長期休業中に補充学習を行い、学習に遅れが見られる生徒の指導を充実する。	○授業研等、持ち方を工夫することで意見交換が活発になった。 △教科のプロとしての自覚と授業改善への意欲、その持たせ方に課題がある。 △観点別評価Cの生徒への手だてを意識した授業づくりを意識する。 △協同学習の取組方を工夫し、学習への意欲を高める。
生徒指導	(1) 規範意識の向上 (2) 生徒会活動の活性化 (3) 認め合える学級経営 (4) 教育相談活動の充実 (5) SCや相談関係機関と一体となった指導・支援	(1) ベル着指導、下校指導を徹底し、規律に対する意識を高めるとともに授業規律を高める指導を行う。 (2) あいさつや身だしなみ等、基本的なマナーを身に付けさせる。 (3) 生徒会専門部・委員会活動を活性化させる。 (4) 学級委員や班長の指導を充実させ、リーダーを育成する。 (5) 行事や学級の取組を通して、自己存在感や充実感、共感関係をつくる。 (6) 課題意識の高揚、問題事象の早期把握のため、アンケート等を行う。 (7) 教育相談部会を定例化させ、生徒の的確な実態把握と指導方向の確認を行う。 (8) SCと担当者、該当担任が定期的に情報交流し、課題に対する共通認識を図る。 (9) ケース会議をもち、具体的な見立てや手立て等の方向性を確認し、対応を進める。 (10) 関係機関と連携し、生徒個々の課題に対して支援をすすめる。	○問題事象に対して生徒指導部を中心に組織的・原則的に対応できた。 △教職員の危機管理意識が不十分である。(報告・連絡・相談の徹底) ○不登校生徒への指導のあり方を検討・見直し、回復傾向に導くことができた。 ○教育相談部会を定例化し、SCからのアドバイスをもとに指導の方向性が明確になった。 ○定期的に不登校生徒の状況を全教職員に報告し、共通理解しながら指導できた。 ○校区の小中連携会議を学期1回開催し、次年度入学生の授業参観や担任との懇談を通して状況の事前把握ができた。 △個々のケース会議が不十分で指導が適宜に行えなかった。

健康安全	(1) 部活動の活性化 (2) 安心・安全の取組の充実	(1) 出欠記録をとり、無断欠席の生徒には担任・保護者に連絡する。 (2) 校内安全点検を徹底し、危険箇所は早期に修繕する。 (3) 不審者対応を含めた各種避難訓練を実施する。 (4) 危険箇所マップを作成し、PTAと連携して安全指導を行う。	○月1回の安全点検を実施し、危険箇所等を把握した。 ○全校生徒で登下校の危険箇所マップを作成し、PTAにも呼びかけることで安心・安全への意識を高めることができた。
進路指導	(1) 全体計画の見直しと充実 (2) キャリア教育の充実	(1) 従来の全体計画を生徒の実態を踏まえた上で点検・見直し、中学校3年間を見通した進路指導全体計画を作成する。 (2) 総合的な学習の時間と連携し、学年に応じた体験活動を通して進路を考えさせる。 (3) 職場体験学習を充実させる。	○既存の全体計画を見直し、久美中生の実態を踏まえた実践を行った。 △地域の人とのふれあいや意見交流の機会を増やし、2年生職場体験学習をさらに充実させる。
(A)特別支援教育	(1) 生活実態と学習実態の把握 (2) 実態交流と具体的な支援策の検討・提示	(1) 生活・学習アンケートを実施し、個々の生徒の実態を把握する。 (2) 生活や学習に課題のある生徒について気づきを交流する機会をもつ。(エピソード交流) (3) 特別支援部会で個々の生徒のニーズを把握・整理し、具体的な支援策を提示する。	○学習に課題のある生徒について気づきを交流し、実態を共通認識できた。 ○具体的な支援策が交流でき、教師間での刺激になった。 △具体的な支援策を実践・検証し、ニーズに応える。
保護者・地域との連携	(1) 家庭との連携強化 (2) 開かれた学校づくり (3) 小・中連携の充実	(1) 電話で済まらず家庭訪問をする。 (2) 生徒個々の家庭状況を把握する。 (3) 月に1回は、たよりを発行する。 (4) 学期に1回は、懇談会を開催する。 (5) 本校の取組内容や課題を知らせ、意見や協力を得る。 (6) 小・中連携を進め、生徒指導・学力向上の課題を共有化する。	○気になる家庭について来校を促し、より多くの教師が関わる体制を作った。 △適宜、生徒や学校の課題を保護者・地域にも知らせ、解決に向け協力を得る。
次年度に向けた改善の方向性	1 学校経営の柱 (1) 道徳教育をすべての学校教育活動の中心に据え、生徒の心を揺り動かすとともに一人一人の心に迫る指導を通して生きる力を身に付けさせる。 (2) 上記の目標を達成させるための活動や研修、実践を通して教師の意識変革を迫り、併せて指導力を身に付けさせる。 (3) 望ましい久美中生像を共通認識し、協働意識を高めながら目標達成を目指すことで、教師力を身に付けさせるとともに望ましい人材の育成を図る。 2 生徒指導 (1) 生徒指導部を中心に、より組織的な指導を目指すとともに、個々の教師の指導力を高める。 (2) 考え方やとらえ方について生徒の認識や生き方にせまる指導を具体的に実践する。 (3) 生徒会専門部・委員会活動を充実させ、生徒同士が課題意識を持ちながら生活する中で課題解決が図れるよう指導する。 (4) 教職員の危機管理意識を高める。(報告・連絡・相談の徹底) (5) 不登校の解消と未然防止に向け、気になる生徒のケース会議を開催する。(週1回・1事例、参加者～教育相談担当・SC・担任) 3 学習指導 (1) 授業研究を充実させ、授業改善への意識を高める。 ア 「文系・理系・芸術系会議」の充実～授業研の実施、授業・教材づくりのアイデア交流 (2) 協同学習(生徒同士の教え合い学習)の良さを生かし、取組内容を充実させる。 (3) 久美中生の実態を踏まえた学力向上プログラムを検証・改善する。 (4) 学習することへの意欲を引き出しながら効果的な家庭学習について考えさせる。(保護者への協力依頼も含む)		

平成 20 年 度 学 校 評 価 報 告(中学校)

学校名〔京丹後市立高龍中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>豊かな心で主体性に生き抜く生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで学習する生徒 ・ 命・今・仲間を大切にする生徒 ・ 粘り強く最後までやりきる生徒 <p>高龍中学校教育プロジェクトの推進により達成させる。</p>		<p>高龍中学校教育プロジェクトの推進により卒業生全員が第一志望の進学を実現できた。また、全校道徳などで心の教育の充実に努め、問題事象は極めて少なかった。</p> <p>新たな不登校生を出さないという目標を掲げたが、集団に入れず登校を渋る生徒の解消にはいたらなかった。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力の充実 2 豊かな心の育成 3 「時間を守り、場を清め、礼を正す」教職員集団の確立
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	学力の充実・向上	<ol style="list-style-type: none"> 1 主要5教科は必ず授業を公開し、その改善に努める 2 京都式少人数指導により数学科、英語科の学力を向上させる。 3 週程表の工夫による年間授業時数の確保（自習時間の解消） 4 朝読書、ドリル学習、振り返り学習、教え合い学習に毎日取り組む。 	<p>○少人数指導により基礎・基本は一定定着した。（診断テスト、CRT結果から）</p> <p>○どの教科においても振り返り学習や教え合い学習が定着し、生徒が積極的に学習に参加している。</p> <p>△発展的な指導に課題があった。</p>
生徒指導	不登校、登校渋りの解消 規範意識の高揚 挨拶の励行	<ol style="list-style-type: none"> 1 毎日の出欠管理の徹底（迅速な対応、対処） 2 生徒の小さな変化に敏感に気づき、迅速に対応できる体制の確立 3 「はあとほっとタイム」の充実に、より生徒に自信や存在感を持たせるとともに生徒の規範意識の高揚を図る。 	<p>○問題事象は年間を通して0であった。</p> <p>○本校の生徒はよく挨拶するとの評価を来校者や地域からも得ている。</p> <p>△登校渋りの生徒や集団に入れにくい生徒へのより効果的な指導、支援</p>
健康安全	登下校時の安全確保	<ol style="list-style-type: none"> 1 朝は保護者による登校指導、夕方は教職員による下校指導を1年を通して毎日実施 2 「夏みかんの日」の取り組みの中で自転車の安全走行についても徹底を図る。 	<p>○登下校時の事故は全くなかった。</p> <p>○生徒に命の大切さ、生きていることに感謝する姿勢や意識が定着しつつある。</p> <p>△大人の目が届かない場所ではまだ2列、3列並列走行する生徒がまだ存在する。</p>

進路指導	三年生全員が第一志望校への進学の実現	<p>1 広域テスト、学力テスト（過去問題）を定期的実施</p> <p>2 2学期以降、放課後を利用して補修や生徒同士の教え合い学習に取り組む。</p>	<p>○全員が第一希望の進路を実現させた。</p> <p>○職業調べ、職場体験学習等で、将来の職業について、一定の見通し、展望が開けた。</p>
道徳教育	豊かな心を育成	<p>1 全校道徳、学年道徳を毎月実施する。また、異年齢グループを構成しその中での意見交流の充実を図る。</p> <p>2 保護者、地域の人材を活用する講話を学期に1度は実施し、自己の生き方について考えさせる。</p> <p>3 毎月最終金曜日に「心のノート」活用の時間を設定し、自分の言動を振り返る等</p>	<p>○全校生徒が学年、性別関係なく仲が良く、仲間を大切にする意識が高い。</p> <p>○地域学習や奉仕活動の取り組みが定着してきた。</p> <p>△「心のノート」のより有効な活用を実践を通して検証したい。</p>
保護者・地域との連携	学校教育活動の積極的な発信 社会人講師の活用	<p>1 学校便りを毎月発行し、学校の取り組みを発信する。</p> <p>2 高龍中学校教育プロジェクト構想のリーフレットを各家庭、地域へ配布し、本校の目指す取り組みの理解に努める。</p> <p>3 全校道徳や総合的な学習の時間における講話を、できるだけ生徒の身近な地域の人材を活用し、より身近な学習となるよう努める。 また、地域調べにおいても活用する。</p> <p>4 夏季休業中に各地域において福祉活動に取り組む。</p> <p>5 学校内部評価を公開する。</p>	<p>○学校便りやリーフレットの配布、回覧により、本校の取り組みに保護者も地域も大変協力的である。</p> <p>○生徒の地域における生活や行動について、保護者のみならず地域の方々からも多くの情報を得ることができた。</p> <p>○学校内部評価を保護者や関係者に公開し、教育プロジェクトの取り組みに対し一定の評価を得ることができた。</p> <p>△学校評価をより広く公開し、多くの意見等を得ることで、今後の工夫改善につなげなければならない。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>本年度当初の人事異動により、教員の半数以上が入れ替わったので、教育プロジェクトの工夫改善までには至らなかった。次年度は、本年度の総括に基づき、活動内容（総合的な学習など）を大幅に見直し、より深く充実した活動となるよう精選しなければならない。</p> <p>特に、より高い学力の定着を図るため、少人数指導を数学科、英語科だけでなく、国語科においても実施できるよう工夫したい。</p> <p>更に、教員一人一人の資質向上のため、積極的な研修会への参加と、校内研修の内容充実に努めなければならない。</p>		